

鹿児島大学農学部

農場年報

平成29年度
第13号

*Annual Report of the Experimental Farm,
Faculty of Agriculture, Kagoshima University
No. 13, 2017*

鹿児島大学農学部附属農場

*Experimental Farm, Faculty of Agriculture,
Kagoshima University*

目 次

I 概 要	2
1 沿革	2
2 施設の所在地と特色	2
3 組織	3
4 土地および建物	5
5 農機具, 車両および備品	5
II 農場運営	8
1 総務事項	8
2 会計事項	20
3 各種会議および委員会	21
4 入来牧場における牛白血病ウイルス (BLV) 清浄化の進捗状況	24
III 教育活動	25
1 農場実習	25
2 講義	36
IV 研究活動	37
1 研究課題	37
2 研究成果	39
3 研究助成	44
4 学会等活動	44
5 遺伝資源の保存	44
V 地域社会への貢献	54
1 農業技術の啓発	54
2 地域活動に対する支援	55
3 食育と環境教育の取り組み	55
4 施設の公開	56
5 生産物の販売	56
VI 業務事項	57
1 農場生産物の収入見込み額および実績	57
2 施設ごとの生産概況および収入実績	57
3 農場を利用した研究用生産物の収入実績	67
VII 資 料	68
1 農場規則	68
2 実習教育に関する要項	70
3 気象表	72

I 概 要

1 沿 革

鹿児島大学農学部附属農場は、明治41年（1908）、勅令第68号によって創設された鹿児島高等農林学校の実験実習農場として設置された。その後、大正元年に種子島牧場、大正5年に唐湊果樹園、大正7年に指宿植物試験場が相次いで設置され、現在の陣容がほぼ整備された。昭和24年（1949）、法律第150号国立学校設置法により鹿児島大学農学部附属農場となり、昭和43年には種子島牧場が入来町に移転し、入来牧場と改称されるなど幾多の変遷を経て現在に至っている。主な出来事は年譜に示したとおりである。

当場は、農場本部と学内農場農事部、学内農場畜産部、唐湊果樹園、指宿植物試験場および入来牧場の5付帯施設からなる分散型農場であり、それぞれの立地する地域の特性を活かし、特色ある教育・研究を教員、技術職員、事務職員一体となって推進している施設である。農場実習は、機能の異なる5付帯施設において、畜産、果樹、普通作物、野菜、花卉、観葉植物および熱帯作物といった農業のほぼ全分野にわたって実施されている。また、果樹、熱帯植物、花卉、家畜の遺伝資源収集を行っている。さらに、農業技術の指導および公開講座等を介して地域農業発展に取り組んでいる。

<年譜>

明治41年3月(1908) 勅令第68号により鹿児島高等農林学校が創設され実験実習農場設置
 大正元年11月(1912) 附属農場種子島牧場設置
 大正5年7月(1916) 附属農場唐湊果樹園設置
 大正7年10月(1918) 附属農場指宿植物試験場設置
 昭和19年4月(1944) 鹿児島農林専門学校附属農場と改称
 昭和21年2月(1946) 附属農場伊佐総合実験場設置
 昭和24年5月(1949) 法律第150号国立学校設置法により鹿児島大学農学部附属農場設置
 昭和31年3月(1956) 附属農場伊佐総合実験場廃止
 昭和43年3月(1968) 附属農場種子島牧場廃止
 昭和43年4月(1968) 附属農場種子島牧場を薩摩郡入来町に移転し、附属農場入来牧場と改称
 昭和46年4月(1971) 附属農場事務長制設置
 昭和51年7月(1976) 附属農場指宿植物試験場研究宿泊棟竣工
 昭和56年1月(1981) 附属農場研究実習棟竣工
 昭和56年9月(1981) 附属農場唐湊果樹園研究実習棟竣工
 昭和58年3月(1983) 附属農場動物飼育棟竣工
 平成10年9月(1998) 附属農場の将来構想を策定
 平成11年4月(1999) 農場事務長制廃止および附属農場事務の農学部事務部への一元化
 平成19年4月(2007) 施設主任制から植物・動物部門主任制へ変更、技術総括ポストの新設、実習教育委員会の設置と兼任教員制の導入（附属農場規則の改正及び実習教育に関する要項の制定）
 平成20年7月(2008) 附属農場事務の総務係および業務係が事務係へ統合
 平成24年4月(2012) 共同獣医学部の設置に伴い、農学部農場事務係が農学部・共同獣医学部等総務課農場事務係に名称変更

2 施設の所在地と特色

1) 農場本部：〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号

農場の管理運営と企画調整を担当する専任教員組織（主事、植物部門主任および動物部門主任）ならびに農場運営（総務、会計、生産物販売等）を担当する事務部で構成された部門である。

2) 学内農場農事部：〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号

大学構内にある。約3haの用地の中に、水田、畑地、施設ハウスを備え、水稻、畑作物、野菜および花卉を中心とした教育実習と研究を行っている。

3) 学内農場畜産部：〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号

大学構内にある。ウシ、ブタ、ヤギ、ニワトリを飼育する動物飼育棟を中心に、実習教育と研究を行っている。

4) 唐湊果樹園：〒890-0081 鹿児島市唐湊三丁目32番1号

大学キャンパスの西南部2kmに位置した傾斜地に設置された果樹専門の施設である。約7haの用地にカンキツ、ビワなどの常緑果樹、モモ、カキ、ブルーベリー、ブドウ、クリ、スモモ、ウメなどの落葉果樹が栽植され、それらを対象とした実習教育と研究を行っている。また、果樹の遺伝資源施設として国内有数の規模を有している。

5) 指宿植物試験場：〒891-0402 指宿市十町1291

指宿市に設置されている施設（約3ha）である。温暖な気候と温泉熱利用を活かした熱帯・亜熱帯性の作物、野菜、果樹、観賞植物など対象とした実習教育と研究を行っている。また、熱帯・亜熱帯性植物の遺伝資源施設として国内有数の規模を有している。

6) 入来牧場：〒895-1402 薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3

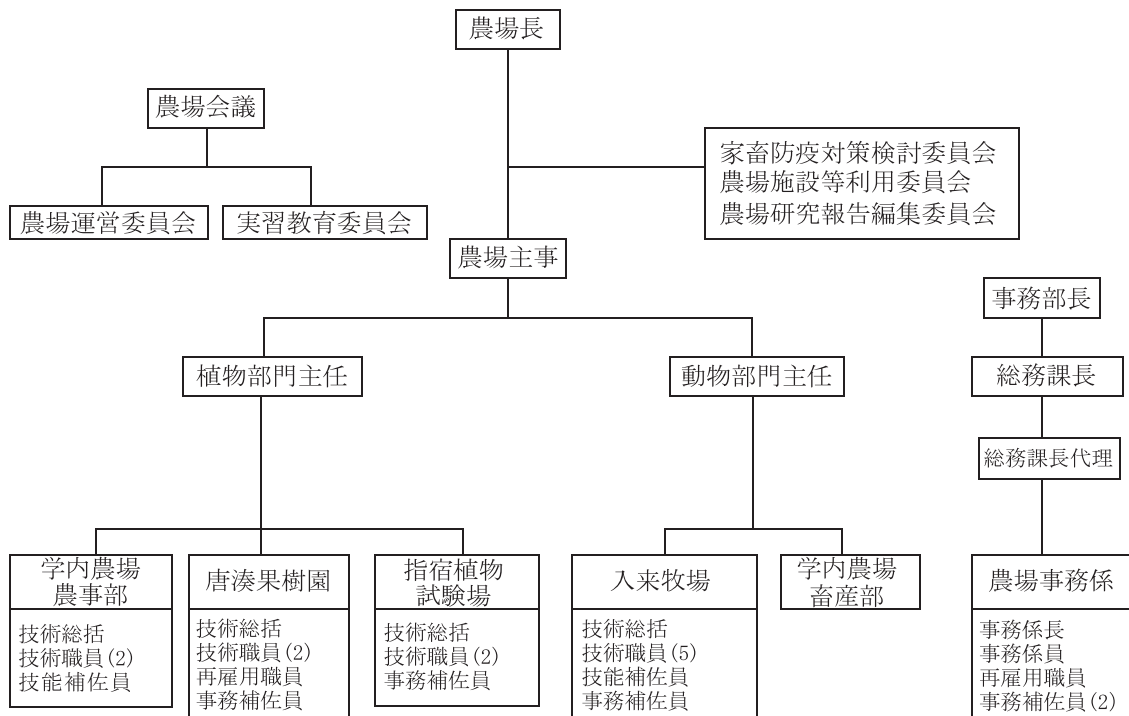
薩摩川内市と鹿児島市の境に位置する八重山の頂上近くに設置された牧場である。総面積147haの敷地で主に黒毛和牛が飼育されている。また、口之島野生化牛やトカラ馬も飼養され、遺伝資源の保存も行っている。入来牧場ではそれらを対象とした実習教育および研究を行っている。

3 組 織

平成19年4月から農場実習の充実と高度化を図るために、実習教育体制と農場運営組織の再編を行った。実習教育に関しては、学理と実習の統合した実習教育を推進するため、施設主任制から兼任教員制に改めるとともに、兼任教員による「実習教育委員会」を新たに設置した。また、家畜飼養に関する衛生管理を強化するために「家畜防疫対策検討委員会」を設置した。

農場の運営組織としては、施設主任制から部門主任制に移行するとともに、部門主任を農場本部付きとした。また、各施設の技術職員組織に技術総括ポストを新たに設けた。

1) 組織図



2) 職員配置

農場長（兼任）、主事、植物部門主任（学内農場農事部、唐湊果樹園、指宿植物試験場担当）および動物部門主任（入来牧場、学内農場畜産部担当）が配置され、学内畜産部を除いた各施設には、技術総括が1名と技術職員が配置されている。技術職員は技術総括を含め、農事部3名、唐湊果樹園4名（うち再雇用1名）、指宿植物試験場3名、入来牧場6名で、総勢16名である。なお、学内農場農事部と入来牧場には技能補佐員各1名が配置されている。また、事務職員は3名（うち再雇用1名）、事務補佐員は5名の配置となっている。

第1表 職員配置および人数

区 分	教授	准教授	助教	技術総括	技術職員	技能補佐員	事務職員	事務補佐員
農場長	[1]							
農場本部								
農場主事	1							
植物部門主任		1						
動物部門主任		1						
学内農場農事部				1	2	1		
学内農場畜産部								
唐湊果樹園				1	3			1
指宿植物試験場				1	2			1
入来牧場				1	5	1		1
事務部							3	2
合 計	1[1]	2		4	12	2	3	5

[]は兼務

3) 職員名簿 (平成30年3月31日現在)

農場長 (兼任)	教 授	津田 勝男 (害虫学研究室)
主 事	教 授	遠城 道雄
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
動物部門主任	准教授	大島 一郎
(学内農場農事部)		
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
技術総括	技術専門職員	野村 哲也
	技術職員	中野 八伯
	技術職員	クアシ グエサン ルシエン (育休代替)
	(技術専門職員	濱田 延枝 産休・育休期間中)
	技能補佐員	津留見芳史
(学内農場畜産部)		
動物部門主任	准教授	大島 一郎
(唐湊果樹園)		
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
技術総括	技術専門職員	福留 弘康
	技術専門職員	廣瀬 潤
	技術職員	西澤 優
	再雇用職員	川口 昭二
	事務補佐員	相場 可奈 (農場事務係)
(指宿植物試験場)		
植物部門主任	准教授	朴 炳宰
技術総括	技術専門職員	谷村 音樹
	技術職員	田浦 一成
	技術職員	勘米良祥多
	事務補佐員	岩下 愛 (農場事務係)
(入来牧場)		
動物部門主任	准教授	大島 一郎
技術総括	技術専門職員	片平 清美
	技術専門職員	松元 里志
	技術専門職員	富永 輝
	技術職員	石井 大介
	技術職員	飯盛 葵
	技術職員	柳田 大輝
	技能補佐員	関 綾子
	事務補佐員	野川恵美子 (農場事務係)

I 概 要

(農学部・共同獣医学部等総務課)

農場事務係	係 長	宇都山清孝
	係 員	有働 穰嗣
	再雇用職員	大迫 重幸
	事務補佐員	園田真由美
	事務補佐員	宿里 香代

4 土地および建物

農場の所有する土地および建物の面積を第2表と第3表に示した。

第2表 施設毎の土地面積

単位：㎡

区 分	学内農場農事部	唐湊果樹園	指宿植物試験場	入来牧場	計
水田	13,960	0	0	0	13,960
畑（含む採草地）	6,706	6,850	10,436	980,000	1,003,992
果樹園	0	42,608	3,994	0	46,602
放牧地	0	0	0	448,440	448,440
温室	600	396	1,550	0	2,546
ビニールハウス	282	3,520	5,350	0	9,152
建物敷地その他	10,442	19,308	9,394	50,011	89,155
合 計	31,990	72,682	30,724	1,478,451	1,613,847

第3表 施設毎の建物面積

<本部・学内農場農事部・畜産部>

<唐湊果樹園>

単位：㎡

建物名称	構 造	面 積	建物名称	構 造	面 積
研究実習棟	R2	881	研究実習棟	R2	808
堆肥舎	R1	91	温室	S1	204
動物飼育棟	S1	678	燃料庫	B1	4
管理棟	R2	160	硬質ハウス	S1	192
リサイクル場・資源有機物	S1	77			
農機具庫	S1	38			
合 計		1,925	合 計		1,208

<指宿植物試験場>

<入来牧場>

単位：㎡

建物名称	構 造	面 積	建物名称	構 造	面 積
研究棟・宿泊施設	R3	821	管理棟	R2	659
収納庫	w1	93	畜舎棟	R2	1,910
倉庫	w1	40	燃料庫	B1	12
堆肥舎	B1	30	肥育牛舎	S1	1,500
農具庫・倉庫	B1	119	堆肥舎	S1	320
便所	R1	15	牛舎	S1	672
植物温室	S1	137			
果樹温室	S1	208			
花卉温室	S1	312			
蔬菜温室	S1	330			
植物温室	S1	210			
合 計		2,315	合 計		5,073

5 農機具、車両および備品

農場で現有している農機具と車両の一覧表を第4表に、備品を第5表に示した。本年度に新規購入した農機具および車両は第7表に示した。

第4表 施設毎の農機具および車両

施 設 名	農機具名及び車両	メーカー・型式	用 途	購入年月
学内農場農事部	普通乗用車	トヨタ PROBOXV PX	乗 用	H19. 6
	トラクター	ヤンマー US-36	農耕用	H11.12
	乗用田植機	ヤンマー PE-IX.S	〃	H16. 6
	耕 転 機	ヤンマー	〃	H 2. 3
	〃	ヤンマー YA70FA	〃	H 8. 7
	脱 穀 機	ヤンマー YAPKA6DE	〃	H 2.10

	トラクター	ヤンマー FX215	農耕用	S63. 9
	籾すり機	ロータリーハラ RHS400A	〃	H10.10
	籾摺精米機	細川製作所 MR1901E	〃	H29. 2
	マニユアスプレッダー	デリカ DAM-1530S	〃	H 2. 3
	乾 燥 機	ヤマモト NCD FX3	〃	H 8. 3
	〃	金子農機 BBF-202-NSP	〃	H13. 5
	ハイベアラ	スター THB1050	〃	H 9. 3
	運 搬 車	ヤンマー VP8GD	〃	H 9. 9
	〃	ヤンマー FG190SD, 4WD	〃	H29. 3
	タマネギ移植機	ヤンマー PM2-D24	〃	H17.11
	コンバイン	ヤンマー GC323VXJ	〃	H18. 3
	ポット土入機	スズテック STK-37PS	〃	H19. 3
	ロータリー	ヤンマー RB15SG	〃	H20. 4
	〃	ニプロ CX18100S・CX10-STA	〃	H20.10
	1 輪管理機	ヤンマー SK65	〃	H21. 2
	軽トラック	ダイハツ 農用スペシャル 4WD	〃	H21. 2
	トラクター	ヤンマー FE122・VUKS4G	〃	H22. 2
	ハウス用ヒートポンプ	イーズ社 SPW-AGCHVP180EN	〃	H24. 3
	運 搬 車	ヤンマー FG183SD4WD	〃	H10. 3
	製粉・粉碎機	ひかり号 A2型	〃	H24.11
	電動ふるい機	國光社 SN-K型	〃	H27. 3
	自走二面畦草刈機	オーレック WM736B	〃	H29. 2
	動力噴霧器	共立 VSC361A	〃	H29. 2
唐湊果樹園	貨物自動車	いすゞダンプ PB-NKR81AN	輸送用	H16.11
	ミニ油圧ショベル	コマツ PC25-1	土木用	H 8. 3
	トラクター	ヤンマー KE40ASZ	農耕用	H10. 3
	ローダー	ボブキャット 453型	〃	H11. 6
	ブレードキャスター	タカキタ BS-521SSY	〃	H13. 2
	スプレイヤー	共立 SSV-661 FS	〃	H 4. 3
	〃	共立 SSV553F	〃	H25. 3
	運 搬 車	ヤンマー FG183SD4WD	〃	H13. 3
	〃	ヤンマー MCG1500 LD	〃	H15. 3
	〃	筑水 ELS670-KCDP	〃	H19. 1
	〃	ヤンマー FG185SD B-4	〃	H21. 3
	歩行型ハンマーナイフ	オーレック SHM 80-Y	〃	H12. 1
	歩行型草刈機 (モア)	オーレック BM91	〃	H25. 6
	畦草刈機	共立 AZ851	〃	H29. 2
指宿植物試験場	乗用モア	共立 RM981/K	〃	H26. 8
	軽自動車	スズキ エブリイ HBD-DA17V	乗 用	H28.12
	普通貨物自動車	マツダ タイタンダッシュ	輸送用	H17.12
	運 搬 車	イセキ SL375DSE	農耕用	H 8. 2
	〃 2台	イセキ SL380DSE	〃	H 9. 3
	〃 〃	イセキ AM61L	〃	H18. 3
	マルチロータリー	イセキ RAY1207	〃	H18. 3
	スキッドステアローダー	TCM	〃	H18. 3
	トラクター	イセキ TH193Q・ARH143S	〃	H22. 3
	乗用型ロータリーモア	ヤンマー SRM1010VH	〃	H 9. 6
入 来 牧 場	掘 取 機	ニプロ D65-AH	〃	H27. 1
	貨物自動車	トヨタダイナ KK-XZU421	輸送用	H12. 9
	〃	トヨタダイナ KK-XZU400A	〃	H16. 2
	普通乗用車	トヨタ PROBOX VPX	〃	H19. 3
	軽トラック	ダイハツ ハイゼット EBD-S510P-TMRF	〃	H27. 9
	トラクター	ジョンディア JD-6200DPMSGH	農耕用	H12. 3
	〃	ジョンディア JD-6410	〃	H13. 2
	〃	ジョンディア JD-6215	〃	H15. 8
	マニアスプレッダー	ジョンディア JD-4	〃	H 7. 3
	〃	ヤンマー	〃	H17. 7
	ロールベアラ	ジョンディア JD-570	〃	H12.10
	フロントローダー	ジョンディア JD-851PC	〃	H15. 8
	ジャイロレーキ	ヤンマー GRY6501H	〃	H18. 3
	ジャイロテッダー	ヤンマー GTY6400H	〃	H20. 3
	バーチカルハロー	スガノ DC230SP	〃	H19. 3

I 概 要

フロントローダー	イセキ	農耕用	H19. 3
トラクター	イセキ T5095DGLCY22	〃	H19. 3
ボランドⅡ	生石灰ボランド仕様 EP6045Ⅱ	〃	H20. 7
ベールディストリビュータ	ヤンマー T-12 HBL	〃	H21. 2
ディスクハロー	レムケン社 8/300R	〃	H23. 9
ホイルローダー	ヤンマー V5-1-90-E	〃	H25.12
ミートチョッパー卓上	長沼製作所 NCS-22	〃	H26. 1
カッター	長沼製作所 NHY-20	〃	H26. 1
油圧スタッファー	長沼製作所 EM-30	〃	H26. 1
ロールベラー	McHale F5400	〃	H26. 9
マニュアルスプレッダ	タカキタ LD8800	〃	H27. 3
ディスクモア	フェラー SM270P	〃	H28. 5
ブームスプレーヤ	(株)やまびこ BSM511R/E	〃	H29. 3
臨床化学自動分析装置	スッポトケム EZ SP-4430	研究用	H18. 4

第5表 施設毎の備品

施設名	物 品 名	規 格	用 途	購入年月	取得価額
主事研究室	プラント・キャノピーアナライザー	メイワフォーシス LAI-2000	解析装置	H20.11	1,872,570
学内農事部	食味分析計	PS-500型	測定装置	H15. 3	1,134,000
学内畜産部	超音波診断装置	SON-TITAN-A	診断装置	H18. 3	2,100,000
唐湊果樹園	枝葉木粉碎機	セツア SRE110	粉碎機	H15. 3	893,550
入来牧場	臨床化学自動分析装置	スッポトケム EZSP-4430	分析装置	H18. 4	1,050,000
入来牧場	マイクロプレートリーダー	パイオテック NJ-2300	測定装置	H19. 4	630,000
入来牧場	自動哺乳システム (牛用プレミアムボーイ SA)	独 FORSTER TECHNIK 製	自動哺乳装置	H19.12	2,100,000
入来牧場	カートリッジ式全自動酸化 エチレングス滅菌器	エルクコーポレーション SA-N540	診療装置	H20. 5	1,298,850
入来牧場	血球計算機	POCH 100ivDiff	測定装置	H20. 5	1,396,500
入来牧場	高温高圧洗浄機	ケルヒヤージャパン HDS8/14C	診療装置	H20. 6	525,000
入来牧場	パーソナルマルチガスインキュベータ	アステック APM-30D	診療装置	H20. 9	577,500
入来牧場	動物用超音波診断装置	アロカ ProSound2	診断装置	H21. 1	3,570,000
入来牧場	分娩監視装置	養牛カメラ	監視装置	H21.11	961,590

Ⅱ 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2017. 4. 1 異動
川口 昭二：唐湊果樹園再雇用職員（前唐湊果樹園技術専門職員）
2017. 4. 17 採用
クアシ グエサン ルシエン：学内農場農事部 技能補佐員（濱田技術専門職員の産休代替）
2017. 8. 20 クアシ グエサン ルシエン：学内農場農事部 技術職員（濱田技術専門職員の育休代替）
2017. 9. 30 異動（転出）
山下 聖二：動物病院事務係長（前農場事務係長）
2017. 10. 1 異動（転入）
宇都山清孝：農場事務係長（前動物病院事務係長）

2) 技術職員研修

（1）伐木等業務（チェーンソー等）特別教育講習

時 期：平成29年 4 月21日～22日
場 所：鹿児島県銘木市場協同組合，周辺山林
研修者：入来牧場 飯盛葵技術職員，柳田大輝技術職員，唐湊果樹園 西澤優技術職員

（2）刈払機取扱作業者安全教育講習

時 期：平成29年 4 月23日
場 所：鹿児島県銘木市場協同組合，周辺草地
研修者：入来牧場 飯盛葵技術職員，柳田大輝技術職員，唐湊果樹園 西澤優技術職員

（3）第62回冬季検査委員（支部審査委員）認定講習会

時 期：平成29年11月20日～22日
場 所：始良中央家畜市場研修室
研修者：入来牧場 石井大介技術職員

（4）車両系建設機械（聖地・運搬・積込み用および掘削用）運転技能講習

時 期：平成30年 1 月22日～26日
場 所：鹿児島教習所
研修者：入来牧場 石井大介技術職員

（5）2017年度信州大学実験・実習技術研究会

時 期：平成30年 2 月28日～3 月 2 日
場 所：信州大学長野キャンパス
研修者：入来牧場 富永輝技術専門職員，指宿植物試験場 田浦一成技術職員

3) 農場施設の利用

農場では，学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

（1）学外

（学内農場農事部）

- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成29年 4 月12日～19日 160名
内容：田んぼや畑にいる生き物とふれ合う活動を通して，季節の特徴的な事物や現象に気づき，季節感を養う
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成29年 4 月28日 72名
内容：小学校生活科「春をさがそう」で，春の草花や昆虫など実際に触れながら観察をする
- ・認定こども園めぐみ幼稚園
時期：平成29年 5 月 9 日 77名
内容：幼児の体験活動のため（イモの苗の植え方を知る・土の感触を味わう・自然の中でのびのびと遊ぶ）

- ・鹿児島市立甲南中学校
時期：平成29年5月23日～25日 4名
内容：職場体験学習
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成29年6月5日～30日 160名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学。田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成29年6月29日 125名
内容：総合的な学習の時間に田植え体験や観察を通して、農作物に関心を持ち、今後の調べ学習のテーマ設定に役立てる
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成29年6月28日 72名
内容：小学校理科（3年）で、身の回りの昆虫を見つけ、体のつくりや育ち方、すみかや食べ物を調べるための、昆虫採集
- ・鹿児島市立荒田小学校
時期：平成29年7月14日 72名
内容：小学1年生生活科で、「くさばなやむしをさがそう」という、夏の草花や昆虫に実際に触れながら観察をする
- ・国分中央高校
時期：平成29年7月25日 10名
内容：施設見学
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成29年8月28日～31日 35名
内容：2年生生活科「さんぽ」農場見学。田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成29年9月14日～15日 126名
内容：総合的な学習の時間で、稲の観察を通して、農作物の成長の様子を知り、携わってくださる方々へ感謝の気持ちを持つ。稲の成長の様子を記録し、さらに関心を持ったことを調べる
- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成29年9月29日 126名
内容：総合的な学習の時間で、稲の観察を通し、農作物の成長の様子を知り、携わってくださる方々へ感謝の気持ちを持つ。稲の成長の様子を記録し、さらに関心を持ったことを調べる
- ・鹿児島大学教育学部附属小学校
時期：平成29年10月16日～27日 155名
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・認定こども園めぐみ幼稚園
時期：平成29年10月18日 78名
内容：幼児の体験活動のため、秋の実りを知り、いもほりを体験する。土の感触を味わい、秋の自然の中でのびのびと遊ぶ
- ・鹿児島大学教育学部附属中学校
時期：平成29年10月30日～31日 4名
内容：職場体験学習
- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成29年11月13日 126名
内容：総合的な学習の時間に稲の観察や稲刈りの体験を通して農作物の成長の様子を知り、携わってくださる方々へ感謝の気持ちを持つ。稲の成長の様子を記録し、さらに関心を持ったことを調べる
- ・鹿児島市立八幡小学校
時期：平成29年11月27日 126名
内容：総合的な学習の時間に、稲の観察や脱穀体験を通して農作物の成長の様子を知り、携わってくださる方々へ感謝の気持ちを持つ。稲の成長の様子を記録し、さらに関心を持ったことを調べる

・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成30年1月15日～31日 155名

内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

・鹿児島大学教育学部附属小学校

時期：平成30年3月9日～22日 155名

内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

(唐湊果樹園)

・連合農学研究科（佐賀大，琉球大，鹿大農学部・水産学部）

時期：平成29年8月7日 4名

内容：栽培施設の見学

・鹿児島大学教育学部附属中学校

時期：平成29年10月30日～31日 4名

内容：職場体験学習

・鹿児島大学教育学部附属幼稚園

時期：平成29年11月21日 77名

内容：みかん狩り体験を通して、収穫の喜びを味わったり、草花や虫と触れ合ったりして秋の自然に親しむ

・認定こども園 紫原幼稚園

時期：平成29年12月5日 77名

内容：園外保育での果樹園の見学

・済州島農業技術院亜熱帯果樹担当者

時期：平成29年12月18日 3名

内容：唐湊果樹園の亜熱帯果樹の見学

(指宿植物試験場)

・指宿熱帯果樹研究会

時期：平成29年4月11日 10名

内容：地域貢献の一環として、農家などにアドバイスを行っている指宿熱帯果樹研究会の意見交換会および試験場内の視察

・指宿熱帯果実振興会

時期：平成29年6月17日 10名

内容：地域貢献の一環として、農家などにアドバイスを行っている指宿熱帯果実振興会による試験場内視察と意見交換

・鹿児島県立農業大学校農学部果樹科

時期：平成29年7月20日 7名

内容：視察研修を行うことにより、多様な熱帯、亜熱帯果樹の品種特性、栽培管理技術、大学での研究先進技術について習得する。さらに、指宿地域における果樹の生育状況について習得する

・指宿熱帯果実振興会

時期：平成29年9月16日 10名

内容：地域貢献の一環として、農家などにアドバイスを行っている指宿熱帯果実振興会による試験場内視察と意見交換を行う

・一般市民

時期：平成29年9月11日 4名

内容：アボガドの栽培の技術、繁殖及びスターフルーツの鉢栽培の技術習得のため。特にアボガドの接ぎ木、二段接ぎ木のコツ

・指宿熱帯果樹研究会

時期：平成29年11月15日 10名

内容：地域貢献の一環として協力している指宿熱帯果樹研究会による視察と現地検討会を開催するため

・雲南農業大学

時期：平成29年12月7日 15名

内容：グローバル人材育成（雲南）研修のため

Ⅱ 農場運営

- ・福岡教育大学・長崎大学・鹿児島大学生物育成合同ゼミ
時期：平成29年12月9日～10日 22名
内容：第五回福岡教育大学・長崎大学・鹿児島大学生物育成合同ゼミ～生物育成教材研究セミナー～の開催と熱帯性（暖地型）植物の教材利用に関する検討。施設見学
- ・済州島農業技術院亜熱帯果樹担当者
時期：平成29年12月18日 3名
内容：指宿植物試験場の亜熱帯果樹の見学
- ・ニチレイフーズ
時期：平成30年1月23日～24日 5名
内容：アセロラ栽培に関する共同研究の現地視察及び研究計画検討
- ・沖縄県北部農林水産振興センター農業改良普及課
時期：平成30年3月8日 4名
内容：温泉熱を利用した加温ハウスでの熱帯果樹研究について視察
- ・指宿熱帯果実振興会
時期：平成30年3月17日 10名
内容：地域貢献の一環として、農家などにアドバイスを行っている指宿熱帯果実振興会による試験場内視察と意見交換を行う。

（入来牧場）

- ・日本友愛協会
時期：平成29年6月2日 4名
内容：日本友愛協会が受け入れたミャンマー人研修生による施設見学
- ・西伊敷ソフトボール少年団
時期：平成29年7月16日 31名
内容：牧場見学および食育体験
- ・一般市民
時期：平成29年8月4日 10名
内容：入来牧場の見学
- ・日東電工株式会社
時期：平成29年8月8日 6名
内容：牧場内視察
- ・ノガミ産業
時期：平成29年10月3日 2名
内容：ブタ飼育場の視察
- ・桜ヶ丘七桜会
時期：平成29年11月6日 25名
内容：牧場見学
- ・鹿児島県森林組合連合会
時期：平成30年1月19日 2名
内容：牧場隣接地の薩摩川内市有林（森林整備公社分収林）での植栽工事着工前のUAV写真撮影および、同市有林（分収林以外）での災害地の森林保険業務に係るUAV測量のための撮影
- ・山梨県立韮崎高校
時期：平成30年1月31日 40名
内容：入来牧場内に設置されている鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設見学

（2）学内

（学内農場）

平成29年度

4月13日	作物生産学講座3年生の研究室振り分けに関するオリエンテーション（23名）
4月14日	大学院科目「害中学特論」の講義（24名）
4月18日	作物生産学講座3年生の研究室分けに関する2回目のオリエンテーション（24名）
4月20日	農業土木学実験において畑地における水の浸透試験の実施（15名）
6月16日	工学部情報生体システム工学科生の卒業研究で使用するピーマンの画像撮影（2名）

7月7日	機械学習を用いた作物の病害・成長識別に関する研究（5名）
7月20日	共通教育科目「国際協力体験講座」事前打ち合わせおよび現地での演目練習（4名）
(動物飼育棟(学内畜産部))	
	該当無し
(唐湊果樹園)	
5月26日	樹木学実習の実施及びその準備作業として樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採取を実施（15名）
6月2日	樹木学実習の実施及びその準備作業として樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採取を実施（15名）
6月9日	樹木学実習の準備作業として樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採取を実施（3名）
7月21日	樹木学実習の準備作業として樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採取を実施（3名）
7月28日	樹木学実習の準備作業として樹木の観察及び腊葉標本にするための枝葉の採取を実施（3名）
2月6日	果樹剪定枝技術講習（3名）
(指宿植物試験場)	
4月29日～30日	遺伝資源保存用のヤマイモ・ウコンの定植（13名）
5月23日	遺伝資源保存用のヤマイモの支柱立てと除草作業（9名）
7月4日	遺伝資源保存用ヤマイモの除草作業（5名）
7月13日	ケナフの定植および管理作業（3名）
7月12日～12月20日	教育学部の教育研究で使用するクワの挿し木増殖（2名）
8月9日	ケナフの管理作業（1名）
8月25日	カンゾウの挿し木実験（2名）
8月31日	ケナフの管理作業（1名）
10月15日	ケナフの管理作業（1名）
11月21日	修士・卒業論文のため：ヤマイモおよびウコン収穫の準備（3名）
11月25日～26日	ヤマイモおよびウコン収穫・調査（14名）
2月18日	長命草の定植，ケナフの収穫（1名）
3月25日	長命草の管理，ケナフ栽培の準備（1名）
3月25日	遺伝資源保存用のヤマイモ消毒と圃場準備（11名）
(入来牧場)	
4月1日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名）
4月2日，3日，5日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名）
4月6日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 9区に設置している柵の撤去作業（8名）
4月7日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名）
4月8日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名）
4月8日，9日	卒論研究のための飼養管理（3名）
4月10日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名）
4月11日	修論研究のためのシカの飼養管理，早朝シカ確認調査（1名） 入来牧場内に設置されている鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設へ，鹿児島大学理学部物理科学科新入生オリエンテーションの一環として，学生および指導教員が施設の見学を行うため（51名）
4月12日，13日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名）
4月14日	修論研究のためのシカの飼養管理，及びライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
4月15日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
4月16日	卒論研究のための飼養管理（3名）
4月17日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
4月18日～21日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査，早朝シカ調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
4月21日	シカに関する調査（ドローンの夜間飛行）（1名）

Ⅱ 農場運営

4月22日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名）
4月24日～25日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
4月26日～27日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
4月27日	2017年度卒論研究の実施に関する打合せ（6名）
4月28日	修論研究のためのシカの飼養管理，早朝シカ確認調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
4月29日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
4月30日～5月1日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
5月1日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
5月2日～4日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
5月5日	卒論研究のための飼養管理（2名）
5月6日，7日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（2名）
5月8日～9日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
5月10日	修論研究のためのシカの飼養管理，早朝シカ確認調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
5月11日	修論研究のためのシカの飼養管理，ライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 研究協定（牧場における野生シカの侵入防止に関する研究）に関するニホンジカ用箱罟の撤去（2名） シカの侵入状況の調査（5名）
5月12日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
5月13日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名）
5月14日～16日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
5月17日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査，早朝シカ調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
5月18日	実験材料運搬（1名）
5月18日～22日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
5月23日～24日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査，ライトセンサス（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名） 牧草地におけるシカ害防除に関する調査（1名） 9区整備（15名）
5月25日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 肥育牛の第一胃内性状調査および実験材料運搬（6名）
5月26日	修論研究のためのシカの飼養管理，早朝シカ確認調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
5月27日～29日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（2名）
5月30日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
5月31日	修論研究のためのシカの飼養管理，電気柵への行動反応調査，シカ罟設置（2名）

	卒論研究のための飼養管理 (1名)
6月1日	修論研究のためのシカの飼養管理, シカ見回り (2名) 卒論研究のための飼養管理 (4名)
6月2日～6日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月7日, 8日	卒論研究のための飼養管理 (4名)
6月8日	修論研究のためのシカの飼養管理, ライトセンサス (4名) 草地カメラ設置 (1名)
6月9日	修論研究のためのシカの飼養管理, 早朝シカ調査 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月10日～13日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月14日	修論研究のための飼養管理, 飼育シカ試験, シカ見確認 (2名) 卒論研究のための飼養管理, 行動調査 (3名) 豚の行動管理に関する調査 (1名) 草地カメラチェック (1名)
6月15日	修論研究のためのシカの飼養管理, シカ見確認 (1名) 卒論研究のための飼養管理, 放牧山羊衛生管理 (4名)
6月16日	修論研究のためのシカの飼養管理, 早朝シカ調査 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月17日, 18日	卒論研究のための飼養管理 (1名)
6月19日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (2名)
6月20日	修論研究のためのシカの飼養管理, 飼育シカ試験, シカ見確認 (2名) 卒論研究のための飼養管理 (4名) 草地カメラチェック (1名)
6月21日～23日	修論研究のためのシカの飼養管理, 飼育シカ試験 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (4名)
6月24日, 25日	卒論研究のための飼養管理 (2名)
6月26日, 27日	修論研究のためのシカの飼養管理, シカ見確認 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月28日	卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月29日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
6月30日	修論研究のためのシカの飼養管理, 早朝調査 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月1日～5日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月6日	山羊放牧地管理 (6名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月7日	修論研究 (飼育シカに関する調査) のためのシカの飼養管理, ライトセンサス (4名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月8日	修論研究 (飼育シカに関する調査) のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月10日	肉用牛の飼養管理に関する研修および施設見学 (1名)
7月9日～14日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月15日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (2名)
7月16日	修論研究のためのシカの飼養管理 (1名) 卒論研究のための飼養管理 (3名)
7月17日, 18日	修論研究のためのシカの飼養管理, 飼育シカ試験 (4名)

Ⅱ 農場運営

	卒論研究のための飼養管理（3名）
7月19日	修論研究のためのシカの飼養管理，ライトセンサス（3名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
7月20日	卒論研究のための飼養管理（3名） 放牧山羊の衛生管理に関する調査（5名）
7月21日，22日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
7月23日，24日	修論研究のためのシカの飼養管理，飼育シカ試験（4名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
7月25日，26日	修論研究のためのシカの飼養管理，データ回収（3名） 卒論研究のための飼養管理，行動調査（4名）
7月27日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，ローダー研修（8名）
7月28日	卒論研究のための飼養管理（3名）
7月29日～31日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月1日	卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
8月2日	卒論研究のための飼養管理，牛の餌おろし（4名）
8月3日	卒論研究のための飼養管理（3名）
8月4日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月5日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（2名） 入来牧場内に設置されている，国立天文台VERA入来観測局および，1m光赤外線望遠鏡を オープンキャンパスの一環として，見学を行うため（40名）
8月6日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月7日	卒論研究のための飼養管理（3名）
8月8日	修論研究のためのライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月9日	修論研究（飼育シカに関する調査）のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 放牧山羊の衛生管理に関する調査（5名） 草地カメラチェック（1名）
8月10日，11日	卒論研究のための飼養管理（3名）
8月12日	修論研究のためのシカの飼養管理，早朝調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月13日	卒論研究のための飼養管理（3名）
8月14日～16日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月17日	修論研究のためのシカの飼養管理，罟設置，ライトセンサス（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
8月18日	修論研究のためのシカの罟チェック（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月19日	修論研究のためのシカの飼養管理，罟チェック（1名） 卒論研究のための飼養管理（2名） 入来牧場内に設置されている，国立天文台VERA入来観測局および，1m光赤外線望遠鏡を オープンキャンパスの一環として見学するため（40名）
8月20日～24日	修論研究のためのシカの飼養管理，罟チェック（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）

8月22日	草地カメラチェック（1名）
8月25日	卒論研究のための飼養管理（3名）
8月26日～28日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月29日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 放牧山羊衛生管理（8名） 草地カメラチェック（1名）
8月30日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
8月31日	卒論研究のための飼養管理（3名）
9月1日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 9区草料調査（7名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
9月2日～5日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
9月6日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，行動調査（3名） 草地カメラチェック（1名）
9月7日，8日	修論研究のためのシカの飼養管理，ライトセンサス（3名） 卒論研究のための飼養管理（2名）
9月9日～11日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
9月12日，13日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，24時間行動観察（6名）
9月14日，15日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
9月16日～18日	卒論研究のための飼養管理（3名）
9月19日～21日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
9月22日，23日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，行動調査（3名）
9月22日	竹粉サイレージを給与した肥育牛のルーメン内性状に関する調査（1名）
9月24日	卒論研究のための飼養管理（3名）
9月25日，26日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
9月27日	卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
9月28日～30日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月1日～3日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月3日	草地カメラチェック（1名）
10月4日	卒論研究のための飼養管理，試験牛採血（2名）
10月5日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，24時間行動調査（8名）
10月6日	修論研究のためのシカの飼養管理，ライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理，24時間行動調査（8名）
10月7日，8日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月9日	卒論研究のための飼養管理（3名）
10月10日	口之島野生化牛の体格に関する調査（1名）

Ⅱ 農場運営

10月10日～14日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月15日	卒論研究のための飼養管理（2名）
10月16日～17日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月17日	草地カメラチェック（1名）
10月18日，19日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，行動調査（6名）
10月20日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月21日，22日	飼養管理（1名）
10月23日～26日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月24日	草地カメラチェック（1名）
10月26日	肥育牛の第一胃内溶液性状ならびに山羊の衛生管理に関する調査（8名）
10月27日	卒論研究のための飼養管理（1名）
10月28日，29日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
10月30日，31日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
10月31日	草地カメラチェック（1名）
11月1日～3日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月4日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
11月5日，6日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月7日	修論研究のためのライトセンサス（3名） 草地カメラチェック（1名） 入来牧場内に設置されている，国立天文台VERA入来観測局へ，理学部物理科学科3年授業「天体観測実習」の一環として，受講登録学生および引率教員とで，鹿児島大学1m光赤外線望遠鏡施設の見学を行うため（30名）
11月7日～9日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月10日	修論研究のためのシカの早朝調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
11月11日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
11月12日	卒論研究のための飼養管理（1名）
11月14日	卒論研究のための飼養管理，体重・体尺測定（3名） 草地カメラチェック（1名）
11月15日	修論研究のためのシカの飼養管理，早朝調査（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
11月16日，17日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月18日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
11月19日，20日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月21日	卒論研究のための飼養管理，および行動調査（6名） 草地カメラチェック（1名）
11月22日	修論研究のためのシカの早朝調査（1名） 卒論研究のための飼養管理，および行動調査（6名）
11月23日，24日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月25日	修論研究のためのシカの飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
11月26日，27日	卒論研究のための飼養管理（3名）

11月28日	卒論研究のための飼養管理（3名） 肥育牛の第一胃内溶液性状に関する調査（4名） 草地カメラチェック（1名）
11月29日，30日	卒論研究のための飼養管理（3名）
11月29日	黒毛和種の鼻腔粘膜試料のサンプリング（2名）
12月1日	卒論研究のための飼養管理（2名）
12月2日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（4名）
12月3日，4日	卒論研究のための飼養管理（3名）
12月5日	卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
12月6日～11日	卒論研究のための飼養管理（3名）
12月12日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理，行動調査（6名） 草地カメラチェック（1名）
12月13日	修論研究のための飼養管理，ライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理，行動調査（6名）
12月14日～18日	卒論研究のための飼養管理（3名）
12月14日	肥育牛の第一胃内溶液性状に関する調査（1名）
12月19日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名） 理工学研究科地域コト作りセンター所管の「鹿児島ハイブリッドロケット研究会」にて，研究テーマとしてパラシュートの自動解放の確認試験他を行う（15名）
12月20日～25日	卒論研究のための飼養管理（3名）
12月26日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
12月27日	卒論研究のための飼養管理（3名）
12月28日～1月4日	卒論研究のための飼養管理（1名）
1月5日	卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
1月6日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
1月7日，8日	卒論研究のための飼養管理（3名）
1月9日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）
1月10日～12日	卒論研究のための飼養管理（3名）
1月13日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（3名）
1月14日，15日	卒論研究のための飼養管理（3名）
1月16日	修論研究のためのライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理（1名） 草地カメラチェック（1名）
1月17日	卒論研究のための飼養管理（3名）
1月18日，19日	卒論研究のための飼養管理，行動調査（6名）
1月20日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
1月21日，22日	卒論研究のための飼養管理（2名）
1月23日	卒論研究のための飼養管理（3名） 草地カメラチェック（1名）

Ⅱ 農場運営

	肥育牛の第一胃内溶液性状に関する調査（1名）
1月24日～26日	卒論研究のための飼養管理（3名）
1月27日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
1月28日，29日	卒論研究のための飼養管理（2名）
1月30日	卒論研究のための飼養管理（1名） 草地カメラチェック（1名）
1月31日	卒論研究のための飼養管理（1名）
2月2日	卒論研究のための飼養管理（1名）
2月3日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
2月4日，5日	卒論研究のための飼養管理（2名）
2月6日	修論研究のためのライトセンサス（3名） 草地カメラチェック（1名）
2月7日，8日	卒論研究のための飼養管理（1名）
2月10日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
2月12日	卒論研究のための飼養管理（2名）
2月13日	卒論研究のための飼養管理（2名） 草地カメラチェック（1名）
2月15日	卒論研究のための飼養管理（2名）
2月17日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
2月18日，19日	卒論研究のための飼養管理（1名）
2月20日	卒論研究のための飼養管理，試験牛体重・体尺測定（4名） 草地カメラチェック（1名）
2月21日～23日	卒論研究のための飼養管理（1名）
2月24日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（1名）
2月25日，26日	卒論研究のための飼養管理（1名）
2月27日	卒論研究のための飼養管理（1名） 草地カメラチェック（1名）
2月28日	卒論研究のための飼養管理（2名）
3月1日～5日	卒論研究のための飼養管理（1名）
3月6日	修論研究のための飼養管理，ライトセンサス（4名） 卒論研究のための飼養管理（2名） 草地カメラチェック（1名）
3月7日～11日	卒論研究のための飼養管理（2名）
3月12日	卒論研究のための飼養管理（2名） 草地カメラチェック（1名） 共同研究成果報告会（21名）
3月13日	修論研究のための飼養管理（1名） 卒論研究のための飼養管理（2名）
3月14日，15日	卒論研究のための飼養管理（2名）
3月15日	草地カメラチェック（1名）
3月16日～19日	卒論研究のための飼養管理（1名）
3月20日	修論研究のための飼養管理（1名）
3月26日	卒論研究のための飼養管理（2名）

4）刊行物

鹿児島大学農学部農場年報，第12号（2018.3）（2015年度から印刷物を廃止し，Webでの配信のみとした）
鹿児島大学農学部農場研究報告，第39号（2018.3）

5) 行事

4月1日	展示即売会
6月9日	入来牧場牧神祭
7月14日	学内農場農事部お田植え祭
9月15日	指宿植物試験場熱帯果樹観葉祭
11月17日	唐湊果樹園収穫祭

6) 平成29年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会

日 時：平成29年5月11日～12日
場 所：学士会館（東京都）
参加者：津田農場長

(2) 秋季協議会

日 時：平成29年9月21日～22日
場 所：ホテルグランデはがくれ（佐賀市）
参加者：津田農場長，松元技術専門職員，福留技術専門職員

(3) 九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会

日 時：平成29年8月29日～30日
場 所：沖縄県市町村自治会館（那覇市）
参加者：朴主任，大島主任，勘米良技術職員，石井技術職員，飯盛技術職員，山下事務係長

2 会計事項

1) 予算および決算

平成29年度の農場予算および決算は，第6表のとおりである。予算額97,807,000円に対し，決算額97,533,000円で，274,000円の残余额が生じ，翌年度に繰り越した。

第6表 平成29年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追 加 配 分 額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	0	0	0	0
農場実習支援経費	42,345,000	257,000	42,602,000	42,487,000	115,000
農場運営経費	45,736,000	9,469,000	55,205,000	55,047,000	158,000
主事	0	0	0	0	0
植物部門主任	0	0	0	0	0
動物部門主任	0	0	0	0	0
合 計	88,081,000	9,726,000	97,807,000	97,533,000	274,000

2) 機械，設備および備品

今年度は，機械，備品への予算の充当はなかった。

第7表 平成29年度機械設備等の整備（50万円以上 予算：自己収入）

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額（円）	施設名
該当無し				
合 計				

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より，作物生産に配慮した輪作体系を組み，田畑輪換も含めた作付け体系を実施している。しかし，元来が排水不良地であるため，畑作時における，湿害の発生がみられた。そこで，平成19年度の実習教育改善経費により，排水不良の2圃場（10号：約800㎡と，11号：約1,570㎡）に暗渠排水を敷設した。

(2) 唐湊果樹園

果樹園は敷地境界をフェンスを設置しているが、老朽化している箇所がみられることから、更新が必要である。また、敷地境界では、ゴミの投げ込みもみられることから対策もあわせて必要となる。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年、施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため、一部の温室やハウスでは、従来の温度確保がむずかしくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが、平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており、今後、湯量の確保に向けた方策が必要になる。

今年度は、去年の台風16号により一部倒壊したフェンスと老朽化しているフェンスを更新した。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工（1968）後、49年を経過し、壁面の亀裂、雨漏りなど、老朽化が著しい。平成20年度には、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行ったものの、入来牧場管理棟2階部分（宿泊室、講義室）、1階部分（男子トイレ、風呂、食堂）および外壁の改修が課題として残っていた。平成29年度概算要求により、平成30年度の入来牧場管理棟全面改修工事が決定した。一方で、現場の畜舎に関しては管理棟同様竣工後48年を経過しているものの、改修の目途が立っていない。学生教職員の安全確保の観点からも、現場畜舎の概算要求による改修が望まれる。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築35年を経過し、雨漏りが頻発していたため、これまで部分的な補修を繰り返してきた。しかし、部分的な補修では改善が見られないことから、平成23年度末に附属演習林から予算借入れを行い、屋根の全面補修を行った。その結果、雨漏りは止まったものの、建物本体の劣化および排水などの問題は依然として残ったままである。

3 各種会議および委員会

農学部は平成28年度（2016年度）に改組を行い新体制がスタートした。改組は学年進行であるが新組織に適應させるよう本農場の各種会議および委員会の構成員も変更を行った。

1) 農場会議

(1) 委員名簿（任期2年 2016年4月1日～2018年3月31日）

農場長（議長）	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	志水 勝好
応用植物科学コース	山本 雅史
応用植物科学コース	坂巻 祥孝
畜産科学コース	中西 良孝
食料農業経済学コース	豊 智行
食料生命科学科	池永 誠
農林環境科学科	岩崎 浩一
総務課長	鮎川 秋徳

(2) 会議記録

第1回：平成29年8月23日（水）13時00分～13時40分

- 議題
1. 平成28年度附属農場決算（案）について
 2. 平成29年度附属農場予算（案）について
 3. 平成29年度後期農場実習（案）について
 4. 平成30年度前期農場実習Ⅱの実習プログラムについて
 5. 兼任教員の選考について
 6. 平成29年度後期施設等利用計画（案）について
 7. その他

第2回：平成30年3月16日（金）16時10分～16時40分

- 議題 1. 平成30年度前期農場実習（案）について
2. 平成30年度前期施設等利用計画（案）について
3. その他

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2016年4月1日～2018年3月31日）

農場長（委員長）	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼担教員	下田代智英
兼担教員	清水 圭一
兼担教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	福留 弘康
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	片平 清美
総務課長代理	立和名幸洋
農場事務係長	山下 聖二（宇都山清孝2017.10. 1～）

(2) 委員会記録

第1回：平成29年8月8日（火）13時00分～13時50分

- 議題 1. 平成28年度附属農場決算（案）について
2. 平成29年度附属農場予算（案）について
3. その他

第2回：平成30年3月16日（金）13時05分～13時25分

- 議題 1. 全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会（鹿児島大学当番）について
2. その他

3) 農場実習教育委員会

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
農業生産科学科	
応用植物科学コース	下田代智英
〃	坂上 潤一
〃	角 明夫
〃	一谷 勝之
〃	志水 勝好
〃	山本 雅史
〃	香西 直子（2017. 7. 1～）
〃	吉田理一郎
〃	橋本 文雄
〃	清水 圭一
〃	坂巻 祥孝
畜産科学コース	大久津昌治
〃	三好 和睦
〃	岡本 新

Ⅱ 農場運営

畜産科学コース	下桐 猛
〃	中西 良孝
〃	高山 耕二
〃	後藤 貴文 (2017. 5. 1～)
〃	大塚 彰 (2018. 1.22～)
〃	井尻 大地 (2018. 1.22～)
食料生命科学科	
食環境制御科学コース	岩井 久
〃	中村 正幸
農林環境科学科	
地域環境システム学コース	岩崎 浩一
〃	末吉 武志
自然科学教育研究支援センター	
遺伝子実験施設	田浦 悟

(2) 委員会記録

第1回：平成29年8月8日（火）10時30分～11時00分

- 議題 1. 平成29年度後期農場実習（案）について
2. 平成30年度前期農場実習Ⅱの実習プログラムについて
3. その他

第2回：平成30年3月2日（金）15時00分～15時25分

- 議題 1. 平成30年度前期農場実習Ⅱプログラム（案）について
2. 平成30年度前期集中実習日程（案）について
3. その他

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2016年4月1日～2018年3月31日）

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	下田代智英
応用植物科学コース	一谷 勝之
応用植物科学コース	清水 圭一
畜産科学コース	高山 耕二
食料生命科学科	樗木 直也
農林環境科学科	岩崎 浩一

(2) 委員会記録

第1回：平成29年8月8日（火）15時00分～15時15分

- 議題 1. 平成29年度後期施設等利用計画（案）について
2. その他

第2回：平成30年3月2日（金）14時00分～14時20分

- 議題 1. 平成30年度前期施設等利用計画（案）について

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2016年4月1日～2018年3月31日）

応用植物科学コース（園芸系）（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
応用植物科学コース（作物系）	下田代智英
畜産科学コース	大久津昌治
食環境制御科学コース	赤木 功

(2) 委員会記録

第1回：平成29年5月1日（月）17時00分～17時20分

- 議題 1. 鹿児島大学農学部農場研究報告原稿の募集について
2. その他

第2回：平成29年11月6日（月）17時30分～17時50分

- 議題 1. 農場研究報告第39号受付原稿の査読者の選定について
2. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2016年4月1日～2018年3月31日）

農場長（委員長）	津田 勝男
農業生産科学科畜産科学コース	大久津昌治
〃	岡本 新
〃	中西 良孝
〃	井尻 大地
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	片平 清美
入来牧場管理獣医師	山口 浩

(2) 委員会記録

（委員会の開催なし）

4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況

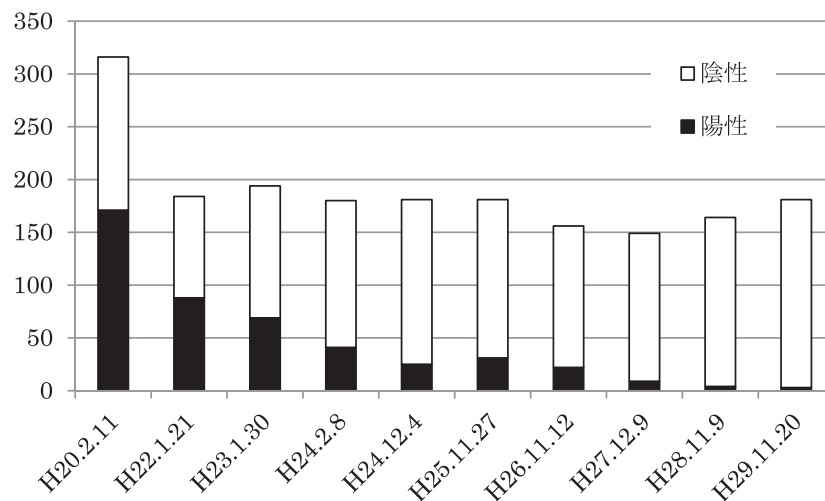


図1 牛白血病ウイルス保有率の推移

平成19年10月、入来牧場における飼養牛のBLV血清抗体価を調査した結果、検査頭数361頭のうち、陽性牛は210頭となり、全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け、農場では平成20年1月以降、家畜防疫対策委員会を設置し、入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を、分娩管理および分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では、直ちに清浄化対策を実施し、平成20年5月で陽性率51%、平成20年11月には陽性率は41%、平成23年1月には陽性率36%、平成24年2月には陽性率23%、平成24年12月には陽性率14%と着実に陽性率の低下を実現し、平成19年以降、陽性率は44ポイント低下している。平成25年11月の調査では陽性率17%、平成26年11月の調査では陽性率14%、平成27年12月の調査では陽性率6%、平成28年11月には陽性率2%となり、平成27年度以降で10%を下回る結果となった。直近の平成29年11月における調査では陽性率2%となり、陽性率は横ばい状態で推移している。これらの結果は、継続的な防疫体制維持により平成24年度以降、牛白血病ウイルスを一定数でコントロールできていることを示している。現在、BLV清浄化は最終段階に入っているものの、陽性牛を集めて出荷までの間飼養している肥育牛舎では、水平感染のリスクもあることから、BLVの完全な清浄化には、まだ期間を要するものと考えられる。今後は、陽性が確定された牛を直ちに出荷するとともに、引き続き陰性牛の陽転を観察するため、定期的な血液検査を行っていく予定である。

Ⅲ 教育活動

1 農場実習

1) 実習の概要

当農場は、年間17科目、延べ167日、492名の学生に対して、計24単位にのぼる実習を行い、農業の科学的基礎である農学理論の実践の場、生物生産技術革新のための実験の場、生物生産業としての農業を支える農業経営者の育成の場として、本学農学部教育の理念を支える重要な役割を果たしている。実習は、畜産、果樹、野菜、花卉、作物、施設園芸といった農業のほぼ全分野にわたっており、植物、動物のライフサイクルをととした体系的な実習を特色としている。

農場実習の学科（コース）別の科目、単位数および実習の種類は、第8表のとおりであり、平成19年度からは学理と実習を統合した新実習体制（兼任教員制）の基、教員と技術職員が一体となって効率的な農場実習を進めている。なお、前述のように農学部は平成28年度（2016年度）に改組を行った。改組は学年進行のため、平成28年度入学生からは新しいカリキュラムに則って進行していくことになる。

第8表 学科別実習科目、単位、人数および実習の種類

学部・コースなど	学年	実習科目	単位	必修	人数	実習の種類
通 年						
農業生産科学科	1	農業生産科学農場実習	1	必修	81	集中3日間（2回）
応用植物科学科	2	農場実習	1	必修	37	集中3日間（2回）
食糧生産科学	3	農場実習	2	必修	16	集中3日間（4回）
家畜生産学	3	家畜生産学実習Ⅰ	1	選択	24	集中3日間（随時）
	4	家畜生産学実習Ⅱ	1	選択	21	集中3日間（随時）
前 期						
植物生産学	3	農場実習Ⅱ	4	必修	48	毎週1回月曜日終日
	3	農場実習Ⅰ	1	必修	42	集中3日間
農業経営経済学	3	農場実習Ⅱ	2	必修	16	毎週1回金曜日半日
環境システム学	3	農場実習Ⅱ	2	必修	18	毎週1回金曜日半日
生産環境工学	3	農場実習Ⅱ	2	必修	12	毎週1回金曜日半日
畜産科学	2	牧場実習	1	必修	29	集中5日間（1回）
共同獣医学部	4	獣医臨床基礎実習	1	必修	33	集中5日間（1回）
後 期						
応用植物科学科	2	農場実習Ⅰ	1	必修	38	毎週1回火曜日半日
食糧農業経済学	2	農業生産学実習	1	必修	11	毎週1回金曜日半日
地域環境システム学	2	農業生産学実習	1	必修	29	毎週1回金曜日半日
家畜生産学	3	農場実習Ⅲ（食品加工）	1	必修	20	集中4日間（1回）
食品機能化学	3	農場実習Ⅲ	1	必修	17	集中4日間（1回）

2) 兼任教員

平成19年度から、農場実習の質的向上を図るため、学理と実習を統合した兼任教員制を導入した。現在、農学部長から委嘱された下記の26名の兼任教員が、それぞれの専門に関する実習教育に携わっている。なお、前述のように平成28年度（2016年度）に改組を行ったので教員の所属などは新学部体制に従った。

農業生産科学科

- 准教授 下田代智英（作物学教育研究分野）
 教 授 坂上 潤一（熱帯作物学教育研究分野）
 教 授 志水 勝好（比較環境農学教育研究分野）
 准教授 角 明夫（熱帯作物学教育研究分野）
 准教授 一谷 勝之（植物育種学教育研究分野）
 教 授 山本 雅史（果樹園芸学教育研究分野）
 准教授 香西 直子（果樹園芸学教育研究分野）
 准教授 吉田理一郎（蔬菜園芸学教育研究分野）
 教 授 橋本 文雄（観賞園芸学教育研究分野）
 准教授 清水 圭一（観賞園芸学教育研究分野）
 教 授 岩井 久（植物病理学教育研究分野）
 准教授 中村 正幸（植物病理学教育研究分野）

教 授 津田 勝男（害虫学教育研究分野）
 准教授 坂巻 祥孝（害虫学教育研究分野）
 准教授 大久津昌治（家畜繁殖学教育研究分野）
 教 授 三好 和睦（家畜繁殖学教育研究分野）
 教 授 岡本 新（家畜育種学教育研究分野）
 准教授 下桐 猛（家畜育種学教育研究分野）
 教 授 中西 良孝（家畜管理学教育研究分野）
 教 授 後藤 貴文（食肉科学教育研究分野）
 教 授 大塚 彰（栄養生化学・飼料化学教育研究分野）
 准教授 井尻 大地（栄養生化学・飼料化学教育研究分野）
 准教授 高山 耕二（家畜管理学教育研究分野）

農林環境科学科

教 授 岩崎 浩一（農業環境システム学教育研究分野）
 助 教 末吉 武志（農業環境システム学教育研究分野）

自然科学教育研究支援センター 遺伝子実験施設

教 授 田浦 悟

3) 実習科目毎の日程および内容

(1) 農業生産科学農場実習（必修）

対象：農業生産科学科1年，81名

日程：集中実習（1期3日間・2期3日間）

単位：1

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場

担当教員：遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎・山本雅史・香西直子・橋本文雄・清水圭一・下田代智英

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良
 祥多・片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標：農業経験のない学生に生物生産のための基礎的技術を体験させ，生物生産の多面性および有機性を認識させる。

内容：非宿泊施設（学内農場農事部・唐湊果樹園）から1カ所，宿泊施設（指宿植物試験場，入来牧場）から1カ所を選択させ，第9表に示すような普通・園芸作物，施設園芸，家畜生産についての基礎的な実習を行う。

第9表 農業生産科学農場実習の実習内容（平成29年度）

分 野 別 の 実 習 内 容				
月日	学内農場農事部	唐湊果樹園	指宿植物試験場	入来牧場
2017				
9/26	水稻収量調査，トルコギキョウ播種	果樹園の草生管理，ビワ管	施設見学・説明，サトイモ収穫・調整	オリエンテーション 施設見学 行動観察
9/27	イネ水選，水耕栽培の説明と管理，サツマイモ蔓払，タマネギ播種	果樹鉢苗管理，農作業機械操作	栽培施設の管理，農作業機械操作，ソラマメ・花苗鉢植え，ブーゲンビリア・パッションフルーツ誘引	ハンドリング ロープワーク ブラッシング
9/28	畝たて，マルチと根菜類定植，水稻品質調査	果樹園堆肥施用，防風樹管理	栽培作物の管理，グアバ取り木，セロリ播種	体重測定 体尺測定 鼻紋採取
2018				
2/27	麦類形態観察，葉菜類育苗管理，タマネギ除草，	カンキツ園施肥，カンキツ収穫	施設見学・説明，農作業機械操作，野菜管理，	オリエンテーション 施設見学 行動観察
2/28	スターチス収穫，果菜類育苗管理	果樹鉢・苗の管理，農作業機械操作	マンゴー管理，観葉植物の鉢上げ・鉢替え，ハンダマ挿し木	ハンドリング ロープワーク ブラッシング
3/ 1	トルコギキョウ管理，温室露地野菜管理，花苗の鉢上げ	落葉果樹の剪定，防風樹管理	栽培作物管理，アボカド接ぎ木，コーヒー苗定植	体重測定 体尺測定 鼻紋採取

(2) 農場実習（応用植物科学コース）（必修）

対象：応用植物科学コース2年（3期～4期），37名

日程：集中実習（3期3日間，4期3日間）

単位：1

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場

担当教員：遠城道雄・朴 炳宰・下田代智英・山本雅史・香西直子・橋本文雄・清水圭一

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良 祥多

目標：農業生産科学農場実習で習得してきた栽培技術を再確認するとともに，普通・園芸作物に関する栽培技術をより向上させる。

内容：第10表に示すように，指定された実習施設において，普通作物および園芸作物に関する専門的な実習を行う。

第10表 農場実習（応用植物科学コース）の実習内容（平成29年）

分 野 別 の 実 習 内 容			
月日	農 事 部	唐 湊 果 樹 園	指宿植物試験場
2017			
8/17 18 21	水稻生育調査，トルコギキョウ管理， 水稻収量調査Ⅰ・Ⅱ，水稻品質調査Ⅰ・Ⅱ		
8/24 25 26			熱帯果樹管理：鉢替え・誘引・剪定， パッションフルーツ鉢替え・あんどん 仕立，ソラマメ播種，ゴレンシ苗誘引・ 追肥，トマト播種，クウシンサイ管理， 栽培施設管理
9/19 21 22		果樹園の草生管理，カンキツ施肥，防 風樹管理，果樹鉢苗管理，カンキツ摘 果	
2018			
2/19 20 22		果樹苗植付け，鉢・苗管理，カンキツ 施肥・剪定，不知火収穫・調整	
2/22 23 24			挿し木・取り木苗の鉢上げ，鉢替え， パッションフルーツ管理，熱帯果樹の 剪定，ブロッコリー播種，ブーゲンビ リア誘引，各種作物類の管理
4/ 5 6 7	麦類形態観察，鉢物管理， タマネギ収穫・調整， 販売実習		

(3) 農場実習Ⅰ（応用植物科学コースA）（必修）

対象：応用植物科学コース2年（4期），19名

日程：半日実習（毎週火曜日）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場

担当教員：遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎・下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・津田勝男・岩井 久・中村正幸・橋本文雄・清水圭一・吉田理一郎・高山耕二・田浦 悟

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良 祥多・片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通作物，園芸作物のライフサイクルおよび普通作物，園芸作物および家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容：第11表に示すように，附属農場4施設（学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場）を回り，普通作物，野菜，花卉，果樹，熱帯作物および家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第11表 農場実習Ⅰ（応用植物科学コースA）の実習内容（平成29年度）

分野別の実習内容						
月日	水稻・普通作物	野菜	花卉	果樹	熱帯作物	家畜
2017						
10/ 3	オリエンテーション, サツマイモ収穫・調整	根菜・葉菜類播種				
10					農業施設ビニル張り, ソラマメ・熱帯果樹管理	
17				カキの収穫・脱渋		
24	ケナフ収穫・調整, イネ収穫, 糶摺り	根菜・葉菜類間引き, マメ類管理, ネット張り				
31				カンキツへの秋肥施用		
11/ 7				ビワの摘蕾		
14					ヤムイモ収穫 ジャガイモ定植	
28				早生温州ミカンの収穫		
12/ 5	小麦播種	タマネギ定植	トルコギキョウ定植			
12				カンキツ袋かけ		
19					セロリ定植及び鉢上げ, 熱帯果樹管理	
2018						
1/ 9	小麦踏圧	根菜類収穫, タマネギ除草	トルコギキョウ管理			
16						家畜の取扱い・家畜糞尿の観察
23	小麦中耕・追肥	自主栽培説明 根菜類収穫				
30				落葉果樹の剪定		

注) 普通作物, 野菜, 花卉: 学内農場農事部・指宿植物試験場, 果樹: 唐湊果樹園, 熱帯作物: 指宿植物試験場, 家畜: 入来牧場

(4) 農場実習Ⅰ（応用植物科学コースB）（必修）

対象: 応用植物科学コース2年(4期), 19名

日程: 半日実習(毎週火曜日)

単位: 1(15週)

実習施設: 学内農場農事部, 唐湊果樹園, 指宿植物試験場, 入来牧場

担当教員: 遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎・下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・津田勝男・岩井 久・中村正幸・橋本文雄・清水圭一・吉田理一郎・高山耕二・田浦 悟

担当技術職員: 野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良祥多・片平清美・松元里志・富永輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標: 農業全般に関する基本技術の習得, 普通作物, 園芸作物のライフサイクルおよび普通作物, 園芸作物および家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容: 第12表に示すように, 附属農場4施設(学内農場農事部, 唐湊果樹園, 指宿植物試験場, 入来牧場)を回り, 普通作物, 野菜, 花卉, 果樹, 熱帯作物および家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第12表 農場実習Ⅰ（応用植物科学コースB）の実習内容（平成29年度）

分野別の実習内容						
月日	水稻・普通作物	野菜	花卉	果樹	熱帯作物	家畜
2017						
10/ 3	オリエンテーション, サツマイモ収穫・調整	根菜・葉菜類播種				
10	イネ収穫, 糶摺り					
17					農業施設ビニル張り, ソラマメ・熱帯果樹管理	
24				カキの収穫・脱渋		
31						家畜の取扱い・家畜糞尿の観察

11/ 7	ケナフ収穫・調整	根菜類播種，葉菜類間引き			
21	小麦播種	タマネギ定植			
28					ヤムイモ収穫 ジャガイモ定植
12/ 5				温州ミカンの収穫	
12	麦踏み	タマネギ除草	トルコギキョウ定植		
19				カンキツ袋かけ	
2018					
1/ 9				カンキツへの堆肥施用	
16					セロリ定植及び鉢上げ，熱帯果樹管理
23	小麦中耕・追肥	根菜類収穫		落葉果樹の剪定	
30		自主栽培説明	トルコギキョウ管理		

注) 普通作物，野菜，花卉：学内農場農事部・指宿植物試験場，果樹：唐湊果樹園，
熱帯作物：指宿植物試験場，家畜：入来牧場

(5) 農場実習Ⅱ（応用植物科学コースA）（必修）

対象：応用植物科学コース3年（5期），24名

日程：半日実習（毎週火曜日）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場

担当教員：遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎・下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・津田勝男・岩井 久・中村正幸・橋本文雄・清水圭一・吉田理一郎・高山耕二・田浦 悟

担当技術職員：野村哲也・中野八泊・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良祥多・片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通作物，園芸作物のライフサイクルおよび普通作物，園芸作物および家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容：第13表に示すように，附属農場4施設（学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場，入来牧場）を回り，普通作物，野菜，花卉，果樹，熱帯作物および家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理技術の習得を目指した実習を行う。

第13表 農場実習Ⅱ（応用植物科学コースA）の実習内容（平成30年度）

分野別の実習内容						
月日	水稻・普通作物	野菜	花卉	果樹	熱帯作物	家畜
2018						
4/17	オリエンテーション	タマネギ収穫，自主栽培		接ぎ木		
24					熱帯産ヤムイモ定植，クウシンサイ・ハンダマ定植，熱帯性植物挿し木	
5/ 1	甘藷定植	施設葉菜類定植	トルコギキョウ管理・収穫			
8						堆肥生産方法・トラクター運転
15				モモ・ブルーベリー・ビワ管理		
22	小麦収穫，農業機械操作					
29				ゴマダラカミキリ防除		
6/ 5	水稻播種	自主栽培中間報告	病原菌簡易検査法			
12				草生管理		
19	普通期水稻田植え	葉菜類収穫	トルコギキョウ交配（袋かけ）			
26				カンキツの施肥		

7/ 3				ホイルロダー 運転実習
10				ヤマイモ・野菜管理, 熱帯果樹苗の鉢上げ
17	水稻観察, 小麦製 粉	自主栽培総評・片付 け	トルコギキョウ交配 (交配・説明)	
24				カキの摘果

注) 普通作物, 野菜, 花卉: 学内農場農事部・指宿植物試験場, 果樹: 唐湊果樹園,
熱帯作物: 指宿植物試験場, 家畜: 入来牧場

(6) 農場実習Ⅱ (応用植物科学コースB) (必修)

対象: 応用植物科学コース3年(5期), 23名

日程: 半日実習(毎週火曜日)

単位: 1(15週)

実習施設: 学内農場農事部, 唐湊果樹園, 指宿植物試験場, 入来牧場

担当教員: 遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎・下田代智英・坂上潤一・志水勝好・一谷勝之・山本雅史・香西直子・
津田勝男・岩井 久・中村正幸・橋本文雄・清水圭一・吉田理一郎・高山耕二・田浦 悟

担当技術職員: 野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良
祥多・片平清美・松元里志・富永輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標: 農業全般に関する基本技術の習得, 普通作物, 園芸作物のライフサイクルおよび普通作物, 園芸作物およ
び家畜糞尿処理と自然環境の関係を理解させる。

内容: 第14表に示すように, 附属農場4施設(学内農場農事部, 唐湊果樹園, 指宿植物試験場, 入来牧場)を回
り, 普通作物, 野菜, 花卉, 果樹, 熱帯作物および家畜・堆肥製造のライフサイクルを通じた観察と管理
技術の習得を目指した実習を行う。

第14表 農場実習Ⅱ (応用植物科学コースB) の実習内容 (平成30年度)

分 野 別 の 実 習 内 容						
月日	水稻・普通作物	野 菜	花 卉	果 樹	熱帯作物	家 畜
2018						
4/17	オリエンテーショ ン	タマネギ収穫, 自主 栽培		接ぎ木		
24						堆肥生産方 法・トラク ター運転
5/ 1				草生管理		
8					熱帯産ヤマイモ定植, クウシンサイ・ハン ダマ定植, 熱帯性植 物挿し木	
15	甘藷定植, 小麦収 穫	施設葉菜類定植	トルコギキョウ管理・ 収穫			
22				モモ・ブルーベリー・ ビワ管理		
29	水稻播種	自主栽培中間報告	病原菌簡易検査法			
6/ 5				ゴマダラカミキリ 防除		
12	農業機械操作	葉菜類収穫				
19				カンキツの施肥		
26	普通期水稻田植え		トルコギキョウ交配 (袋かけ)			
7/ 3					ヤマイモ・野菜管理, 熱帯果樹苗の鉢上げ	
10						ホイルロダー 運転実習
17				カキの摘果		
24	水稻観察, 小麦製 粉	自主栽培総評・片付 け	トルコギキョウ交配 (交配・説明)			

注) 普通作物, 野菜, 花卉: 学内農場農事部・指宿植物試験場, 果樹: 唐湊果樹園,
熱帯作物: 指宿植物試験場, 家畜: 入来牧場

(7) 農業生産学実習（地域環境システム学・食料農業経済学1班）（必修）

対象：地域環境システム学・食料農業経済学（1班）2年（4期），24名

日程：半日実習（毎週金曜日午後）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園

担当教員：下田代智英・一谷勝之・橋本文雄・清水圭一・吉田理一郎・津田勝男・高山耕二・岩崎浩一・末吉武志・田浦 悟・遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通・園芸作物のライフサイクルおよび普通・園芸作物などの成長と自然環境の関係を理解させる。

内容：第15表に示すように，普通作物，園芸作物（野菜，花・観賞植物，果樹）などの栽培管理技術の習得と播種から収穫までの作物のライフサイクルを通じた観察と栽培管理の実習を行う。

第15表 農業生産学実習地域環境システム学・食料農業経済学1班の実習内容（平成29年度）

分野別の実習内容				
月日	普通作物	野菜	花卉	果樹
2017				
10/ 6	オリエンテーション	葉菜類播種，マメ類播種		
13				柿の収穫・脱渋
20	稲遺伝資源の評価	マメ類間引き，ネット張り	花苗鉢上げ	
27				カンキツへの施肥
11/ 3	農業機械操作	葉菜類定植，マメ類管理	スターチス管理	
17				早生温州収穫
24	小麦播種	タマネギ定植		
12/ 1				不知火果実の袋掛け
8		根菜・葉菜類収穫，ハーブ類 鉢物寄せ植え定植		
15				普通温州収穫
22	小麦踏圧	マメ類管理・収穫	スターチス収穫	
2018				
1/ 5				カンキツへの堆肥施用
19	小麦中耕・踏圧・追肥	マメ類管理・収穫		
26				カキの剪定
2/ 2		マメ類管理・収穫，ハーブ類 収穫，タマネギ除草		

注）普通作物，野菜，花卉：学内農場農事部，果樹：唐湊果樹園

(8) 農業生産学実習（地域環境システム学・食料農業経済学2班）（必修）

対象：地域環境システム学・食料農業経済学（2班）2年（4期），24名

日程：半日実習（毎週金曜日午後）

単位：1（15週）

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園

担当教員：下田代智英・角 明夫・一谷勝之・橋本文雄・清水圭一・吉田理一郎・津田勝男・高山耕二・岩崎浩一・末吉武志・田浦 悟・遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優

目標：農業全般に関する基本技術の習得，普通・園芸作物のライフサイクルおよび普通・園芸作物などの成長と自然環境の関係を理解させる。

内容：第16表に示すように，普通作物，園芸作物（野菜，花・観賞植物，果樹）などの栽培管理技術の習得と播種から収穫までの作物のライフサイクルを通じた観察と栽培管理の実習を行う。

第16表 農業生産学実習地域環境システム学・食料農業経済学2班の実習内容（平成29年度）

分野別の実習内容				
月日	普通作物	野菜	花卉	果樹
2017				
10/ 6				オリエンテーション 鉢物管理
13		葉菜類播種，マメ類播種	花苗鉢上げ	
20				柿の収穫・脱渋
27	稲遺伝資源の評価	マメ類間引き，ネット張り		

11/ 3				カンキツへの施肥
17	農業機械操作	葉菜類定植, マメ類管理	スターチス管理	
24				早生温州収穫
12/ 1	小麦播種	タマネギ定植		
8				不知火果実の袋掛け
15		根菜・葉菜類収穫, ハーブ類 鉢物寄せ植え 定植		
22				ボンカン収穫
2018				
1/ 5	小麦踏圧	マメ類管理・収穫, タマネギ 除草	スターチス収穫	
19				カンキツへの堆肥施用
26	小麦中耕・踏圧・追肥	マメ類管理・収穫, ハーブ類 収穫		
2/ 2				カキの剪定

注) 普通作物, 野菜, 花卉: 学内農場農事部, 果樹: 唐湊果樹園

(9) 牧場実習 (畜産科学コース) (必修)

対象: 畜産科学コース2年(3期), 29名

日程: 集中実習(5日間)

単位: 1

実習施設: 入来牧場

担当教員: 大島一郎

担当技術職員: 片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標:

- ・牛の適切なハンドリングが出来る。
- ・黒毛和種の基本的な生理生態および飼養管理を理解し, 牛肉生産過程を詳細に説明出来る。
- ・家畜糞尿の堆肥化に関する基礎事項を理解し, その初期の温度・臭気変化を説明出来る。
- ・農業機械の基本的な役割, 機能が説明出来る。

内容: 入来牧場における黒毛和種の飼養管理, 草地管理など肉牛生産の基礎事項を1週間体験することを通して, 畜産業を包括的に捉える視野の獲得を目的とする。(第17表)

第17表 牧場実習 (畜産科学コース) の実習内容 (平成29年度)

月日	実 習 内 容
2017	
8/21	オリエンテーション (施設, 家畜, 農業機械類の見学), 牛の保定, ハンドリング, 牛体洗浄, ブラッシング
22	牛の日常管理, 子牛・育成・肥育牛体重測定, 12時間行動調査
23	牛の日常管理, 飼料原料観察, 採草地収量調査, 農業機械運転実習, 体尺測定・牛体観察, 耳標・鼻環装着
24	牛の日常管理, 放牧地巡視, 除石, 柵点検・補修, 牛・馬の群管理, 去勢, 除角, 採血
25	牛の日常管理, 実習課題プレゼンテーション, 全体清掃

(10) 家畜生産学実習 I (選択)

対象: 家畜生産学コース3年(年間), 24名

日程: 随時

単位: 1

実習施設: 学内農場畜産部

担当教員: 高山耕二・大久津昌治・三好和睦・岡本 新・下桐 猛・中西良孝・大島一郎

目標:

- ・家畜, 家禽の飼料作成から堆肥生産まで一連の流れを概説できる。
- ・家畜, 家禽の繁殖, 育種を含む飼養管理の違いを理解し, 基本技術を習得する。

内容: 鹿児島大学農学部附属農場動物飼育棟には, ウシ, ヤギ, ミニブタ, ニワトリ, ウズラ, アイガモ, ガチョウといった多様な家畜・家禽が飼育されている。これらの家畜・家禽はそれぞれの生理的特性に合った飼養管理がなされている。本実習の目的は, 日常管理を通して, それらの飼養管理の違いを理解し, その基本技術を習得することである。実習期間は4月から翌年3月までとする。実習時間は午前9時から午後5

時までを原則とするが、他講義の履修状況や緊急の動物管理で時間外に及ぶこともある。内容によっては小グループに分かれて、共同実習を行う。(第18表)

第18表 家畜生産学実習Ⅰの実習内容(平成29年度)

月日	実 習 内 容
随時	オリエンテーション ロープワーク 管理機器類の基本操作 イタリアンライグラスサイレージ調整 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅰ 堆肥生産Ⅰ トウモロコシサイレージ調整 飼料生産(堆肥散布, 牧草播種) 稲ワラ集草, 乾燥 ウシの削蹄 反芻家畜(ウシ, ヤギ)の飼養管理 ミニブタの飼養管理 家禽・水禽の飼養管理 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅱ 堆肥生産Ⅱ管理機器類の基本操作

(11) 家畜生産学実習Ⅱ(選択)

対象:家畜生産学コース4年(年間), 21名

日程:随時

単位:1

実習施設:学内農場畜産部

担当教員:高山耕二・大久津昌治・三好和睦・岡本 新・下桐 猛・中西良孝・大島一郎

目標:

- ・家畜, 家禽の飼料作成から堆肥生産までの一連の流れを把握し, 実施できる。
- ・家畜, 家禽の繁殖, 育種を含む飼養管理の応用技術を習得する。

内容:鹿児島大学農学部附属農場学内飼育棟には, ウシ, ヤギ, ミニブタ, ニワトリ, ウズラ, アイガモ, ガチョウといった多様な家畜・家禽が飼育されている。既に, 家畜生産学実習Ⅰにおいて, これらの家畜・家禽の飼養管理に関する基本技術を習得済みであるため, 本実習ではさらにそれらの応用技術を習得することを目的とする。実習期間は4月から翌年3月までとする。実習時間は午前9時から午後5時までを原則とするが, 他講義の履修状況や緊急の動物管理で時間外におよぶこともある。内容によっては小グループに分かれて, 共同実習を行う。(第19表)

第19表 家畜生産学実習Ⅱの実習内容(平成29年度)

月日	実 習 内 容
随時	オリエンテーション イタリアンライグラスサイレージ調整 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅰ 堆肥生産 トウモロコシサイレージ調整 飼料生産(堆肥散布, 牧草播種) 稲ワラの集草, 乾燥 ウシの削蹄 反芻家畜の繁殖管理 ミニブタの繁殖管理 家禽・水禽の繁殖管理 家畜・家禽の生理機能のモニタリング 飼育施設の周辺整備・維持管理Ⅱ 疾病予防と対策 飼料設計

(12) 農場実習（食糧生産化学コース）（必修）

対象：食糧生産化学コース3年（5，6期），16名

日程：集中実習（5期3日間2回，6期3日間2回）

単位：2

実習施設：学内農場農事部，唐湊果樹園，指宿植物試験場

担当教員：下田代智英・山本雅史・津田勝男・橋本文雄・清水圭一・遠城道雄・朴 炳宰

担当技術職員：野村哲也・中野八伯・濱田延枝・福留弘康・廣瀬 潤・西澤 優・谷村音樹・田浦一成・勘米良
祥多

目標：農業全般に関する基礎的技術の習得，普通作物および園芸作物の成長と自然環境の関係および季節による作物の生育と栽培技術の違いを理解させる。

内容：第20表に示すように，普通作物と園芸作物（野菜，花・観賞植物，果樹）などを中心に栽培管理技術に関する実習を行う。

第20表 農場実習（食糧生産化学コース）の実習内容（平成29年度）

		施設別の実習内容	
月日	農 事 部	唐湊果樹園	指宿植物試験場
2017			
8/17		果樹園草生管理，防風樹管理，害虫防除，カンキツの摘果，果樹類の鉢上げ・鉢替え	
18			
21			
9/ 5			場内説明，ブロッコリー定植，サトイモ収穫・調整，熱帯果樹挿し木・取り木苗の鉢上げ，インドナツメ根接ぎ木，熱帯果樹苗の鉢替え，クウシンサイ管理，熱帯果実の試食，栽培施設管理
6			
7			
9/12	タマネギ播種，花苗の鉢上げ		
13	農作業機械類の操作，養液栽培の説明，トルコギキョウ播種		
14	水稻生育・形態調査，サツマイモの生育および収量調査		
2018			
3/13			場内説明，マカダミア取り木，グレンシ・アボカド接ぎ木，サトイモ定植，農業機械操作，マンゴー管理，栽培施設の管理，セロリ・ソラマメ管理，熱帯果樹鉢替え
14			
15			

(13) 農場実習Ⅲ（食品加工実習）（家畜生産学コース）（必修）

対象：家畜生産学コース3年（6期），20名

日程：集中実習（4日間）

単位：1

実習施設：入来牧場

担当教員：大島一郎

担当技術職員：片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標：

- ・主要な食肉加工製品の製造過程が概説できる。
- ・乾塩漬および湿塩漬などで作成した食肉加工食品の保存性，添加物の差異が説明出来る。
- ・亜硝酸塩，リン酸塩などの添加物の効果を説明できる。
- ・食品衛生の意識を高め，その重要性を概説できる。

内容：我々にとって食肉は貴重なタンパク源の一種であり，人類は，古くから畜肉に焼く，煮る，燻す，干すなどの調理（加工）を加えて食してきた。これらの加工は，畜肉を美味しく食するという欲求を満たすためのみならず，保存性の向上の役割も担っている。多様化した食文化の発達が見られる現代においては，様々な種類の食肉加工食品が開発制作され，産業となっている。本実習では，食肉加工食品の主流をなすソーセージ，セミドライソーセージ，プレスハム，ロースハム，ボンレスハム，ベーコンを実際に製造することで，その過程を理解し，保存性，発色性がどのようなものかを体験することを主な目的とする。（第21表）

第21表 食品加工実習（家畜生産学コース）の実習内容（平成29年度）

月日	実 習 内 容
2018	
2/20	オリエンテーション，身の回りの菌検出，手洗い指導，豚肉前処理，乾塩漬
21	ソーセージ類原料混合，ソーセージ充填，ハム類充填
22	乾燥，燻煙，ボイル，冷却，製品中心温度測定，ベーコン包装
23	再包装，全体清掃

(14) 農場実習Ⅲ（食品加工実習）（食品機能化学コース）（必修）

対象：食品機能化学コース3年（6期），17名

日程：集中実習（4日間）

単位：1

実習施設：入来牧場

担当教員：大島一郎

担当技術職員：片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標：

- ・主要な食肉加工製品の製造過程が概説できる。
- ・乾塩漬および湿塩漬等で作成した食肉加工食品の保存性，添加物の差異が説明出来る。
- ・亜硝酸塩，リン酸塩などの添加物の効果を説明できる。
- ・食品衛生の意識を高め，その重要性を概説できる。

内容：我々にとって食肉は貴重なタンパク源の一種であり，人類は，古くから畜肉に焼く，煮る，燻す，干すなどの調理（加工）を加えて食してきた。これらの加工は，畜肉を美味しく食するという欲求を満たすためのみならず，保存性の向上の役割も担っている。多様化した食文化の発達が見られる現代においては，様々な種類の食肉加工食品が開発制作され，産業となっている。本実習では，食肉加工食品の主流をなすソーセージ，セミドライソーセージ，プレスハム，ロースハム，ボンレスハム，ベーコンを実際に製造することで，その過程を理解し，保存性，発色性がどのようなものかを体験することを主な目的とする。（第22表）

第22表 食品加工実習（食品機能化学コース）の実習内容（平成29年度）

月日	実 習 内 容
2018	
3/ 6	オリエンテーション，身の回りの菌検出，手洗い指導，豚肉前処理，乾塩漬
7	ソーセージ類原料混合，ソーセージ充填，ハム類充填
8	乾燥，燻煙，ボイル，冷却，製品中心温度測定，ベーコン包装
9	再包装，全体清掃

(15) 獣医臨床基礎実習

対象：共同獣医学部4年（7期），33名

日程：集中実習（5日間）

単位：1

実習施設：入来牧場

担当教員：大島一郎

担当技術職員：片平清美・松元里志・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵

目標：

- ・牛の適切なハンドリングが出来る。
- ・黒毛和種の基本的な生理生態および飼養管理を理解し，牛肉生産過程を詳細に説明出来る。
- ・家畜糞尿の堆肥化に関する基礎事項を理解し，説明出来る。
- ・農業機械の基本的な役割，機能が説明出来る。
- ・畜産現場における問題点や課題を発見でき，獣医師としての適切な指導法を考察する。

内容：入来牧場における黒毛和種の飼養管理，草地管理など肉牛生産の基礎事項を1週間体験することを通して，獣医師として飼料・家畜・糞尿といった畜産業を包括的に捉える視野の獲得を目的とする。（第23表）

第23表 獣医臨床基礎実習（共同獣医学部）の実習内容（平成29年度）

月日	実 習 内 容
2017	
9/ 4	オリエンテーション（施設，家畜，農業機械類の見学），牛の保定，ハンドリング，牛体洗浄，ブラッシング
5	牛の日常管理，子牛・育成・肥育牛体重測定，12時間行動調査，農業機械運転
6	牛の日常管理，糞尿処理と堆肥製造，去勢，除角
7	牛の日常管理，体尺測定，耳標装着，鼻環装着，飼料観察，牛舎の衛生管理，草地と鳥獣害
8	牛の日常管理，実習課題グループワーク，全体清掃

2 講 義

農場専任教員の大学院および学部での講義は以下の通りである。

1）大学院

- ・国際農業資源学特論（後期・2単位） 遠城道雄
- ・作物生産学特別研究（通年・2単位 分担） 遠城道雄・朴 炳宰
- ・食と健康Ⅰ（前期・2単位 分担） 遠城道雄・朴 炳宰
- ・家畜生産学特別研究（通年・2単位 分担） 大島一郎

2）農学部

- ・卒業論文（通年・6単位 分担） 遠城道雄・朴 炳宰・大島一郎
- ・栽培技術論（前期・2単位 分担） 遠城道雄・朴 炳宰
- ・畜産科学概論（後期・2単位 分担） 大島一郎
- ・家畜生体機構学（後期・2単位） 大島一郎

3）共通教育

- ・博物館資料論（前期・2単位 分担） 朴 炳宰
- ・国際協力農業体験講座（前期・2単位 分担） 遠城道雄・大島一郎
- ・国際協力論（後期・2単位 分担） 遠城道雄

IV 研究活動

農場では、教員と技術職員が一体となってフィールド農学に関わる様々な研究および技術開発を推進している。また、農場は、フィールド農学の研究施設として、学部教員あるいは学部学生や大学院生の研究に広く活用され、その成果は分子生物学から農業現場直結型まで広い範囲に亘っている。

1 研究課題

1) 農場の研究課題

- ・ ヤムイモ類の生理生態学的研究
- ・ 熱帯・亜熱帯性植物の導入と順化並びに機能性成分に関する研究
- ・ サトウキビの生育特性と糖蓄積に関する研究
- ・ ヤムイモの増殖方法に関する研究
- ・ ウコン類の増殖方法に関する研究
- ・ ヤムイモの遺伝資源保存に関する研究
- ・ サトウキビの栽培に関する研究
- ・ カンゾウの優良系統選抜に関する研究
- ・ 湛水サトイモの栽培に関する研究
- ・ 遺伝資源としての口之島野生化牛に関する基礎研究
- ・ 解砕竹粉の飼料・敷料利用に関する研究
- ・ 黒毛和種・口之島野生化牛の交雑種による牛肉生産に関する研究
- ・ 焼酎粕の繁殖雌牛用飼料としての利用性に関する研究

2) 農場施設を利用した学部研究室の研究課題

(1) 学内農場農事部圃場を利用した研究課題

(作物学研究室)

- ・ カンショの栽培法、生産性および品質に関する研究
- ・ 水稻の温度反応に関する研究
- ・ 水稻の生育診断技術に関する研究（共同研究）

(熱帯作物学研究室)

- ・ サトウキビおよびトウガラシの栽培技術
- ・ アフリカ稲などの生育比較
- ・ 米粉適正品種の高収量技術の開発

(比較環境農学研究室)

- ・ 繊維作物ケナフの栽培と実習用繊維採取
- ・ ケナフ栽培による種子、繊維の収穫や実習で行う紙すき材料の確保
- ・ 油料作物ヒマ、雑穀のアマランサス、キノアの系統維持と形態観察

(作物生態学研究室)

- ・ 共生窒素固定量の農業気象学的評価法の確立

(植物育種学研究室)

- ・ 水稻の農業形質、生殖隔離、耐病性に関する遺伝分析（自然科学教育研究支援センター：田浦教授との共同研究）
- ・ アワの形態調査と品種保存
- ・ ヤムイモとカンゾウの多様性に関する遺伝的研究・サトウキビの糖蓄積に関する品種間差異（附属農場：遠城教授、朴准教授との共同研究）
- ・ 長命草の栽培試験（共同研究）

(果樹園芸学研究室)

- ・ ポンカン、キンカン、実験材料の栽培
- ・ ブルーベリーの栽培
- ・ 極早生ウンシュウとボンカンの栽培試験

(蔬菜園芸学研究室)

- ・ 異種作物の混植によるコンパニオンプランツ効果に関する研究
- ・ 桜島ダイコンに関する研究

・ヤムイモ・ウコン類の繁殖および地下部肥大に関する研究（農場：遠城教授，朴准教授との共同研究）
（観賞園芸学研究室）

- ・ツバキ属植物の系統発生並びに新花色の育種，及びヤギによるツバキ園管理（共同研究）
- ・ツバキ属植物の花色遺伝，及びガチョウなどによるツバキ園管理（共同研究）
- ・トルコギキョウの新花色の育種
- ・トルコギキョウの花形・花色の育種と切り花生産

（害虫学研究室）

- ・昆虫ウイルスによるチャノホソガの防除
- ・ガチョウ放飼によるチャ園の下草管理（家畜管理学研究室と併用）
- ・露地ナスにおける土着天敵を利用した害虫防除体系の確立
- ・トマトに発生するハダニ類およびそれらの天敵の生態
- ・侵入害虫チャトゲコナジラミ防除のためのミカントゲコナジラミ天敵採集

（家畜管理学研究室）

- ・地域未利用資源の飼料化に関する研究：サイレージ調製および消化・代謝試験，嗜好試験など
- ・ツバキ属植物の系統発生並びに新花色の育種，及びヤギによるツバキ園管理（共同研究）
- ・ツバキ属植物の花色遺伝，及びガチョウなどによるツバキ園管理（共同研究）
- ・ガチョウ放飼によるチャ園の下草管理（共同研究）

（土壌科学研究室）

- ・土壌微生物が生成する揮発性有機化合物（VOC）の組成解析

（植物栄養・肥料学研究室）

- ・ソラマメ内部黒変症の発症要因についての調査・研究
- ・マイナー作物の栽培技術・施肥管理についての調査・研究
- ・ソラマメのホウ素吸収と体内分配に関する研究

（焼酎製造学）

- ・焼酎学実習におけるサツマイモ苗床

（農業環境システム学研究室）

- ・環境保全型雑草制御に関する研究

（環境情報システム学研究室）

- ・水稻の生育診断技術に関する研究（共同研究）

（遺伝子実験施設）

- ・ワールドイネコレクションの栽培実験
- ・アジア産イネの形質調査と品種保存

（法文学部）

- ・共通教育「環境ビジネス1・2」で生協食堂の残さ堆肥化し，サツマイモを栽培，大学祭にて簡単なビジネスを立ち上げることを課題

（附属農場）

- ・ヤムイモの品質に関する研究
- ・サトウキビの栽培に関する研究
- ・カンゾウの優良系統選抜に関する研究
- ・湛水サトイモの湛水期間に関する研究

（2）唐湊果樹園を利用した研究課題

（果樹園芸学研究室）

- ・パッションフルーツの樹体発育，花芽分化および結実に関する試験
- ・タンカン台木試験
- ・奄美諸島在来カンキツの特性解明と利用に関する研究
- ・カンキツ類の進化および種分化に関する研究
- ・カンキツにおける倍数性育種
- ・アセロラの栽培・育種技術の改良
- ・高品質カンキツ果実生産に関する研究
- ・アボカド品種の特性解明

(森林学研究室)

- ・樹木学実習の実施およびその準備作業として樹木の観察および腊葉標本にするための枝の採取

(3) 指宿植物試験場を利用した研究課題

(附属農場)

- ・ヤムイモおよびキャッサバの遺伝資源保存と挿し木苗繁殖に関する研究
- ・ヤムイモ組織培養の生態学的研究
- ・ウコン類の増殖方法に関する研究

(4) 入来牧場を利用した研究課題

(家畜繁殖学研究室)

- ・家畜の繁殖生理・人工繁殖と遺伝子改変家畜作出の教育・研究

(家畜管理学研究室)

- ・山羊放牧による草地の植生管理
- ・シカ害防除に向けた研究協定の遂行（シカの捕獲、発信機装置、捕獲個体の飼育、栄養状態把握に向けた調査など）
- ・ブタの飼養試験

(附属農場)

- ・オクタン酸給与による血中グレリンの変化と発育
- ・オクタン酸の経口給与が血中グレリンおよび発育、飼料利用性に及ぼす影響
- ・代謝インプリンティングと耕作放棄地の活用による環境保全型牛肉生産システムの構築に関する研究
- ・和牛の代謝インプリンティングに関する研究
- ・竹の飼料化に関する研究
- ・解砕繊維状竹サイレージの飼料化に関する研究
- ・ストレスの少ない分娩予報システム構築
- ・動線解析技術を活用した分娩監視および健康管理システムの開発
- ・野生鳥獣害の現状と対策
- ・口之島野生化牛F1の高度利用に関する研究
- ・遺伝資源としての口之島野生化牛の保護
- ・口之島野生化牛の体成長に関する研究

(5) 学内農場畜産部を利用した研究課題

(家畜繁殖学研究室)

- ・家畜の繁殖生理・人工繁殖と遺伝子改変家畜作出に関する研究

(家畜育種学研究室)

- ・家畜・家禽における遺伝育種学的研究

(家畜管理学研究室)

- ・家畜の行動管理に関する研究
- ・未利用資源の飼料化に関する研究

(栄養生化学・飼料化学研究室)

- ・脂質代謝改善効果を持つ機能性食品の研究
- ・便通改善効果を持つ機能性食品の研究
- ・未利用資源の家畜飼料化利用を目指した研究

2 研究成果

1) 農場 (2017)

(1) 論文

- B.J. Park, T. Matsuta, H. Samejima, C.H. Park, I.J. Sung, B.D. Lee, and M. Onjo. 2017. Chemical Constituents of Mistletoe (*Viscum album* L. var. *coloratum* Ohwi). *IOSR Journal of Pharmacy and Biological Sciences*. 12(4). 19-23.
- A.Q. Rezaei, H. Kikuno, P. Babil, N. Takada, B.J. Park, M. Onjo, and H. Shiwachi. 2017. Nitrogen-fixing Entophytic Bacteria is Involved with the Lesser Yam (*Dioscorea esculenta* L.) Growth under Low Fertile Soil Condition. *Tropical Agriculture and Development*. 61(1): 40-47.

- 高山耕二・園田 正・林田雄大・石井大介・柳田大輝・富永 輝・松元里志・片平清美・稲留陽尉・塩谷克典・赤井克己・大島一郎・中西良孝. 2017. 牧場草地で捕獲した野生シカの第一胃内容物の植物組成および栄養状態. 鹿児島大学農学部学術報告67: 1-7.
- 高山耕二・小林美咲・主税裕樹・中西良孝・大島一郎・赤井克己. 2017. スズメの侵入防止に有効なネットの目合いは?. 鹿児島大学農学部附属農場研究報告, 38: 7-9.
- Hideyuki Mannen, Riku Yonesaka, Aoi Noda, Takeshi Shimogiri, Ichiro Oshima, Kiyomi Katahira, Misao Kanemaki, Tetsuo Kunieda, Yousuke Inayoshi, Fumio Mukai and Shinji Sasazaki. 2017. Low mitochondrial DNA diversity of Japanese Polled and Kuchinoshima feral cattle. *Animal Science Journal*, 88: 739-744.
- 高山耕二・原 裕・馬場和則・吉田拓人・石井大介・柳田大輝・松元里志・片平清美・大島一郎・中西良孝・赤井克己. 2017. 電気柵を利用した肥育牛舎への野生イノシシの侵入防止. 日本暖地畜産学会報60: 9-14.
- 高山耕二・園田 正・林田雄大・石井大介・柳田大輝・富永 輝・松元里志・片平清美・大島一郎・中西良孝・稲留陽尉・塩谷克典・赤井克己. 2017. 牧場草地における野生シカの侵入実態. 日本暖地畜産学会報60: 21-26.
- 高山耕二・吉田美代・主税裕樹・石井大介・松元里志・片平清美・大島一郎・中西良孝・赤井克己. 2017. シカが通り抜け可能な隙間の高さは? (短報論文). 日本暖地畜産学会報60: 135-137.
- 高山耕二・笹山琢洋・石井大介・廣瀬潤・松元里志・片平清美・大島一郎・中西良孝・赤井克己. 2017. 畜舎におけるディストレスコールならびにアラームコールを利用したカラス害防除. 日本暖地畜産学会報60: 95-100.
- Koji Takayama, Mako Matsunaga, Haruko Matsunaga, Naoki Nogami, Ichiro Oshima, Yoshitaka Nakanishi. 2017. Weeding effect of free-ranging pigs in an abandoned paddy field dominated by *Solidago altissima* L. *Journal of Japanese Society of Agricultural Technology Management* 24: 69-74.
- Koji Takayama, Daisuke Uchitomi, Yuko Mizoguchi, Yuki Chikara, Ichiro Oshima, Yoshitaka Nakanishi. 2017. Weeding effect of free-ranging geese in an abandoned paddy field. *Japanese Society of Agricultural Technology Management* 24: 119-124.
- Takayama K, Uchitomi D, Mizoguchi Y, Chikara Y, Oshima I, Nakanishi Y. 2017. Meat productivity of Satsuma Black Aigamo duckTM. *Japanese Journal of Organic Agriculture Science*. 9 (2): 43-47
- Koji TAKAYAMA, Masayo MIYASHITA, Ichiro OSHIMA, Masaharu MANDA, Aiko NOGUCHI, U. 2017. Meat productivity of Satsuma Black Aigamo DuckTM. *有機農業研究*. 9: 43-47.

*下線は農場教職員を示す。

(2) 口頭・ポスター発表

- J. I. Park, B. J. Park, Y. B. Kim, K. J. Chang and C. H. Park. 2017. A breeding trial using different accession of Tartary buckwheat. The 2nd International Symposium on Buckwheat Breeding.
- 高山耕二・野口愛子・大島一郎・中西良孝. 2017. アイガモ農法向けの肉用アイガモ『薩摩黒鴨™』の産肉性. 農業生産技術管理学会平成29年度大会. (熊本県立大学, 2017年9月12日.)
- 園田 正・中村南美子・富永 輝・石井大介・柳田大輝・飯盛 葵・松元里志・片平清美・稲留陽尉・塩谷克典・赤井克己・大島一郎・高山耕二・中西良孝. 2017. 通り抜けを学習したシカに有効な電気柵の設置方法は?. 日本暖地畜産学会第9回大会 (佐賀県佐賀市2017.10.21-22)
- 中西良孝・後藤孝美・松元里志・片平清美・大島一郎・高山耕二. 2017. シバ糞上移植における牛糞の違いがシバの生育に及ぼす影響. 2017年度日本草地学会弘前大会 (青森県弘前市2017.3.20-22)
- 吉村農・高山耕二・大島一郎・中西良孝・角田萌子・桜井普子・石堂昭憲. 2017. 日本在来種トカラ山羊における体尺測定値からの体重推定に関する研究. 第18回日本山羊研究会 (神戸市灘区2017.3.27)
- 主税裕樹・高橋浩・大島一郎・高山耕二・中西良孝. 2017. 飼槽の配置間隔が舎飼い山羊群の飼料採食競合に及ぼす影響. 第18回日本山羊研究会 (神戸市灘区2017.3.27)

*下線は農場教職員を示す。

(3) 著書

2) 農場を利用した研究成果 (2016年1月~12月)

(1) 論文

- Nasir, N., Takakura, A., Kitajima, A., Yamamoto, M. 2017. Genetic identification of 'Limau Kacang' (*Citrus* sp.), a local mandarin cultivated in West Sumatra by sequence-related amplified polymorphism (SRAP). *Fruits*, 72(2), 104-108.

- Yamamoto, M., Takakura, A., Tanabe, A., Teramoto, S. and Kita, M. 2017. Diversity of *Citrus depressa* Hayata (Shiikuwasha) revealed by DNA analysis. *Genetic Resources and Crop Evolution*, 64(4), 805-814.
- Shimada, A., Kubo, T., Tominaga, S. and Yamamoto, M. 2017. Effect of temperature on photosynthesis characteristics in the passion fruits 'Summer Queen' and 'Ruby Star'. *The Horticulture Journal*, 86(2), 194-199.
- Yamamoto, M., Ito, A., Sogabe, A., Kajiwar, Y., Ishihata, K. 2017. Shoot tip culture of acerola (*Malpighia glabra* L.). *Tropical Agriculture and Development*, 61(2), 57-61.
- 寺本さゆり・二宮隆徳・山本雅史. 2017. 喜界島(鹿児島県)在来カンキツ'シーター'(Citrus sp.)のベルガモット様香気成分の特徴およびその遺伝的背景. 園芸学研究. 16(3), 239-248.
- 高山耕二, 園田 正, 林田雄大, 石井大介, 柳田大輝, 富永 輝, 松元里志, 片平清美, 稲留陽尉, 塩谷克典, 赤井克己, 大島一郎, 中西良孝. 2017. 牧場草地で捕獲した野生シカの第一胃内容物の植物組成および栄養状態. 鹿児島大学農学部学術報告, 67: 1-7.
- 高山耕二, 原 裕, 馬場和則, 吉田拓人, 石井大介, 柳田大輝, 松元里志, 片平清美, 大島一郎, 中西良孝, 赤井克己. 2017. 電気柵を利用した肥育牛舎への野生イノシシの侵入防止. 日本暖地畜産学会報, 60: 9-14.
- 高山耕二, 小林美咲, 主税裕樹, 中西良孝, 大島一郎, 赤井克己. 2017. スズメの侵入防止に有効なネットの目合いは?. 鹿児島大学農学部附属農場研究報告, 38: 7-9.
- 高山耕二, 園田 正, 林田雄大, 石井大介, 柳田大輝, 富永 輝, 松元里志, 片平清美, 大島一郎, 中西良孝, 稲留陽尉, 塩谷克典, 赤井克己. 2017. 牧場草地における野生シカの侵入実態. 日本暖地畜産学会報, 60: 21-26.
- 高山耕二, 笹山琢洋, 石井大介, 廣瀬 潤, 松元里志, 片平清美, 大島一郎, 中西良孝, 赤井克己. 2017. 畜舎におけるディストレスコールならびにアラームコールを利用したカラス害防除. 日本暖地畜産学会報, 60: 95-100.
- 高山耕二, 吉田美代, 主税裕樹, 石井大介, 松元里志, 片平清美, 大島一郎, 中西良孝, 赤井克己. 2017. シカが通り抜け可能な隙間の高さは?. 日本暖地畜産学会報, 60: 135-137.
- Takayama K, Miyashita M, Oshima I, Manda M, Noguchi A, Nakanishi Y. 2017. Meat productivity of Satsuma Black *Aigamo* duck TM. *Japanese Journal of Organic Agriculture Science*. 9 (2): 43-47.
- Daichi Ijiri, Saki Shimamoto, Mana Kawaguchi, Airi Furukawa, Kazuki Nakashima, Osamu Tada, Akira Ohtsuka. Effects of first exogenous nutrients on the mRNA levels of atrogen-1/MAFbx and GLUT1 in the skeletal muscles of newly hatched chicks. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part A*. 205, 8-14.
- Saki Shimamoto, Daichi Ijiri, Mana Kawaguchi, Kazuki Nakashima, Osamu Tada, Hiroki Inoue, Akira Ohtsuka. β_1 - and β_2 -adrenergic receptor stimulation differ in their effects on PGC-1 α and atrogen-1/MAFbx gene expression in chick skeletal muscle. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part A*, 211, 1-6.

(2) 口頭・ポスター発表

- 下田代智英, 大浦美幸. 2017. サツマイモの3節苗直挿し栽培法の生育と塊根収量について. 日本作物学会第243回講演会
- 下田代智英, 宮寄訓里, 台信香澄. 2017. 穂の着粒構造がヒノヒカリの高温登熟性におよぼす影響. 日本作物学会第244回講演会
- 台信香澄, 下田代智英, 宮寄訓里. 2017. 後期重点施肥がヒノヒカリの高温登熟性におよぼす影響. 日本作物学会九州支部会
- 山田翔太, 下田代智英. 2017. サツマイモの節苗直挿し栽培における栽植密度の影響. 第14回鹿児島大学焼酎学シンポジウム
- 植村真郷, 保木良太, 西帯野翼, 池本悠一郎, 豊元大希, 田浦悟, 佐藤雅志, 石川隆二, 一谷勝之. 2017. アジア栽培イネ*O. sativa*とオーストラリア野生イネ*O. meridionalis*の交雑後代における種子形成機能遺伝子の脱落. 第12回九州育種談話会
- 畠中京介, 川口祥輝, Constantione Busungu, 一谷勝之, 田浦悟. 2017. イネ品種コシヒカリのイネ白葉枯病に対する反応. コシヒカリ×IR24の組換え型自殖系統の病徴反応. 第12回九州育種談話会
- 川口祥輝, 畠中京介, Constantione Busungu, 一谷勝之, 田浦悟. 2017. イネ品種PI231129のイネ白葉枯病に対する抵抗性. 第12回九州育種談話会
- 池本悠一郎, 大橋健二, 保木良太, 植村真郷, 豊元大希, 田浦悟, 一谷勝之. 2017. イネ雑種崩壊原因遺伝子の連鎖解析. 第12回九州育種談話会
- 豊元大希, 植村真郷, 保木良太, 池本悠一郎, 田浦悟, 一谷勝之. 2017. イネ日印交雑後代に見られる新規雑種弱勢現象. 第12回九州育種談話会

- 保木良太, 植村真郷, 池本悠一郎, 田浦悟, 一谷勝之. 2017. アジアの野生イネとオーストラリアの野生イネの雑種第一代で見出された雑種黄化原因遺伝子の連鎖分析. 第12回九州育種談話会
- 一谷勝之, 保木良太, 植村真郷, 田浦悟, 吉津裕貴, 畠山勝徳. 2017. イネ出穂期遺伝子 $FLT2$ の高密度連鎖解析. 日本育種学会第131回講演会
- Busungu C., K. Ichitani, J. Sakagami, T. Anai, Y. Kawaguchi, K. Kawabe, S. Taura Fine mapping and characterization of $XA42$, a gene showing multiple resistance to rice bacterial blight strains. 日本育種学会第131回講演会
- 保木良太, 植村真郷, 田浦悟, 久保山勉, 一谷勝之. 2017. $Hwa1-1$ と $Hwa2-1$ の補足作用によって引き起こされる雑種弱勢現象の系統間差異. 日本育種学会第131回講演会
- 田浦悟, 田中孝尚, Constantine Busungu, 川口祥輝, 河邊弘太郎, 一谷勝之. 2017. イネ品種あそみのりのイネ白葉枯病抵抗性. IV. 圃場抵抗性はどのように表現されるのか?. 日本育種学会第131回講演会
- 植村真郷, 保木良太, 西帯野翼, 田浦悟, 佐藤雅志, 石川隆二, 一谷勝之. 2017. アジア栽培イネ $O. sativa$ とオーストラリア野生イネ $O. meridionalis$ の交雑後代に見出された部分不稔現象の遺伝子分析. 日本育種学会第131回講演会
- 島田温史, 山本雅史. 2017. パッションフルーツ‘ルビースター’は‘サマークイーン’よりも栽培しやすい. 植物化学調節学会第52回大会, 82.
- 古澤典子, 楠聡太, 山本雅史. 2017. アセロラ (*Malpighia glabra* L.) の組織培養において光質および培地条件が生育に及ぼす影響. 日本熱帯農業学会第122回講演会, 89-90.
- 島田温史, 山本雅史. 2017. 数種の方法によるアボカド数品種の耐寒性評価. 園芸学会平成29年度秋季大会, 119.
- 山本雅史, 西口奈月. 2017. 奄美群島在来カンキツ類の果実特性. 園芸学会平成29年度秋季大会, 108.
- 楊学虎, 島田温史, 山本雅史. 2017. 高温がアボカド数品種の光合成特性に及ぼす影響. 園芸学会平成29年度春季大会, 299.
- 小山秀美, 今村清人, 坂元信一, 西和隆, 河邊弘太郎, 岡本新, 本多健, 大山憲二, 下桐猛. 2017. 日本畜産学会第122回大会, 黒毛和種の損徴に関する遺伝育種学的研究, 神戸大学
- 吉村農, 高山耕二, 大島一郎, 中西良孝, 角田萌子, 桜井普子. 2017. 日本在来種トカラ山羊における体尺測定値からの体重推定に関する研究. 第18回日本山羊研究会.
- 主税裕樹, 高橋浩, 大島一郎, 高山耕二, 中西良孝. 2017. 飼槽の配置間隔が舎飼い山羊群の飼料採食競合に及ぼす影響. 第18回日本山羊研究会.
- 園田正, 林田雄大, 石井大介, 柳田大輝, 富永輝, 松元里志, 片平清美, 稲留陽尉, 塩谷克典, 赤井克己, 大島一郎, 高山耕二, 中西良孝. 2017. 牧場草地で捕獲した野生シカの第一胃内容物の植物組成および栄養状態. 日本畜産学会第122回大会.
- 高山耕二, 野口愛子, 大島一郎, 中西良孝. 2017. アイガモ農法向けの肉用アイガモ『薩摩黒鴨™』の産肉性. 農業生産技術管理学会平成29年度大会.
- 園田正, 中村南美子, 富永輝, 石井大介, 柳田大輝, 飯盛葵, 松元里志, 片平清美, 稲留陽尉, 塩谷克典, 赤井克己, 大島一郎, 高山耕二, 中西良孝. 2017. 通り抜けを学習したシカに有効な電気柵の設置方法は?. 第10回日本暖地畜産学会佐賀大会.
- 島元紗希, 井尻大地, 中島一喜, 川口真奈, 井之上弘樹, 多田司, 大塚彰. 2017. ニワトリヒナ骨格筋においてアドレナリンによるPGC-1 α およびatrogen-1の遺伝子発現調節は異なる β アドレナリン受容体サブタイプを介する. 日本家禽学会2017春季大会.
- 井尻大地, 井之上弘樹, 島元紗希, 高橋宏敬, 川嶋祐貴, 佐藤渉, 大塚彰. 2017. *Paracoccus carotinifaciens*乾燥菌体の飼料給与が適温環境下または暑熱環境下で飼育されたブロイラーの骨格筋の色調, カロテノイド含量, および脂質過酸化度へ及ぼす影響. 日本家禽学会2017秋季大会.
- 島元紗希, 井尻大地, 東園みさと, 中島一喜, 大塚彰. 2017. ブロイラーヒナにおける初期成長期の増体量および骨格筋タンパク質分解量の個体差と飼料摂取量との関連性. 日本家禽学会2017秋季大会.
- 葛城翔平, 川内智裕, 境雅夫, 池永誠. 2017. 植物共存細菌の選択的DNA増幅法に用いるプライマーのカバー率と増幅効率. 2017年度日本土壌肥料科学会九州支部例会, 20頁
- 池永誠. 2017. 第三回日本微生物生態学会奨励賞受賞講演: 分子生態学的手法を用いた植物共存微生物の群集構造解析法の確立. 環境微生物系学会合同大会2017, J-004
- 川内智裕, 山野優花, 吉崎由美子, 池永誠, 境雅夫. 2017. 土壌の生物性評価手法としての微生物起源揮発性有機化合物の網羅的解析法の検討. 環境微生物系学会合同大会2017, P-331
- 福丸瑛里紗, 樗木直也, 赤木功. 2017. オクラ栽培におけるネコブセンチュウの初期密度と被害との関係. 園芸学会九州支部大会.

- 田浦悟, 田中孝尚, Constantine Busungu, 川口祥輝, 河邊弘太郎, 一谷勝之. 2017. イネ品種あそみのりのイネ白葉枯病抵抗性IV. 圃場抵抗性はどのように表現されるのか?. 日本育種学会, 19巻(別冊1) 22
- 川口祥輝, 畠中京介, Constantine Busungu, 一谷勝之, 田浦悟. 2017. イネ品種PI231129のイネ白葉枯病に対する抵抗性. 日本育種学会九州談話会
- 畠中京介, 川口祥輝, Constantine Busungu, 一谷勝之, 田浦悟. 2017. イネ品種コシヒカリのイネ白葉枯病に対する反応. コシヒカリ×IR24の組換え型自殖系統の病徴反応. 日本育種学会九州談話会

(3) 著書

- 中西良孝. 2017. 第7章牛の管理 4.肉用牛経営の生産性を高めるための条件, 動物の飼育管理(鎌田壽彦・佐藤幹・祐森誠司・安江健編). 文永堂出版, 151-159.
- 中西良孝. 2017. 第7章牛の管理 6.肥育期の管理, 動物の飼育管理(鎌田壽彦・佐藤幹・祐森誠司・安江健編). 文永堂出版, 163-165.
- 高山耕二. 2017. 第11章山羊およびめん羊の管理 1.山羊の管理, 動物の飼育管理(鎌田壽彦・佐藤幹・祐森誠司・安江健編). 文永堂出版, 239-248.

(4) 報告書

(5) 商業誌

(6) 特許

(7) 博士論文

- 島田温史. 2017. パッションフルーツ (*Passiflora edulis*) における高品質果実安定生産のための最適環境条件解明に関する研究.
- 高取由佳. 2017. 「トルコギキョウの花色遺伝に関する研究」

(8) 修士論文

- 新小田あづさ. 2017. ダイジョの品質特性に関する研究ーナガイモ類との比較においてー
- 楠 聡太. 2017. アセロラ (*Malpighia glabra* L.) における組織培養法の開発.
- 名取祐太. 2017. DNA分析による島嶼域在来カンキツ遺伝資源の類縁関係解明.
- 上田莉帆. 2017. 分子レベルから見たニワトリの羽色に関する研究
- 福丸瑛里紗. 2017. オクラ栽培におけるネコブセンチュウの初期密度と被害との関係.
- 松崎匠太郎. 2017. 焼酎廃液による雑草防除に関する研究

(9) 卒業論文

- 大浦美幸. 2017. サツマイモ 3 節直挿し栽培法について
- 内門滉喜. 2017. 水稻の高温耐性品種における着粒位置別の登熟特性の解析
- 宮村 匠. 2017. ダイジョの塊茎の芽を利用した増殖技術について
- 溝部高志. 2017. ダイジョ塊茎における酵素的褐変に関する研究
- 山崎那生. 2017. サトイモの湛水栽培における湛水時期の違いが生育, 収量に及ぼす影響
- 植木宏大. 2017. タンカンおよびボンカンにおける結実条件と果実品質の関係.
- 國貞香帆. 2017. 高濃度CO₂施肥がパッションフルーツの樹体生育および果実品質に及ぼす影響.
- 坂口龍之介. 2017. タンカンにおける高品質果実連年安定生産のための適正台木の探索.
- 淵田絢子. 2017. カンキツ, パッションフルーツおよびアセロラにおける倍数体作出.
- 江上大貴. 2017. トルコギキョウの斑入り花系統で発見されたトランスポゾンに関する研究
- 藤本樹理奈. 2017. ルコギキョウのF3'5'H遺伝子に関する研究
- 田中歩美. 2017. スーパーマジックラベンダーの遺伝子型と倍数体の作出
- 大川紗季. 2017. トルコギキョウの色素遺伝に関する研究 ～アンバー品種～
- 木原眞由子. 2017. 日本ウズラにおける浅胸筋および大腿筋で発現しているタンパク質の比較
- 満尾彩可. 2017. 家禽における新たなDNA抽出法
- 吉村 農. 2017. 日本在来種トカラ山羊における体尺測定値からの体重推定に関する研究
- 上園美紗. 2017. キクラゲ廃菌床サイレージの飼料特性に関する研究

- 坂本智恵子. 2017. シイタケ廃菌床を活用した肉用繁殖牛向け完全自給型発酵TMRの開発
 高柴 茜. 2017. 舎飼い肥育された口之島野生化牛交雑牛と黒毛和種の産肉性および骨格筋特性の比較
 林田雄大. 2017. 南九州における野生雄シカの産肉特性に関する研究
 浅野貴行. 2017. 分光画像を用いた水稻生育診断法の開発～マルチバンドカメラによる葉色推定～
 前野見仁. 2017. 焼酎粕を使った土壌消毒の可能性について
 松田慶五. 2017. 植物残さを用いた雑草防除法の開発

3 研究助成

動線解析技術を活用した分娩監視および健康管理システムの開発 (2017-2019). 農林水産省：経営体強化プロジェクト地域戦略・研究. (分担：大島一郎)
 湛水栽培法によるサトイモの優良種いも増殖および生産性向上 (2016-2018). 農研機構生研支援センター革新的技術開発・緊急展開事業 (地域戦略プロジェクト). (代表：遠城道雄)

4 学会等活動

日本熱帯農業学会, 日本作物学会, 園芸学会, 日本農作業学会, 日本育種学会, 日本草地学会, 農業生産技術管理学会, 日本畜産学会, 日本暖地畜産学会, 日本家禽学会

5 遺伝資源の保存

農場は、わが国における温暖地, 亜熱帯, 熱帯植物及びトカラ馬, 口之島野生化牛などの希少動物の遺伝資源保存センターとしての機能を有する。各付帯施設で保有する遺伝資源は下記のとおりである。

1) 唐湊果樹園

唐湊果樹園では、第24表に示すように、落葉果樹11種類51品種・系統, 常緑果樹2種類125品種・系統, 熱帯・亜熱帯果樹4種類19品種・系統を保存している。

第24表 唐湊果樹園で保存している果樹遺伝資源リスト

樹種名, 学名または組み合わせ	品種・系統名
落葉果樹	
モモ	
<i>Prunus persica</i> Sieb.	ちよひめ
<i>Prunus persica</i> Sieb.	ひめこなつ
<i>Prunus persica</i> Sieb.	はなよめ
スモモ	
<i>Prunus</i> sp.	メスレー
<i>Prunus</i> sp.	大石早生
<i>Prunus</i> sp.	カラリ
アンズ	
<i>Prunus armeniaca</i>	おひさまコット
<i>Prunus armeniaca</i>	ニコニコット
ウメ	
<i>Prunus mume</i> Sieb.	南高
<i>Prunus mume</i> Sieb.	鶯宿
<i>Prunus mume</i> Sieb.	竜峡小梅
ブドウ	
<i>Vitis</i> sp.	キャンベル アーリー
<i>Vitis</i> sp.	翠峰
<i>Vitis</i> sp.	シャイン マスカット
<i>Vitis</i> sp.	サンヴェルデ
カキ	
<i>Diospyrus kaki</i> L.	平核無
<i>Diospyrus kaki</i> L.	富有
<i>Diospyrus kaki</i> L.	次郎
<i>Diospyrus kaki</i> L.	禅寺丸
<i>Diospyrus kaki</i> L.	太秋

<i>Diospyrus kaki</i> L.	新秋
<i>Diospyrus kaki</i> L.	西村早生
<i>Diospyrus kaki</i> L.	ロウヤ柿
<i>Diospyrus kaki</i> L.	常葉柿
<i>Diospyrus kaki</i> L.	刀根早生
<i>Diospyrus kaki</i> L.	大核無
<i>Diospyrus kaki</i> L.	丹麗
ブルーベリー	
<i>Vaccinium</i> sp.	ホームベル
<i>Vaccinium</i> sp.	ウッダード
<i>Vaccinium</i> sp.	ティフブルー
<i>Vaccinium</i> sp.	クライマックス
<i>Vaccinium</i> sp.	パールリバー
<i>Vaccinium</i> sp.	オースチン
<i>Vaccinium</i> sp.	ブライトウェル
<i>Vaccinium</i> sp.	マグノリア
<i>Vaccinium</i> sp.	ジャージー
<i>Vaccinium</i> sp.	ブラッデン
<i>Vaccinium</i> sp.	ジョージアジム
<i>Vaccinium</i> sp.	オニール
<i>Vaccinium</i> sp.	シャープブルー
<i>Vaccinium</i> sp.	T100
クリ	
<i>Castanea</i> Miller	筑波
<i>Castanea</i> Miller	三原系
<i>Castanea</i> Miller	丹沢
<i>Castanea</i> Miller	ぼろたん
イチョウ (ギンナン)	
<i>Ginkgo biloba</i> L.	藤九郎
<i>Ginkgo biloba</i> L.	嶺南
<i>Ginkgo biloba</i> L.	久寿
ザクロ	
<i>Punica granatum</i> L.	在来系
クワ	
<i>Morus</i> sp.	しだれぐわ
常緑果樹	
ビワ	
<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	茂木
<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	長崎早生
<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	なつたより
カンキツ	
<i>Citrus macroptera</i> Mont.	カブヤオ
<i>C. hystrix</i> DC.	プルット
<i>C. latipes</i> (Swing.) Tan.	カシーバペダ
<i>C. aurantifolia</i> (Christm.) Swing.	メキシカンライム
<i>C. limettioides</i> Tan.	スイートライム
<i>C. bergamia</i> Risso et Poit.	ベルガモット
<i>C. Montana</i> Tan.	ビロロ
<i>C. excelsa</i> Wester	レモンリアル
<i>C. medica</i> L.	ブッシュカン
<i>C. medica</i> L.	マルブッシュカン
<i>C. limon</i> (L.) Burm. f.	アレンユーレカ
<i>C. limetta</i> Risso	スイートレモン
<i>C. balotina</i> Poit. et Turp.	パロチンベルガモット
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	安政柑

<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	晩王柑
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	チャンドラー
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	はやさき
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	紅まどか
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	水晶文旦
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	晩白柚
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	麻豆紅柚
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	土佐文旦
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	大橘
<i>C. pseudogulgul</i> Hort. ex Shirai	ジャガタラユ
<i>C. paradise</i> Macf.	マーシュ シードレス
<i>C. paradise</i> Macf.	オロブランコ
<i>C. paradise</i> Macf.	ルビー
<i>C. hassaku</i> Hort. ex Tan.	農間紅ハッサク
<i>C. medioglobosa</i> Hort. ex Tan.	ナルト
<i>C. natsudaiddai</i> Hayata	川野なつだいだい
<i>C. natsudaiddai</i> Hayata	紅甘夏
<i>C. ampullaceal</i> Hort. ex Tan.	ヒョウカン
<i>C. yamabuki</i> Hort. ex Y. Tanaka	ヤマブキ
<i>C. kawachiensis</i> Hort. ex Y. Tanaka	カワチバンカン
<i>C. aurantium</i> L.	カブス
<i>C. aurantium</i> L.	回青橙
<i>C. aurantium</i> L.	斑入りダイダイ
<i>C. myrtifolia</i> Rafin.	キノット
<i>C. rokugatsu</i> Hort. ex Y. Tanaka	ロクガツミカン
<i>C. canaliculata</i> Hort. ex Y. Tanaka	キクダイダイ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	ハムリン
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	トロビタ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	オリンダ バレンシア
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	タロッコ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	モロ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	ピラリマ
<i>C. tankan</i> Hayata	垂水1号
<i>C. tankan</i>	名護紅早生
<i>C. iyo</i> Hort. ex Tanaka	宮内伊予柑
清家ネーブル × クレメンティン	ありあけ
宮川早生 × トロビタオレンジ	清見
交雑親不詳のタンゴール	マーコット
<i>C. tamurana</i> Hort. ex Tanaka	ヒュウガナツ
<i>C. tamurana</i> Hort. ex Tanaka	オレンジ日向
<i>C. aurea</i> Hort. ex Tan.	カワバタミカン
<i>C. ichangensis</i> Swing.	イーチャングエンシス
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	山根
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	ユズ
<i>C. hanaju</i> Hort. ex Shirai	ハナユ
<i>C. sudachi</i> Hort. ex Shirai	スタチ
<i>C. spaerocarpa</i> Hort. ex Tan.	カボス
<i>C. nobilis</i> Lour.	クネンボ
<i>C. nobilis</i> Lour.	トークニン
<i>C. unshiu</i> Marc.	原木(4代目)
<i>C. unshiu</i> Marc.	青島温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	寿太郎温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	白川温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	十万温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	石地温州

<i>C. unshiu</i> Marc.	大津 4 号
<i>C. unshiu</i> Marc.	興津早生
<i>C. unshiu</i> Marc.	宮川早生
<i>C. unshiu</i> Marc.	かごしま早生
<i>C. keraji</i> Hort. ex Tan.	ケラジ
<i>C. keraji</i> var. Kabuchii Hort. ex Tanaka	喜界ミカン
<i>C. keraji</i> var. Kabuchii Hort. ex Tanaka	ナツクニン
<i>C. oto</i> Hort. ex Y. Tanaka	オートー
<i>C. reticulata</i> Blanco	吉田ボンカン
<i>C. reticulata</i> Blanco	薩州
<i>C. deliciosa</i> Ten.	地中海マンダリン
<i>C. genshokan</i> Hort. ex Tan.	ゲンショウカン
<i>C. genshokan</i> Hort. ex Tan.	ウスカワ
<i>C. tangerina</i> Hort. ex Tan	大紅ミカン
<i>C. clementina</i> Hort. ex Tan.	クレメンティン
<i>C. tachibana</i> (Mak.) Tan.	タチバナ
<i>C. kinokuni</i> Hort. ex Tan.	キノクニ
<i>C. sunki</i> Hort. ex Tan.	スンキ
<i>C. reshni</i> Hort. ex Tan.	クレオパトラ
<i>C. depressa</i> Hayata	シイクワシャー
<i>C. depressa</i> Hayata	シークニン (甘)
<i>C. depressa</i> Hayata	シークニン (辛)
<i>C. leiocarpa</i> Hort. ex Tan.	コウジ
<i>C. flaviculpus</i> Hort. ex Tanaka	キミカン
<i>C. sp.</i>	コズ
<i>C. sp.</i>	島みかん (黒島)
キング×地中海マンダリン	アンコール
クレメンティン×ダンシータンゼリン	フォーチュン
小西早生×フェアチャイルド	サガマンダリン
キング×ウンシュウミカン	カーラ
三保早生×クレメンティン	南香
今村温州×中野 3 号ボンカン	早香
クレメンティン×オーランド	ノバ
ミネオラ×クレメンティン	ページ
清見×中野 3 号ボンカン	陽香
清見×中野 3 号ボンカン	不知火
清見×ボンカン F-2432	はるみ
清見×アンコール	あまか
(清見×興津早生) × ページ	天草
(清見×アンコール) × マーコット	せとか
清見×興津早生	津之香
上田温州×ハッサク	スイートスプリング
ダンカングレープフルーツ×ダンシータンゼリン	ミネオラ
<i>C. madurensis</i> Lour.	シキキツ
<i>C. sp.</i>	辺塚ダイダイ
<i>C. sp.</i>	小林みかん
キンカン	
<i>Fortunella hindsii</i> (Champ.) Swing.	キンズ
<i>F. margarita</i> (Lour.) Swing.	ナガキンカン
<i>F. japonica</i> (Thumb.) Swing.	マルキンカン
<i>F. crassifolia</i> Swing.	ニンボウキンカン
<i>F. obovata</i> Tan.	チョウジュキンカン
<i>F. margarita</i> X <i>F. crassifolia</i>	ぷちまる
カラタチ	
<i>Poncirus trifoliata</i> (L.) Raf.	ルビドー

<i>Poncirus trifoliata</i> (L.) Raf.	ヒリュウ
熱帯・亜熱帯果樹	
パッションフルーツ	
<i>Passiflora edulis</i> × <i>P. edulis</i> P. <i>Plavicarpa</i>	サマークイーン
<i>Passiflora edulis</i> × <i>P. edulis</i> P. <i>Plavicarpa</i>	ルビースター
<i>Passiflora edulis</i>	アマミノジャンボウ
アセロラ	
<i>Malpighia emergunata</i> DC.	フローロブランカ
<i>Malpighia emergunata</i> DC.	フロリダスイート
アボカド	
<i>Persea americana</i> Mill	フェルテ
<i>Persea americana</i> Mill	エッディンガー
<i>Persea americana</i> Mill	ハス
<i>Persea americana</i> Mill	グエン
<i>Persea americana</i> Mill	リード
<i>Persea americana</i> Mill	ベーコン
<i>Persea americana</i> Mill	Lamb Has
<i>Persea americana</i> Mill	ピンカートン
<i>Persea americana</i> Mill	ズダーノ
リュウガン	
<i>Euphoria longan</i> Stend	N93-6
<i>Euphoria longan</i> Stend	カーラ
<i>Euphoria longan</i> Stend	ハエウ
<i>Euphoria longan</i> Stend	シーチョンブー
<i>Euphoria longan</i> Stend	エワイ
<i>Euphoria longan</i> Stend	ビオキウ
<i>Euphoria longan</i> Stend	サキップ
<i>Euphoria longan</i> Stend	タイウエン
<i>Euphoria longan</i> Stend	フンカク

2) 指宿植物試験場

当場では1918年の設置以来、現在に至るまで、熱帯・亜熱帯植物の収集・保存を行い、教育研究に利用するとともに、地域への普及を行っている。これまで、マンゴー、パッションフルーツなどの熱帯果樹類や熱帯産ヤムイモなどが、南九州で特産化されている。

遺伝資源植物として保存している植物数は、品種や系統も含めると約1,500種類である。これらは、鉢や露地植えで保存されており、面積ベースでは、温室の40%、ビニルハウスの32%、圃場の50%である。単純計算であるが、教職員はこれら遺伝資源植物の維持、管理に全体の作業の40%程度の時間を割いていることになる。一方で、遺伝資源植物からの収入は、全体の10%程度である。

遺伝資源植物の保存、評価、利用なども附属農場の重要役割のひとつであるが、教職員数と比較した場合の労力や予算的な面からもほぼ限界の状況である。とくに果樹類などは実生系など品種が明確でないものも多く、それらは、結実が見られないものも多い。地域農業への貢献のためにも、明確な品種と生産性の可能性がある熱帯・亜熱帯果樹類への切り替えを進めている。

第25表 指宿植物試験場で保存している主な植物遺伝資源リスト

科 名	和 名	学 名
アオイ	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i> Sieb. et Zucc.
アオイ	フウリンブツソウゲ	<i>Hibiscus schizopetalus</i> (M. T. Mast.)
アオイ	ハイビスカス	<i>Hibiscus</i> spp.
アオイ	ヒメブツソウゲ	<i>Malvaviscus arboreus</i> var. <i>drummondii</i> (Torr. et A. Gray) Schery
アオイ	ウナズキヒメフヨウ	<i>Malvaviscus arboreus</i> var. <i>mexicanus</i> Schlechtend.
アオイ	ローゼル	<i>Hibiscus sabdariffa</i> Linn.
アオギリ	ピンボンノキ	<i>Sterculia nobilis</i> Sm.
アオギリ	カカオ	<i>Theobroma cacao</i> Linn.
アカテツ	サボジラ	<i>Achras zapota</i> L.

Ⅳ 研究活動

アカテツ	クダモノタマゴ	<i>Lucuma nervosa</i> A.D.C.
アカテツ	ミラクルベリー	<i>Synsepalum dulcificum</i> Daniell
アカテツ	アビウ	<i>Pouteria caimito</i>
アカテツ	カニステル	<i>Pouteria campechiana</i> (H.B.K) Baehni
アカテツ	スイショウガキ	<i>Chrysophyllum cainito</i> Linn.
アカテツ	アルガンノキ	<i>Argania spinosa</i>
アカネ	サントアンカ	<i>Ixora chinensis</i> Lam.
アカネ	イクソラ・ダフイー	<i>Ixora duffii</i> T.Moore
アカネ	コーヒーノキ	<i>Coffea</i>
アヤメ	アメリカシャガ	<i>Neomarica northiana</i>
イネ	レモングラス	<i>Cymbopogon citratus</i> (DC.) Stapf
イネ	スズコナリヒラ	<i>Sinobambusa tootsik</i> Makino f. <i>albostrata</i> Muroi
イネ	ベチバー	<i>Vetiveria zizanioides</i>
イイギリ	ラブリーアップル	
イラクサ	ペリオニア	<i>Pellionia</i> spp.
イラクサ	アサバソウ	<i>Pilea cadierei</i> Gagnep. et Guillaum.
ウコギ	ホンコンカボック	<i>Schefflera arboricola</i> (Hayata) Hayata ex Kaneh.
ウラボシ	コウモリラン	<i>Platyserium bifurcatum</i> (Cav.) C. Chr.
ウルシ	マンゴー	<i>Mangifera indica</i> L.
オシロイバナ	ブーゲンビレア	<i>Bougainvillea</i> spp.
オトギリソウ	マンゴスチン	<i>Garcinia mangostana</i> L..
ガガイモ	スタペリア	<i>Stapelia</i> spp.
カキノキ	ブラックサボテ	<i>Diospyros ebenaser</i>
カタバミ	スターフルーツ	<i>Averrhoa carambola</i> L.
カタバミ	ナガバノゴレンシ	<i>Averrhoa bilimbi</i> Linn.
カヤツリグサ	カミガヤツリ	<i>Cyperus papyrus</i> L.
キク	スイゼンジナ	<i>Gynura bicolor</i> DC
キツネノマゴ	ルリハナガサ	<i>Eranthemum pulchellum</i> Andr.
キツネノマゴ	シロアミメグサ	<i>Fittonia verschoffeltii</i> (Lem.) van Houtte var. <i>argyroneura</i> (Coem.) Nichols.
キツネノマゴ	アトロプルブレウム	<i>Pseuderanthemum atropurpureum</i> (Bull)L. H. Bailey
キツネノマゴ	コダチヤハズカズラ	<i>Tunbergia erecta</i> (Benth.) T. Anderson
キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ	<i>Tunbergia grandiflora</i> (Rosb. ex Rottl.) Rpxb.
キョウチクトウ	アデニウム	<i>Adenium</i> spp.
キョウチクトウ	オオバナアリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i> L.
キョウチクトウ	ヒメアリアケカズラ	<i>Allamanda neriifolia</i> Hook.
キョウチクトウ	セイヨウキョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i> L.
キョウチクトウ	キバナキョウチクトウ	<i>Thevetia peruviana</i> (Pers.) K. Schum.
キョウチクトウ	インドソケイ	<i>Jasminum grandiflorum</i> Linn.
キントラノオ	アセロラ	<i>Malpigia glabra</i> L.
キントラノオ	アメイシア	<i>Bunchosia armeniaca</i> (Cav.) DC
クスノキ	アボガド	<i>Persea americana</i> Milll.
クマツヅラ	ハリマツリ	<i>Duranta repens</i> L.
クマツヅラ	チャイニーズハット	<i>Holmskioldia sanguinea</i> Retz.
クマツヅラ	ランタナ	<i>Lantana camara</i> L.
クマツヅラ	コパノランタナ	<i>Lantana montevidensis</i> (K. Spreng.) Briq.
クマツヅラ	ベトレア	<i>Petrea vollubilis</i> L.
クロウメモドキ	インドナツメ	<i>Zizyphus mauritiana</i> Lam.
クロウメモドキ	ナツメ	<i>Zizyphus jujuba</i> var. <i>inermis</i>
クワ	カンテンイタビ	<i>Ficus awkeotsang</i> Makino
クワ	インドゴムノキ	<i>Ficus elastica</i> Roxb. ex Hornem.
クワ	カシワバゴム	<i>Ficus lyrata</i> Warb.
クワ	ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i> L. f.
クワ	オオイタビ	<i>Ficus pumila</i> L.
クワ	アコウ	<i>Ficus superba</i> Miq. var. <i>japonica</i> Miq.
クワ	パンノキ	<i>Artocarpus altilis</i> Fosb.

クワ	フィカスウンベラータ	
ゴマノハグサ	ハナチョウジ	<i>Russelia equisetiformis</i> Schlechtend et Cham.
サトイモ	カラー	<i>Zantedeschia</i>
サトイモ	ヒトスジグサ	<i>Aglaonema costatum</i> N. E. Br.
サトイモ	アグラオネマ	<i>Aglaonema</i> spp.
サトイモ	クワズイモ	<i>Alocasia odora</i> K.Koch
サトイモ	オオベニウチワ	<i>Anthurium andreanum</i> Linden corr. Andre
サトイモ	サトイモ	<i>Colocasia esculenta</i> (L.) Schott
サトイモ	ジャイアントスワンブタロ	<i>Cyrtosperma chamissonis</i> (Schott) Merrill
サトイモ	ホウライショウ	<i>Monstera deliciosa</i> Liebm.
サトイモ	マドカズラ	<i>Monstera friedrichsthali</i> Schott
サトイモ	スパティフィラム	<i>Spathiphyllum</i> spp.
サボテン	ドラゴンフルーツ	<i>Hylocereus undatus</i>
シソ	クミスクチン	<i>Orthosiphon aristatus</i> (Blume) Miq.
シノブ	タマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i> (L.) K. Presl
ショウガ	ゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.) B.L.Burtt et R.M.Sm.
ショウガ	キフゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.) B.L.Burtt et R.M.Sm. 'Variegata'
ショウガ	フクジンソウ	<i>Costus speciosus</i> (J.Konig) Sm.
ショウガ	キョウオウ	<i>Curcuma aromatica</i> Salisb.
ショウガ	ウコン	<i>Curcuma longa</i> L.
ショウガ	ガジュツ	<i>Curcuma zedoaria</i> (Christm) Roscoe
スイカズラ	ゴモジュ	<i>Viburnum suspensum</i> Lindl.
センダン	ランサット	<i>Lansium domesticum</i> Jack.
タコノキ	アダン	<i>Pandanus tectorius</i> Soland.ex Balf.f.
タデ	ハマベブドウ	<i>Coccoloba uvifera</i> .
ソテツ	ナンヨウソテツ	<i>Cycas circinalis</i> L.
ソテツ	ソテツ	<i>Cycas revoluta</i> Thunb.
ツツジ	ケラマツヅジ	<i>Rhododendron scabrum</i> G. Don
ツクサ	ムラサキオモト	<i>Rhoeo spathacea</i> (Swartz) Stearn
トウダイグサ	クロトン	<i>Codiaeum variegatum</i> (L.) Blume
トウダイグサ	ハナキリン	<i>Euphorbia milii</i> Desmoul. var. <i>splendens</i> (Bojer ex Hook.) Ursch et Leandri
トウダイグサ	アオサンゴ	<i>Euphorbia tirucalli</i> L.
トウダイグサ	ナンヨウザクラ	<i>Jatropha integerrima</i> Jacq.
トウダイグサ	サンゴアブラギリ	<i>Jatropha podagrica</i> Hook.
トウダイグサ	セッカギンリュウ	<i>Pedilanthus tithymalodes</i> (L.) Poit.
トウダイグサ	ククイナツツ	<i>Aleurites moluccana</i> Wild.
トウダイグサ	タンボイ	<i>Baccaurea griffithii</i> .
トケイソウ	ムラサキクダモノトケイソウ	<i>Passiflora edulis</i> Sims.
トケイソウ	パッションフルーツ	<i>Passiflora edulis</i> × <i>P.edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>
トケイソウ	ミズレモン	<i>Passiflora laurifolia</i> .
ナス	ニオイバンマツリ	<i>Brunfelsia australis</i> Benth.
ナンヨウスギ	シマナンヨウスギ	<i>Araucaria heterophylla</i> (Salisb.) Franco
ノウゼンカズラ	ハリミノウゼン	<i>Clytostoma callistegioides</i> (Cham.) Bur.
ノウゼンカズラ	ジャカラнда	<i>Jacaranda</i> sp.
ノウゼンカズラ	イペ	<i>Tabebuia</i> sp.
ノウゼンカズラ	ソーセージノキ	<i>Kigelia Africana</i> (Lam.) Benth
パイナップル	パイナップル	<i>Ananas comosus</i> (Linn.) Merr.
パイナップル	チランジア	<i>Tillandsia</i> spp.
パイナップル	サルオガセモドキ	<i>Tillandsia usneoides</i> (L.) L.
バショウ	バナナ	<i>Musa</i> spp.
バショウ	ニコライ	<i>Strelitzia niccolai</i> Regel et Korn.
バショウ	ゴクラクチョウカ	<i>Strelitzia reginae</i> Ait.
バショウ	ユンケア	<i>Strelitzia reginae</i> var. <i>junceae</i> (Ker-Gawl.) H. E. Moore
パパイヤ	パパイヤ	<i>Carica papaya</i>
バラ	ヒメシャリンバイ	<i>Raphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino var. <i>integerrima</i> (Hook. et Rehd)

IV 研究活動

パンヤ	バキラ	<i>Pachira aquatica</i> Aubl.
パンヤ	トックリキワタ	<i>Chorisia speciosa</i>
パンヤ	ドリアン	<i>Durio zibethinus</i> Murr.
パンヤ	バオバブノキ	<i>Adansonia digitata</i> Linn.
バンレイシ	チェリモヤ	<i>Annona cherimola</i> Mill.
バンレイシ	アテモヤ	<i>Annona atemoya</i> hort.
バンレイシ	イランイラン	<i>Cananga odorata</i>
ヒガンバナ	クンシラン	<i>Clivia miniata</i> Regel
ヒガンバナ	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> Bak.
ヒユ	アルテルナンテラ	<i>Alternanthera ficoidea</i> (L.) R.Br.ex Roem. Et Schult.
フトモモ	キンボウジュ	<i>Callistemon speciosus</i> (Sims) DC.
フトモモ	ユーカリノキ	<i>Eucalyptus</i> spp.
フトモモ	ピタンガ	<i>Eugenia michelii</i> Lam.
フトモモ	フェイジョア	<i>Feijoa sellowiana</i> O. Berg.
フトモモ	メラレウカ	<i>Melaleuca</i> spp.
フトモモ	ギンバイカ	<i>Myrtus communis</i> L.
フトモモ	テリハバンジロウ	<i>Psidium cattleianum</i> Sab.
フトモモ	キミノバンジロウ	<i>Psidium cattleianum</i> Sab. Var. <i>lucidum</i> hort.
フトモモ	グァバ	<i>Psidium guajava</i> L.
フトモモ	レンブ	<i>Syzygium samarangense</i> (BL.) Merr.&L.M.perry
フトモモ	ミズレンブ	<i>Syzygium aqueum</i> Alston
フトモモ	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i> (L.) Alston
フトモモ	ジャボチカバ	<i>Myracia couliflora</i> O.Berg
フトモモ	グルミチャマ	<i>Syzygium dombeyi</i> Skeels
フトモモ	レインボーユーカリ	<i>Eucalyptus deglupta</i>
ベンケイソウ	カゲツ	<i>Crassula portulacea</i> Lam.
ベンケイソウ	カランコエ	<i>Kalanchoe blossfeldiana</i> Poelln.
ホルトノキ	ナンヨウザクラ	<i>Muntingia calabura</i> Linn.
マメ	ソウシジュ	<i>Acacia confusa</i> Merrill
マメ	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i> Durazz.
マメ	バウヒニア	<i>Bauhinia</i> spp.
マメ	カリアンドラ	<i>Calliandra</i> spp.
マメ	コバノセンナ	<i>Cassia coluteoides</i> Collad.
マメ	ナンバンサイカチ	<i>Cassia fistula</i> L.
マメ	サンゴシトウ	<i>Erythrina</i> × <i>bidwillii</i> Lindl.
マメ	アメリカデイコ	<i>Erythrina crista-galli</i> L.
マメ	マルバデイコ	<i>Erythrina crista-galli</i> L. 'Maruba-Deiko'
マメ	ヒスイカズラ	<i>Strongylodon macrobotrys</i>
マメ	タマリンド	<i>Tamarindus indica</i> Linn.
マメ	モンキーフラワーツリー	<i>Phyllocarpus septentrionalis</i> .
ミカン	シロサポテ	<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.
ミカン	フィンガーライム	<i>Citrus australasica</i>
ミカン	ワンピ	<i>Clausena lansium</i> (Laur.)
ミソハギ	メキシコハナヤナギ	<i>Cuphea hyssopifolia</i> H. B. K.
ミソハギ	ハナヤナギ	<i>Cuphea micropetala</i> H. B. K.
ムクロジ	リュウガン	<i>Euphoria longan</i> Lam.
ムクロジ	ライチ	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.
ムクロジ	ランブータン	<i>Nephelium lappaceum</i> Linn.
モクセイ	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i> C.B. Clarke
モクセイ	ハゴロモジャスミン	<i>Jasminum polyanthum</i> Franch.
モクマオウ	モクマオウ	<i>Casuarina stricta</i> Ait.
ヤシ	アカントフィラ	<i>Aiphanes acanthophylla</i> (Mart.) Burret
ヤシ	ユスラヤシ	<i>Archontophoenix alexandrae</i> (F.J.Muell.) H. Wendl. et Drude
ヤシ	ビンロウジュ	<i>Areca catechu</i> L.
ヤシ	ジョオウヤシ	<i>Arecastrum romanzoffianum</i> (Cham.) Becc.

ヤシ	サトウヤシ	<i>Arenga pinnata</i> (Wurmb) Merrill
ヤシ	クロツグ	<i>Arenga tremula</i> (Blanco) Becc. var. <i>engleri</i> (Becc.) Hatus.
ヤシ	ボンネッティー	<i>Butia bonnetii</i> (Becc.) Becc.
ヤシ	ブラジルヤシ	<i>Butia capitata</i> (Mart.) Becc.
ヤシ	クジャクヤシ	<i>Caryota mitis</i> Lour.
ヤシ	チャボトウジュロ	<i>Chamaerops humilis</i> L.
ヤシ	アレカヤシ	<i>Chrysalidocarpus lutescens</i> H. Wendle.
ヤシ	デュシアナ	<i>Coccothrinax dussiana</i> L. H. Bailey
ヤシ	ココヤシ	<i>Cocos nucifera</i> L.
ヤシ	テーブルヤシ	<i>Collinia elegans</i> (Mart.) Liebm. ex Oerst.
ヤシ	シロロウヤシ	<i>Copernicia alba</i> Morong
ヤシ	ヒメショウジョウヤシ	<i>Cyrtostachys lakka</i> Becc.
ヤシ	ベガニー	<i>Dryophloeus beguinii</i> (Burret) H. E. Moore
ヤシ	ケンチャヤシ	<i>Howea belmoreana</i> (C. Moore et F.J. Muell.) Becc.
ヤシ	ヒロハケンチャヤシ	<i>Howea forsteriana</i> (C. Moore et F.J. Muell.) Becc.
ヤシ	マルハウチワヤシ	<i>Licuala grandis</i> H. Wendl.
ヤシ	シナビロウ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R.Br.ex Mart.
ヤシ	ビロウヤシ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R. Br. ex Mart. var. <i>subglobosa</i> (Hassk.)
ヤシ	オガサワラビロウ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R. Br. ex Mart var. <i>boninensis</i> Becc.
ヤシ	トックリヤシ	<i>Mascarena lagenicaulis</i> L. H. Bailey
ヤシ	トックリヤシモドキ	<i>Mascarena verschaffeltii</i> (H. Wendl.) L. H. Bailey
ヤシ	ヴェデリアヌム	<i>Microcoelum weddellianum</i> (H.Wendl.) H. E. Moore
ヤシ	ミツヤヤシ	<i>Neodypsis decaryi</i> Jumelle
ヤシ	キリンヤシ	<i>Phoenicophorium borsigianum</i> (K.Koch) Stuntz
ヤシ	カナリーヤシ	<i>Phoenix canariensis</i> hort. ex Chabaud
ヤシ	ナツメヤシ	<i>Phoenix dactylifera</i> L.
ヤシ	カブダチソテツジュロ	<i>Phoenix reclinata</i> Jacq.
ヤシ	シンノウヤシ	<i>Phoenix roebelenii</i> O'Brien
ヤシ	サトウナツメヤシ	<i>Phoenix sylvestris</i> (L.) Roxb.
ヤシ	ヒメヤハズヤシ	<i>Ptychosperma elegans</i> (R.Br.) Blume
ヤシ	シュロチクヤシ	<i>Ptychosperma macarthurii</i> (H. Wendl.) Nichols.
ヤシ	カンノンチク	<i>Rhapis excelsa</i> (Thunb.) A. Henry
ヤシ	シュロチク	<i>Rhapis humilis</i> Blume
ヤシ	フロリダダイオウヤシ	<i>Roystonea elata</i> (Bartr.) F. Harper
ヤシ	サバルヤシ	<i>Sabal</i> spp.
ヤシ	ヤエヤマヤシ	<i>Satakentia liukuensis</i> (Hatsu.) H. E. Moore
ヤシ	コバナクマデヤシ	<i>Thrinax parviflora</i> Swartz
ヤシ	マニラヤシ	<i>Veitchia merrillii</i> (Becc.) H. E. Moore
ヤシ	ウイニン	<i>Veitchia winin</i> H. E. Moore
ヤシ	タケウマキリンヤシ	<i>Verschaffeltia splendida</i> H. Wendl.
ヤシ	オキナヤシ	<i>Washingtonia filifera</i> (Linden ex Andre) H. Wendl.
ヤシ	オキナヤシモドキ	<i>Washingtonia robusta</i> H. Wendl.
ヤマノイモ	カシュウイモ	<i>Dioscorea bulbifera</i> L.
ヤマノイモ	ヤムイモ	<i>Dioscorea cayenensis</i> Lam.
ヤマノイモ	トゲドコロ	<i>Dioscorea esculenta</i> (Lour) Burk.
ヤマノイモ	ヤムイモ	<i>Dioscorea rotundata</i> Poir.
ヤマノイモ	ダイジョ	<i>Disocorea alata</i> L.
ヤマモガシ	マカダミア	<i>Macadamia integrifolia</i> Maiden et Betché
ヤマモガシ	ステノカーパス	<i>Stenocarpus sinuatus</i>
ヤマゴボウ	オンブー	<i>Phytolacca dioica</i> L.
ユキノシタ	サラサウツギ	<i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc. f.plena (Maxim.) C.K. Schneid.
ユリ	キダチアロエ	<i>Aloe arborescens</i> Mill.
ユリ	アロエ	<i>Aloe</i> spp.
ユリ	ハラン	<i>Aspidistra elatior</i> Blume
ユリ	オリズラン	<i>Chlorophytum comosum</i> (Thunb.) Jacques

ユリ	十二の巻	<i>Haworthia fasciata</i> (Willd.) Haw.
ユリ	ソキアリス	<i>Ledebouria socialis</i> (Bak.) Jessop
ラン	ホウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i> (Andr.) Willd.
ラン	オンシジューム	<i>Oncidium</i> spp.
ラン	バニラ	<i>Vanilla planifolia</i> G. Jacks.
ラン	トックリラン	<i>Beaucarnea recurvata</i>
リュウゼツラン	リュウゼツラン	<i>Agave</i> spp.
リュウゼツラン	センネンボク	<i>Cordyline terminalis</i> (L.) Kunth
リュウゼツラン	センネンボク	<i>Cordyline terminalis</i> (L.) Kunth
リュウゼツラン	ベニフクリンセンネンボク	<i>Doracaena concinna</i> Kunth
リュウゼツラン	シロシマセンネンボク	<i>Doracaena deremensis</i> Engl.
リュウゼツラン	ギンヨウセンネンボク	<i>Doracaena sanderiana hort.</i> Sander ex M.T.Mast.
リュウゼツラン	レフレクサ	<i>Dracaena reflexa</i> Lam.
リュウゼツラン	ハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Hahnii’
リュウゼツラン	トラノオ	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Laurentii’
リュウゼツラン	ゴールドデンハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain ‘Golden Hahnii’
ワサビノキ	モリンガ	<i>Moringa oleifera</i> Lamarck

- ・指宿植物試験場で保存栽培している主な植物を掲載したが、品種、系統については原則として除外した。
- ・科名、和名、学名については以下の書籍を参考にし、明確な和名が無いものは文献1を主に参考した。

参考文献

- ・塚本洋太郎総監修：園芸植物大事典 1－6巻 小学館，1990
- ・熱帯植物研究会編：熱帯植物要覧 大日本山学会，1984
- ・土橋 豊：観葉植物1000 八坂書房，1992
- ・農林省熱帯農業研究センター：東南アジアの果樹，農林統計協会 1974

3) 入来牧場

- ・トカラ馬 (*Equus caballus*)

日本に現存する8種類の在来馬の一つで、1953年9月に鹿児島県の文化財として天然記念物に指定されている。鹿児島大学附属農場入来牧場では、平成29年度現在、推計43頭のトカラ馬を保有している。トカラ馬は完全な野生化状態で導入されており、頭数維持は自然交配自然分娩によって行われている。平成27年3月に加えて、平成28年11月に馬伝染性貧血検査のため全頭採血を実施し、全頭頭部皮下に個体識別チップを埋め込んでいる。

- ・口之島野生化牛 (*Bos Taurus*)

日本に現存する2種類の在来牛の一つで、鹿児島県十島村に生息している。口之島野生化牛は絶滅の危機に瀕しているため、鹿児島大学において保護と増殖のための取り組みを行っている。近年の十島村における正確な生息頭数は不明であるが、鹿児島大学農学部附属農場では、10頭を保有し、保護している。平成28年度は、純粋口之島野生化牛の流死産が発生したため、産子を得ることができなかった。このような状況からも、少頭数の閉鎖集団内での近親交配進行による弊害が予想されるため、新たな血統の導入を早急に検討する必要がある。

V 地域社会への貢献

農場では、地域住民を対象とした市民農業講座を開催するとともに、農業技術研究会を立ち上げて、農場で開発した技術の移転を進めている。また、幼稚園児、小学生を対象とした食育に取り組み、さらに地域住民に施設を開放し、また農場実習の副産物を定期的に販売するなど、様々な形で市民との交流を図っている。

1 農業技術の啓発

1) 市民公開講座

学内農場

開催日：11月8日、11月29日、12月20日、1月10日、1月31日 10時～11時（17名）

講座名：「野菜作り教室」

講師：朴 炳宰、野村哲也、中野八伯、クアシ グエサン ルシエン

唐湊果樹園

開催日：7月11日 13時～15時（20名）

講座名：果実を身近に感じてみませんか「ブルーベリーの収穫体験」

講師：朴 炳宰、福留弘康、廣瀬 潤、西澤 優

唐湊果樹園

開催日：7月25日 11時～14時（17名）

講座名：夏休み体験学習「ブルーベリーを育ててみよう！収穫してみよう！」

講師：朴 炳宰、福留弘康、廣瀬 潤、西澤 優

指宿植物試験場

開催日：7月27日 10時30分～15時（12名）

講座名：「熱帯果樹に触れてみよう」

講師：朴 炳宰、谷村音樹、田浦一成、勘米良祥多

2) 熱帯果樹・果実栽培にかかる技術指導（指宿植物試験場）

対象者：指宿熱帯果樹研究会、指宿熱帯果実振興会（10名）

開催日：4月11日、6月17日、9月16日、11月15日

3) 済州島農業技術院（唐湊果樹園）

対象：済州島農業技術院亜熱帯果樹担当者（3名）

時期：12月18日

内容：亜熱帯果樹の視察研修

4) 鹿児島県立農業大学校校外研修（指宿植物試験場）

対象：鹿児島県立農業大学校果樹科学生（7名）

時期：7月20日

内容：熱帯果樹類の栽培管理などについての研修

5) 雲南農業大学（指宿植物試験場）

対象：雲南農業大学学生（15名）

時期：12月7日

内容：農場内の視察研修

6) 熱帯果樹栽培視察（指宿植物試験場）

対象：農業普及課職員（4名）

時期：3月8日

内容：農場内の視察研修

2 地域活動に対する支援

該当無し

3 食育と環境教育の取り組み

子供達の食の乱れの是正や自然への渴望を満たすために、技術職員を中心に下記のような食育の取り組みをしている。

1) お芋ができるまで（学内農場農事部）

対象：めぐみ幼稚園、園児70名、教師 8 名

時期：5 月：芋の苗植え、10月：芋掘り

内容：自然とかけ離れた環境で育った園児に、土にまみれてサツマイモを育てることを介して、自然と食に興味を持つようにする。5 月にサツマイモの苗植え、10月に収穫を行う。

2) お米ができるまで（学内農場農事部）

対象：鹿児島市立八幡小学校、児童122名、教師 4 名

時期：6 月29日、9 月14日、9 月15日、9 月29日、11月13日、11月27日

内容：総合的な学習の時間に田植えから精米までの課程の見学と体験活動を行う。

3) 職場体験学習

学内農場農事部

対象：中学生 8 名

時期：5 月23日～25日、10月30日～31日

内容：職場体験学習を通して、農業の内容を知るとともに、働くことの意義や勤労の貴さを実感する。また、養液栽培管理やタマネギ定植を通して農業について知り、食への関心を高める。

唐湊果樹園

対象：中学生 4 名

時期：10月30日～31日

内容：職場体験学習を通して、農業の内容を知るとともに、働くことの意義や勤労の貴さを実感する。また、果樹の収穫や敷草などの作業を通して食への関心を高める。

4) 食育体験

対象：少年団親子31名

時期：7 月16日

内容：牧場見学および食育体験

5) 鹿児島県率農業大学校校外研修（指宿植物試験場）

対象：鹿児島県立農業大学校果樹科学生（7 名）

時期：7 月20日

内容：熱帯果樹類の栽培管理などについての研修。

6) ミカンのふるさと（唐湊果樹園）

対象：鹿児島大学教育学部附属幼稚園（園児72名、教師 5 名）

時期：11月21日

内容：みかん狩りをして、収穫の喜びを感じると同時に、育てている方々への感謝の気持ちを持つ。また、野山の様子を見たり、草花や虫と触れ合ったりして、秋の自然に親しむ。

7) 入来牧場牛肉フェア

対象：地域住民および鹿児島大学教職員

時期：11月15日～17日

内容：学部横断的食育の啓発、地域住民への入来牧場広報等を目的として、鹿児島大学生協と共同で喫茶イベントおよび牛肉販売を行った。喫茶イベントでは鹿児島大学生協学生委員会のメンバーによるメニュー考案を行い、学生間での食育啓発気運の高まりを促進した。

4 施設の公開

周辺住民の散策場所として、農場を常時開放するとともに、自治体や団体などが開催するイベントに対して、要請があれば積極的に施設の開放を行っている。

1) 農場へようこそ（学内農場農事部、唐湊果樹園）

対象：一般市民

時期：随時

内容：鹿児島市内に位置する学内農場農事部と唐湊果樹園は、農場見学、俳句読み、植物採集、写真撮影、散策など、都市に浮かぶオアシスとして市民の人気スポットである。農場としては、癒しの空間として農場を整備し、市民に開放するとともに、来場者に対して農場施設の役割を啓発する。

5 生産物の販売

学生実習に伴って算出される農産物の有効利用を図る観点から、生産物の展示即売会を下記のような日程で開催している。

1) 農場4施設合同の展示即売会

対象：一般市民約2,800名

時期：4月1日（土）9時～15時

場所：学内農場の一角にテント張りの特設会場を設営して開催

内容：実習で生産した米、野菜、苗物、花卉、観葉植物、果物、牛肉など約160品目25,000点を農場職員と学生が一体となって開催する展示販売会を行った。

2) 農場4施設合同の定期販売会

対象：一般市民

時期：毎月、第2週と第4週の水曜日の昼休み時に開催

場所：学内農場販売所

内容：実習で生産した米、野菜、苗物、花卉、観葉植物、果物などを販売した。

3) 施設毎の定期即売会

(1) 唐湊果樹園

対象：一般市民

時期：毎月、第1週と第3週の水曜日の昼休み時に開催

場所：唐湊果樹園

内容：実習で生産した果物を販売した。

(2) 指宿植物試験場

対象：一般市民

時期：毎週月曜日の昼休み時に開催

場所：指宿植物試験場

内容：実習で生産した熱帯果実、観葉植物などを販売した。

4) インフォメーションセンターでの販売

対象：一般市民

時期：生産物を出荷できる日に実施

場所：インフォメーションセンター（郡元キャンパス鹿児島大学正門横）

内容：実習で生産した米、野菜、苗物、花卉、観葉植物、果物などを販売した。

Ⅵ 業務事項

1 農場生産物の収入見込み額および実績

農場では、常に最新の技術を取り入れ、生産効率が高く且つ、高品質な植物、動物の育成に努めることにより、教育実習の実を高めるとともに、副産物の価値を高める算段を行っている。

平成29年度における各施設の収入見込額と収入実績額は、第26表のとおりである。収入実績は各施設間で増減がみられるものの、農場全体としては当初の収入見込額を8,176,637円上回った。

第26表 平成29年度農場生産物の収入見込み額および実績

施設	収入見込額 (円)	収入実績額 (円)	備考
学内農場農事部	2,100,000	3,104,240	
学内農場畜産部	0	0	
唐湊果樹園	5,500,000	6,923,432	
指宿植物試験場	1,800,000	1,618,835	
入来牧場	25,000,000	30,930,130	
研究室など	0	0	
合 計	34,400,000	42,576,637	

2 施設ごとの生産概況および収入実績

平成29年度における各施設の実績と収入実績の内訳は、下記のとおりである。

1) 学内農場農事部

(1) 生産概況

<作物・野菜部門>

学内農事部作物・野菜部門では例年同様、水稻、普通畑作物、露地野菜、施設野菜を栽培した。4号水田ではさつま黒もち、7・8号水田ではヒノヒカリの栽培を行った。また、2号圃場は作物生産学講座植物育種学研究室、自然科学教育研究支援センター遺伝子実験施設が保存するイネ遺伝資源の増殖・系統保存を兼ねた各種イネ品種の展示圃場として使用した。

普通畑作は、1号圃場では小麦を栽培し、景観作物のハイブリッドサンフラワー、小麦を栽培した。3号圃場では甘藷を栽培し、後作に緑肥であるシロカラシを栽培した。5号圃場では飼料用トウモロコシを栽培し、9号圃場では大豆の栽培を行い、後作でえん麦を栽培した。

露地野菜は5号圃場で根菜類・葉菜類・豆類の栽培を行い、10号圃場ではスイートコーンの栽培を行った。11号圃場では前作でハイブリッドサンフラワー、後作でタマネギの栽培を行った。

施設野菜は、1号温室で前年2月から7月までミニトマト・中玉トマト・パプリカを栽培した。

養液ハウスでは10月から2月まで、マイクロトマトの栽培を行った。

連棟ビニールハウスでは、即売会販売用並びに自主栽培実習用の野菜苗の栽培を行った。

水稻：水稻の栽培状況を第27表に示した。栽培品種は、「ヒノヒカリ」・「さつま黒もち」(黒米)の2品種の栽培を行った。

4号水田では黒米を栽培し、7・8号水田ではヒノヒカリの栽培を行った。5月下旬・6月上旬に播種、6月中・下旬に本田へ移植した。黒米栽培に関しては、今年度から鹿児島県の育成品種「さつま黒もち」を導入し栽培を行った。以前の黒米よりも茎が固く、稈長も短いため倒伏や害虫の被害もあまり見られず増収となったが、収穫時期が遅いため後作の栽培が困難となった。

第27表 水稻の栽培状況

圃場番号	面積(a)	品 種 名	5	6	7	8	9	10	11
			上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
2	15	遺伝資源保存展示	○	□				■	
4	18	黒 米		○	□				■
7	27	ヒ ノ ヒ カ リ	○	□				■	
8	25	ヒ ノ ヒ カ リ		○	□			■	

○播種, □定植, ■収穫

<普通畑作物>

普通畑作物の栽培状況を第28表に示した。

甘藷：農場実習Ⅱの自主栽培の一環で「ベニハルカ」と「シルクスイート」を栽培した。定植は、5月上旬に実施した。収穫は10月上中旬に行った。天候の影響か、収量は多かったが規格外も多く見られた。

大豆：「フクユタカ」を栽培した。今回は試験的に慣行区、マルチ2条植え区、マルチ4条植え区で栽培を行った。慣行区以外は倒伏が目立ち、収量も少なかった。7月中旬・8月上・中旬に中耕・土寄せ・除草を行った。8月・9月上旬にはハスモンヨトウ、カメムシ対策の防除を行った。今年から別の実習を取り入れたため収穫は職員で行った。

小麦：昨年に引き続き「ミナミノカオリ」という小麦の栽培を行った。小麦は11月中～12月上旬に播種を行った。昨年同様に防鳥対策を行い、被害を抑えることができたが、一部別の方法で対策を行った箇所はハトの食害に遭いその区画だけ減収となった。中耕や土寄せなどの管理作業も適宜行い、ある程度の収量があった。昨年度同様、製粉機により小麦粉を挽き希望者へ配布を行い試食してもらう事とした。また、ある程度の学生に試食してもらうために、ピザ生地を小麦粉で作り学生に試食してもらった。試食の感想は様々であったが比較的良好な反応が多かった。

第28表 普通作物の栽培状況

圃場番号	面積(a)	作物名	品種名	月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
1	12	小麦	ミナミノカオリ												
3	11	緑肥	ペリパシナ												
4	20	シロカラシ	地力												
5	6	サイレージオン	NS124												
7	27	緑肥	レンゲ												
8	24	緑肥	レンゲ												
9	15	大豆	フクユタカ												
10	8	えん麦	乾草えん麦												
11	7	えん麦	乾草えん麦												
12	15	景観作物	イタリアンライグラス												

○播種, □定植, ■収穫

<露地野菜>

露地野菜の栽培状況を第29表に示した。

タマネギ：早生品種「浜育」を栽培した。9月上中旬から下旬にかけて随時セルトレーに播種し、11月中旬から12月上旬にかけて、学生実習で機械移植した。播種後、昨年同様ヒートポンプによる発芽調整を行い発芽も良好だった。発芽後は、露地にて育苗を行ったが、途中で枯死するものが多く見られた。学生実習内でそれぞれ定植を行い、その後の生育は順調であった。

根菜類：播種から収穫までのライフサイクルを観察させるために栽培している。ダイコン「青首種：耐病総太り」と、今年から鹿児島伝統野菜「国分ダイコン」、「横川ダイコン」を取り入れた。カブは「耐病ひかり・もものすけ」を9月下旬～1月中旬まで栽培した。実習時の適期収穫とともに、農場生産物販売やインフォメーションセンターでの販売を随時行うことで、収穫期遅延による“す入り”を極力減らすことに努めた。また市民講座を対象とした「野菜作り教室」を開催し高い評価を得ることが出来た。伝統野菜のダイコンに関しては、市販種子の「耐病総太り」と伝統野菜の「国分ダイコン」、「横川ダイコン」での食味比較試験を行った。

葉菜類：根菜類と同じく、ライフサイクルの観察として、チンゲンサイ・ホウレンソウ・スイスチャード・コスレタス・タアサイ・ケルン・ミズナ・コマツナを栽培した。栽培期間の短い葉菜類は、播種から定植、収穫までを実習で行った。コスレタスとケルンの生育が遅く実習内での収穫に間に合わなかったが、他の葉菜類は実習内で管理・収穫を行った。

マメ類：昨年同様「野菜作り教室」開催にあたり、根菜・葉菜類のみでは収穫も早く終わり、また、途中の管理作業も無いことからスナックエンドウ「ニムラサラダスナック」とキヌサヤ「ニムラ赤花」を栽培し、実習でも担当株を設け管理作業を行った。市民講座の受講生や学生からの評判も良く今後とも継続してマメ類の栽培を行っていきたい。

スイートコーン：早生系品種「ハニーバンダム」を栽培した。4月下旬から5月中旬にかけて学生実習並びに職員で播種を行った。株の倒伏対策として、トンネル支柱を用いた誘引作業を全株に施した。学生実習では、播種作業の他、追肥・害虫捕殺・収穫作業・圃場の片付けを行い、品質・収量とも前年度並であった。

自主栽培：植物生産学コース農場実習Ⅱにおいて、農事部圃場を利用して、学生個人が露地野菜数種を対象に自ら栽

培計画を立て、栽培管理から収穫に至るまで、すべての過程を体験的に学ぶ、露地野菜栽培実習である。一人あたり5m×4m=20㎡の圃場を提供し、各学生は2～4品目の希望する野菜を栽培管理し、必要な道具、資材はすべて貸し出した。また、育苗期間中（春休み中）に行う野菜苗管理（播種・鉢上げなど）に自ら参加した学生は例年に比べ少なかった。栽培品目は果菜類が主となり、トマト・ミニトマト・ナス・キュウリ・ニガウリ・カボチャ・ピーマン・ズッキーニが栽培され、管理方法も原則自由とし、その中で学生への参考事例を提供する目的から、事前に実習時に雨よけ栽培や立体栽培といった資材を多用する仕立て方などの紹介を行った。また、5月下旬と6月上旬に中間報告会として、栽培の目標、栽培品目、現在の管理状況、今後の管理予定を、それぞれ5分程度の発表を行った。本実習全体を総括すると、日々の作物管理（芽かき・誘引・収穫・除草など）の姿勢、生育途中での害虫や病気の発生に対する対処、栽培・管理法の創意工夫といった点で各個人での意識の差が大きく反映されたが、全体的に定期的に管理を行っていたため、ほとんどの学生が順調に栽培を行っていた。

野菜苗：野菜苗は次年度の農場実習Ⅱにおける自主栽培や、生産物販売（農場実習Ⅰ）に利用される。1月中旬から3月上旬にかけてセルトレイ（72～128穴）に播種した。品目は中玉トマト（品種「レッドオーレ」）、ミニトマト（品種「アイコ」、「ピンキー」）、ナス（品種「黒陽」、「庄屋大長」「カレーなインド」）、ピーマン（品種「京鈴」）、パプリカ（品種「フルーピーレッド」「フルーピーイエロー」）、カボチャ（品種「えびす」、「ほっこり姫」）、キュウリ（品種「夏すずみ」）、ニガウリ（品種「グリーンレイシ」、「白寿限無」）と今回からズッキーニ（品種「ダイナー」、「オーラム」）を栽培した。

第29表 露地野菜の栽培状況

圃場番号	面積(a)	作物名	品 種 名	月旬 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
5	8	ダイコン	耐病総太り							○			●		
			横川ダイコン							○			●		
			国分ダイコン							○			●		
		カ ブ	耐病ひかり							○	●				
			もものすけ							○	●		●		
9	15	ビ ー ツ	デトロイトターレット							○			●		
		スナップエンドウ	ニムラダススナップ							○		●			
		キヌサヤ	ニムラ赤花キヌサヤ							○		●			
		ミ ズ ナ	サラダ水菜							○	□	●			
		レ タ ス	コスレタス							○	□		●		
		レ タ ス	ケルン							○	□		●		
		チンゲンサイ	長 陽							○	□	●			
		中国野菜	タアサイ							○	□	●			
		スイスチャード	ブライトライト							○	□	●			
		ホウレンソウ	早生サラダあかり							○	□	●			
		コマツナ	照彩小松菜							○	□	●			
10	8	スイートコーン	ランチャー82		○		●								
11	13	タマネギ	浜 育						○			□			
12	14	自主栽培		□		●									

○播種, □定植, ●鉢上げ, ■収穫

<施設野菜>

施設野菜の作付け状況について第30表に示した。

トマト：農場実習Ⅱ（生産環境工学・環境システム学・農業経営経済学コース）において、前年度12月から7月まで中玉品種「レッドオーレ」の垣根仕立て栽培を行った。実習では、芽かき・誘引・収穫などの管理作業に加えて、市況をもとに反収当たりの収穫高と収益を算出させ、経済栽培の可否を考察させた。

ハープ類：タイ王国・メジョー大学4年生の自主栽培学習として栽培した。栽培管理や収穫は研修生が随時自主的にを行い、収穫物は青果市場や飲食店に出荷させた。

葉菜類（ビーツ、フダンソウ）：夏場の施設内において耐暑性のある作物を栽培した。これらの葉菜類は、中学生職場体験学習においてベビーリーフとして収穫・調整を行なった後、青果市場に出荷した。

養液栽培

シーアスパラガス：塩生植物シーアスパラガス（アッケシソウ）の周年栽培を行った。

コマツナ：農場実習において、播種・定植を行った。

キュウリ：果長5～6cmのミニキュウリ「ナノQ」を定植した。植物生産学コースの学生を対象として、キュウリの整枝法として一般的な摘心栽培法ではなく、4本の子づるを力つるとしたつる下ろし栽培を実践させた。

第30表 施設野菜の施設別作付け状況

施設名称	面積(m ²)	作物名	品種名	月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
1号温室 (200m ²)	各20	トマト	レッドオーレ										○	□	---
		ハーブ類	コーンフラワー					○	□	---					
		〃	バジル					○	□	---					
		〃	レモンバーム					○	□	---					
		〃	デイル					○	□	---					
		〃	フェネル					○	□	---					
		ピーツ	デトロイト	○	---										
単棟ビニールハウス (120m ²)	40	シーアスパラガス													○
	40	コマツナ											○	□	---
	40	キュウリ	ナノQ	○	□	---									
連棟ビニールハウス (275m ²)	275	トマト苗	桃太郎	■										○	●
			レッドオーレ	■										○	●
		ミニトマト苗	アイコ	■										○	●
			イエローピコ	■										○	●
		ナス苗	黒陽	■									○	●	---
			長緑	■									○	●	---
		ピーマン苗	京鈴	■									○	●	---
		パプリカ苗	ピー太郎	■									○	●	---
			フルービーイエロー	■									○	●	---
			フルービーレッド	■									○	●	---
		カボチャ苗	えびす	■											○
			ほっこり姫	■											○
		ズッキーニ	ダイナー	■											○
		キュウリ苗	夏すずみ	■											○
			夏さんご	■											○
		ニガウリ苗	グリーンレイシ	■										○	●
			白寿限無	■										○	●

○播種, □定植, ●鉢上げ, ■収穫・販売

<花卉部門>

花卉部門は切り花、鉢物（花苗）に関する栽培及び農場実習を行っている。今年度は試験的にリモニウム（スターチス・シネンシス）を2号温室、トルコギキョウを11号圃場内ハウスと2号温室で栽培した。観賞園芸研究室の使用する圃場でセンチュウ被害が出たので11号圃場内は薬剤を用いた土壌消毒を行った。また、8号圃場南側の花壇は、花壇管理実習として農場実習Ⅱ（植物生産学コース4期）、農場実習Ⅱ（生産環境工学・環境システム学・農業経営経済学コース5期）、農場実習（食糧生産化学コース5期）において、花苗の鉢上げ、定植、管理などの実習を行った。

リモニウム：後期の実習で試験的にリモニウムの栽培を行った。ミヨシ種苗のリモニウムニューハイブリッドの「エバーシリーズ」、「ダイヤモンドシリーズ」を栽培した。早めに定植したものは順調に生育し、開花したが、定植が遅かったものは開花するまでの時間を要した。また品種間差が大きく、病害虫に弱いもの、茎が柔らかく自立しにくいものや、茎が固く折れやすいものなどがあつた。実習では収穫・調整を行った。

トルコギキョウ：昨年度に定植した観賞園芸学研究室育種の品種と市販品種（ボレロホワイト、ボヤージュアプリコットなど）は4月から6月にかけて収穫を行った。生育中期に葉先枯れ症（チップバーン）の発生、開花期にヨトウムシの食害が発生し、今後の課題となっている。一部は市場出荷も行った。播種は、8月と9月の集中実習にて行

い、定植、摘蕾、収穫調整など重要な管理作業を実習にて行った。

花苗：寄せ植え実習用の花苗としてプリムラポリアンタ、ビオラ、クリサンセマム、シロタエギクなどの栽培を行い、鉢上げと寄せ植え鉢の作成を実習で行った。また4月に行われる展示即売会用として、ビオラ、ペチュニア、シバザクラ、ハーブ類などの花苗とオステオスペルマムなどの花鉢を栽培した。これらの花苗の播種や鉢上げは主に実習プログラムの一環として行った。

第31表 花卉の施設別作付け状況

施設名称	栽培面積(㎡)	作物名	品 種 名	月旬4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
2号温室 (200㎡)	200	リモニウム	エバーシリーズ ダイヤモンドシリーズ						□						
3号温室 (200㎡)	200	プリムラ	ポリアンタ					○		●				■	
		ハボタン	パニーミックス					○		●				■	
		パンジー	虹色すみれ					○		●				■	
		カレックス	ブロンズガール					○		●				■	
		ジュンカス	ア フ ロ					○		●				■	
		アリッサム	クリスタル					○		●				■	
		白 妙 菊	ダイヤモンド					○		●				■	
		クリサンセマム	スノーランド					○		●				■	
		ビ オ ラ	ソ ル ベ	■								○		●	
		ジブソフィラ	ジブシー	■								○		●	
		ネ メ シ ア	セブンスヘブン	■								○		●	
		ペチュニア	ピ コ ベ ラ	■								○		●	
		ハーブ類	バジル他	■									○	●	
11号連棟ハウス	200	トルコギキョウ	研究室育種 ボレロホワイト他	---	■	■		○	○	□		□			

○播種、◇挿し芽、□定植・植え替え、●鉢上げ、■収穫・販売

(2) 収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第32表 平成29年度学内農場農事部における収入実績

種 類	売り払い量	金額(円)	備 考
水 稲			
黒米 玄米	395.2 kg	441,000	
ヒノヒカリ 玄米	32 kg	8,000	
ヒノヒカリ 精白米	2,623 kg	728,000	
畑 作			
いも類	サツマイモ	868 kg	155,100
	ヤムイモ	20 kg	6,000
豆類	キヌサヤ	15.6 kg	19,500
	スナップエンドウ	55.4 kg	42,600
	大豆	63 kg	37,800
	キュウリ	33.3 kg	14,492
果菜類	ナス	6 袋	600
葉茎菜類			
	タマネギ	3,414 kg	455,200
	シーアスパラガス	19.1 kg	95,520
	ベビーリーフ	10.1 kg	21,437
	ディル	0.5 kg	6,251
	バジル	4.1 kg	25,626
	ミズナ	19 袋	1,900
	その他	9.5 kg	9,104
根菜類	カブ	138 袋	13,800
	ダイコン	58.7 kg	7,114
苗物	野菜苗	7,605 鉢	380,727
	花苗	1,912 鉢	79,920

ターサイ、パクチー等

	花鉢	211	鉢	46,600
	花鉢（寄せ植え）	105	鉢	49,900
	ハーブ苗	520	鉢	26,000
切花	トルコ桔梗	1,673	束	337,517
	スターチス	1,579	束	94,532
合 計				3,104,240

2) 唐湊果樹園

(1) 生産概況

本年度の唐湊果樹園における降水量は2,274mmであり、日照時間は2,027時間であった。台風の影響も軽微であり、生産状況は概ね良好であった。しかし、26年度より柑橘類と甘柿においてカラスによる被害がみられたことから、本年度も防鳥テグスの設置を行った。

27年度から農学部において「地域連携ネットワークプロジェクト」が発足し、唐湊果樹園では湧水町のアーモンド植栽・栽培試験受託研究に協力することになり、第3圃場に、アーモンドを栽培している。

<露地栽培（常緑果樹）>

カンキツ類

一般的に発芽及び開花は平年並みで、台風の被害もなかった。病害虫防除は慣行防除に比べ少なく、適宜防除を行った。本年度も例年通り微生物農薬（バイオリサカミキリ）防除を実習に取り入れ、ゴマダラカミキリムシの防除を行った。バイオリサカミキリによる防除は、約10年間継続して行っており、カミキリムシによる被害は軽減している。カンキツ全般に関する実習として、微生物農薬を使用したゴマダラカミキリムシ防除、ゴマダラカミキリムシ幼虫駆除、夏肥施用、秋肥施用、春肥施用、堆肥施用、摘果、早生温州収穫、普通温州収穫、中晩柑収穫、剪定を実施した。

温州ミカン：極早生温州「かごしま早生」、早生温州「興津早生」、「宮川早生」、普通温州「青島温州」で隔年交互結実栽培を行っている。そうか病の発生が見られたことから、病斑の除去を5月下旬から約1か月間行った。遊休樹の管理は、6月下旬から7月下旬にかけて全摘果、夏季剪定を行った。生産樹の仕上げ摘果は、極早生温州を7月中旬に、早生温州を7月下旬から8月上旬に、普通温州を8月下旬から9月上旬にかけて行った。収穫作業は極早生温州を8月下旬から10月中旬、早生温州を10月下旬から12月中旬、普通温州を12月中旬から下旬にかけて行った。収穫量は極早生温州1,013kg、早生温州3,049kg、普通温州2,574kgであった。剪定作業は3月以降に行った。学生実習では、遊休樹の全摘果及び剪定を行った。

ポンカン：摘果は8月上旬に行った。収穫は12月中旬から1月中旬にかけて行い、収穫量は3,487kgであった。学生実習では12月中下旬に収穫を行った。

スイートプリング：摘果は9月上旬に行い、夏秋梢剪定は10月下旬に行った。収穫は12月中旬から1月下旬にかけて行い、収穫量は1,664kgであった。

不知火：摘果は8月中下旬に行った。また、風雨害・病害虫対策として、第1圃場パイプハウス内の露地栽培の樹については、ビニル被覆を11月上旬に行い、第2圃場の樹については、果実への袋かけを12月上旬から下旬にかけて行った。収穫は、2月上旬から下旬にかけて行い、収穫量は2,730kgであった。学生実習では12月上旬に果実の袋かけを行った。

甘夏：第1圃場で、紅甘夏を栽培している。摘果は8月上旬に行った。また、収穫は2月下旬から3月上旬にかけて行い、収穫量は754kgであった。

大橘：摘果は、6月下旬から8月上旬にかけて行った。また、収穫は2月下旬から3月上旬にかけて行い、収穫量は2,239kgであった。剪定は3月下旬に行った。実習では6月下旬に摘果を行い、2月下旬に収穫を行った。

タンカン：摘果は、7月下旬から8月上旬にかけて行った。収穫までの鳥害、寒害及び日焼け防止対策としてネット状果実袋（サンテ）掛けを12月上中旬に行った。収穫は、2月上旬から下旬にかけて行い、収穫量は2,394kgであった。実習では、12月上中旬にサンテ掛けを行い、2月下旬に収穫を行った。

ビワ：既存の「茂木」、「長崎早生」、「なつたより」を栽培し、袋かけ、剪定、誘引、施肥、病害虫・雑草防除等の管理は適期に行った。また、学生実習において微生物農薬（バイオリサカミキリ）を使用したクワカミキリムシ防除、剪定（副梢管理）、摘蕾を実施した。収穫量は、86kgであった。

<露地栽培（落葉果樹）>

ウメ：収穫は5月中旬から6月上旬にかけて行い、収穫量は156kgであった。剪定は1月中旬に行った。学生実習では9月下旬に堆肥の施用を行った。

モモ、スモモ：現在「千代姫」、「日川白鳳」、「ひめこなつ」、「はなよめ」で、生産を行っている。収穫は6月上旬か

ら7月上旬にかけて行い、収穫量は、モモ130kg、スモモ36kgであった。しかし、「日川白鳳」および「千代姫」において、収穫期が梅雨時期と重なるため、腐敗果が多くみられた。また、樹勢も衰えていたことから、低温要求時間の少ない極早生品種の「はなよめ」へと更新した。学生実習では、モモについて、摘果・袋かけを5月中下旬、堆肥施用を9月下旬、剪定を1月下旬から2月上旬にかけて行い、「はなよめ」の定植を2月下旬に行った。

カキ：カキ栽培は学生実習の落葉果樹部門の中心に位置づけられている。そのため、摘果、堆肥施用、収穫、脱渋及び剪定の一連の管理を実習で行っている。特に固形アルコール（ネオヘースタン）を使用した「平核無」の脱渋実習は学生への教育効果が大きく、生産物販売においても大好評である。収穫量は渋柿1,557kg、甘柿244kgであったが、甘柿の収穫量は、鳥害の影響で例年と比較して減少した。

<施設栽培>

不知火：8月中旬に摘果を行い、2月上旬に収穫を行った。

ブルーベリー：コンテナ養液土耕栽培を導入後、順調に生育している。結実の向上・良品質化を狙ってミツバチの施設内放飼を取り入れている。収穫量は463kgであり、ミツバチ未放飼と比べて安定的な収量確保と同時に品質の向上も認められた。剪定は1月中下旬に行った。

ブドウ：硬質プラスチックハウス内で、緑黄色ブドウ1品種の根域制限栽培を行っている。また、簡易屋根かけ式のブドウ棚では、緑黄・赤色系統3品種を栽培している。収穫量は483kgであった。

アセロラ：2005年より(株)ニチレイフーズと共同で、アセロラの品種登録に向けて登録審査用の品種と対照品種の比較栽培を行っている。

温室ビワ、グレープフルーツ：根域制限地床栽培を行い、順調に生育している。

落葉果樹：落葉果樹パイプハウス内では、ブドウ苗を中心に管理している。

果樹苗：カンキツ、ビワ、ブルーベリーを中心に育成している。施肥、除草、病害虫防除の管理は適宜行った。学生実習ではカンキツ、ビワの接ぎ木、カンキツ苗の鉢替え、カラタチの鉢上げ、鉢替え、ブルーベリーの鉢上げ、鉢替え、挿し木を実施した。また、接ぎ木実習後の苗は学生が各自で管理し、経過観察を7月中旬まで行った。

第33表 果樹の栽培面積		単位：a	単位：a	
露地栽培：			施設栽培：	
ウンシュウミカン		80	ビワ、リュウガン	2.4
ボンカン		18	不知火（2棟）	5
ブンタン		10	ブドウ（硬質ハウス）	2
タンカン		8	ブドウ（簡易ハウス）	5
不知火		8	ブルーベリー	6
スイートスプリング		8	グレープフルーツ	2
ハッサク・早香・津之香		10	アセロラ	0.7
その他カンキツ		30	果樹苗（4棟）	9
カキ		25		
ビワ		8		
モモ		8		
スモモ		2		

（2）収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第34表 平成29年度唐湊果樹園における収入実績

種 類	売り払い量	金額(円)	備 考
果実類			
柑橘類			
スイートスプリング	2,488.5 kg	397,650	
タンカン	1,712.7 kg	449,100	
ボンカン	2,832 kg	710,950	
温州ミカン	7,217 kg	1,307,400	極早生,早生,普通
不知火	1,303 kg	397,900	
サワーボメロ	1,986 kg	264,800	
早香	739 kg	194,850	

その他	その他（柑橘類）	1,697	kg	362,300	甘夏, はるか, 小ミカン等
	カキ	1,462.4	kg	438,600	
	ブルーベリー	413.2	kg	663,000	
	ブドウ	479.5	kg	685,100	
	モモ	158	パック	73,000	
いも類	その他果実	285.4	kg	166,200	ビワ, パッションフルーツ等
	サトイモ	314	kg	62,800	
施設栽培	果樹苗	937	鉢	629,518	ブルーベリー苗等
	植木苗	149	鉢	37,764	イペ等
	柑橘苗	172	鉢	82,500	
合 計				6,923,432	

3) 指宿植物試験場

(1) 生産概況

今年度は平成28年1月の大雪・大寒波に加えて9月19日の台風16号により、露地野菜及びヤムイモが被害を受けた。施設栽培の熱帯果樹においては、台風による直接的な被害はなかったが、ガラス温室のガラスが割れるなどの被害を受けた。

遺伝資源植物として保存・継代栽培を続けている、熱帯性ヤムイモを1000㎡栽培した。

<各種作物>

クミスクチン・グアバ（特用作物）：圃場で栽培を行っているクミスクチンを収穫し、乾燥して、茶用として販売した。注文を受けてから収穫乾燥しているため、収穫量は、その年の注文数により大きく変化しているが、ここ数年、需要量は増加傾向にある。茶としての利用であるため、農薬散布は一切行わなかった。

グアバ葉は平成28年1月の大雪と寒波による被害で収穫が出来なかった。

ヤムイモ：センチュウの害が認められるため、平成26年12月から栽培予定圃場にエンバクを栽培した。3月にすき込み耕耘後に、マルチングし、4月下旬に定植し、収穫は11月下旬に行った。

露地野菜：当場では、ヤムイモ・ジャガイモ・セロリ・ブロッコリーなどの野菜と指宿特産のソラマメなどの栽培をしている。ここ数年、寒波によりジャガイモ・セロリが被害を受け収量が減少していたので、今年度からジャガイモは定植後に不織布を、セロリはトンネルビニールをかけることにより寒波による被害を。軽減することが出来た。収穫は来年度になるが収量増の期待できる。本年度は、イモ類(262kg)・豆類(130袋)・野菜(578袋)を出荷した。

施設野菜：今年度より温泉水と指宿植物試験場で作成したヤシガラチップやヤシガラを燻炭したものを利用した溶液土耕トマト栽培を本格的に始めた。温泉水の塩分によりストレスがかかり、高糖度トマトを作ることが出来た。今年度は378袋生産した。

<熱帯果樹>

施設では、ビニールハウスにおいてマンゴーを200㎡、パッションフルーツ90㎡、ガラス温室において、ゴレンシを50㎡それぞれ栽培した。おおむね例年通りの生育状況であった。果樹苗として鉢を販売した。

施設マンゴー：今年度も順調に生育し、収量は約141kgとなった。

接木マンゴー苗の販売も行い、23鉢出荷した。

マンゴー（アーウィン）を更新するための苗木の育成は順調に進んでおり、果樹温室に導入した50品種のマンゴーも順調に生育している。今後も優良品種や新しい品種に随時更新していく予定である。

施設パッションフルーツ：平成16年の10月より栽培を開始したパッションフルーツはタマゴノトケイソウの品種選抜のためパッションフルーツの栽培面積を約半分に縮小し、樹木の更新時期となってきたため果実の収穫量が減少し、6～7月に収穫する夏実は、約5.4kgを出荷した。

果実の他に行燈仕立ての苗の生産を行い、今年度は82鉢出荷した。

今後は、実習などでパッションフルーツのベット内の用土の入替え及び苗木の定植を随時行っていく。

施設スターフルーツ：スターフルーツ（ゴレンシ）は果実が星型をしているところから、見た目の面白さで、珍重されている。蔬菜温室をゴレンシに特化し、今年度も夏季の高温対策として、液体遮光材を使用した温室内の気温の高温対策を実施した。

生育・収量ともに順調で、収穫した果実は今年度も学内販売と市場出荷を行った。今年度は昨年度の約7倍の果実（162kg）を市場出荷した。

栽培品種のカリィ・カイラ各3列栽培しているが、今年度は各品種1列更新のため植替えを行った。残り2列も

来年度・再来年度の1列ずつ更新していく予定である。

露地グアバ：平成28年1月の大雪・寒波の被害からの回復が見込めない状況なので、改植するための苗木育成を昨年度から始めたが、苗木育成にも時間がかかるため当分の間は果実・乾燥葉の収穫は望めない。

アボカド：平成24年頃から路地でアボカドの栽培を始めており、昨年新たに導入した品種は順調に生育しており少量ではあるが収穫も出来た。今後も栽培管理を続け、将来は安定した果実の収穫が出来ると期待している。

熱帯果樹苗：学生実習で場で栽培している熱帯果樹の接木・挿し木・取り木を行い、苗木生産を行っている。

＜観賞用植物＞

当場では、多くの遺伝資源植物の保存を行っている。これらを原木として、実習において、取り木、挿し木、株分けなどの繁殖法を行うため、必然的に販売する植物の種類数も多くなっている。

大鉢の観葉植物の栽培をおさえて中小鉢の植物に重点を置いてきているが、農学部の花壇ボランティアで使用する花苗などの生産を本格的にはじめた。生育はおおむね順調であった。

販売品目は約60種類あり、9割以上が、熱帯・亜熱帯を原産とする花木、観葉植物などの鉢物であった。

＜今後の検討課題＞

マンゴー・ゴレンシの優良品種の導入を行い、果実の生産が出来る状態になってきたので、今後指宿の気候にあった品種の選定をしていく必要がある。

平成28年1月の寒波による被害を受けたグアバに関しては樹勢の回復が期待できないので、苗作りから始め新規に定植して管理していく方向で今後検討していく。

ヤムイモに関しては、保存系統数の増加による栽培面積の増大、連作による病害虫の発生が認められ、これらに対応するために作業労働時間が多くなりつつある。保存方法や系統数の見直しとともに、圃場のローテーションも検討する必要がある。

熱帯・亜熱帯果樹類は台風害だけでなく、冬季の寒害回避からの点からも施設での栽培が不可欠である。当場では、熱帯亜熱帯性作物類を中心とした実習教育充実のため、果樹類の増殖を行っているが、ビニールハウスでは、台風襲来時の被害が大きく、安定生産のためには、硬質プラスチックハウスへの切り替えなどを検討する必要がある。また、現在遺伝資源として保存している品種不詳の実生系統を優良品種へと更新することも課題である。

日本の熱帯果樹栽培は、暖地における特産品目として栽培面積が広がりつつある。しかしながら、認知度の低い果樹であることは否めない。そのため、病害虫防除のための適応農薬の種類は極端に少なく、その防除にはたいへん苦慮しており、今後検討が必要である。

（２）収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは市場出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第35表 平成29年度指宿植物試験場における収入実績

種 類		売り払い量	金額(円)	備 考
畑作物	いも類	サトイモ	66 kg	11,100
		ジャガイモ	319.6 kg	72,400
	野菜類	クウシンサイ	53.1 kg	21,700
		セロリ	233 袋	28,280
		ソラマメ	130 袋	26,000
		その他		6,200
施設栽培	花苗・花鉢	ペチュニア	35 鉢	5,900
		パンジー	68 鉢	2,700
		ケイトウ	51 鉢	5,100
		ワイルドストロベリー	96 鉢	23,563
		その他	572 鉢	64,992
	果実	パッションフルーツ	137 袋	53,200
		マンゴー	141 kg	286,950
	果実	スターフルーツ	296.2 kg	382,614
	その他			21,200
	果樹苗	マンゴー苗	46 鉢	115,500
		トケイソウ苗	74 鉢	74,000
		ライチ苗	9 鉢	18,000

	その他	36 鉢	30,010	ゴレンシ苗等
観葉植物	アグラオネマ	21 鉢	13,100	
	ランキンキュラス	120 鉢	24,000	
	ブーゲンビリア	124 鉢	49,700	
	その他	485 鉢	201,676	アンスリウム等
野菜	トマト	79.7 kg	65,300	
特用作物	クミスクチン	2.7 kg	9,100	
	その他		6,550	
合 計			1,618,835	

4) 入来牧場

(1) 生産概況

<家畜飼養状況>

牛（黒毛和種および口之島野生化牛）ならびに馬（トカラウマ）を飼養している。

黒毛和種は、平成29年度も繁殖・肥育の一貫体制での飼養管理を行った。黒毛和種および口之島野生化牛の飼養管理に関しては、昨年度に引き続き牛白血病対策を最優先とし、BLV（+）およびBLV（-）の隔離飼養を大原則としている。入来牧場の飼養頭数は、平成29年4月の187頭から平成30年3月の202頭と、若干増減はあるものの、ほぼ横ばい状態となっている。

繁殖牛については、牛白血病対策との兼ね合いから、受精卵移植および人工授精の両面で繁殖を実施した。平成29年度の出生頭数は受精卵移植産子黒毛和種が1頭、人工受精産子が黒毛和種52頭と合計で53頭の産子を得ている。

平成29年度では、得られた53頭の子牛のうち黒毛和種で3頭が死産となった。これまで、牛白血病対策の一環として技術職員が24時間体制で分娩に付き添い、分娩直後に親子を隔離して人工初乳を給与していたものの、牛白血病陰性の繁殖雌牛群が確保されてきたことにより、これまでの付き添い分娩から順次自然分娩への移行を進めている。自然分娩への移行により3頭の分娩事故（死産）が発生しており、今後分娩事故を防止する対策を講じる必要がある。自然分娩で得られた産子は、数日間母牛と同居させ初乳を得た後、分娩2～3日後には自動哺乳装置での哺乳に切り替えている。離乳後、雌雄とも約9か月齢まで同様に育成し、この間の個体識別耳標の装着、除角、去勢などの管理作業を学生実習期間に合わせて実施している。

育成期間終了後の雌牛のうち、次代繁殖候補牛は順次群編成を行い、育成牛舎にて繁殖牛として自家保留している。繁殖牛管理では、牛白血病対策とともに次代優良血統への移行を進めており、今後産子の子牛市場への出荷も視野に入れながら進める予定である。一方、それ以外の雌牛および去勢雄牛は育成期間終了後、肥育へと移行させた。肥育牛の鼻環装着、体重測定などの管理作業に関しても学生実習期間に合わせて実施した。平成29年度の肥育出荷頭数は、経産肥育牛も含めて37頭となった。平成24年度からは、経産肥育牛の有効利用を目的とした入来牧場牛肉フェアを開始しており、今後、出荷牛の仕上がり具合に合わせた多様な出荷方法を模索していく予定である。

口之島野生化牛については、平成23年度に1頭、平成24年度に2頭、平成25年度に2頭の産子を得ているが、平成26年度以降産子を得られていない。平成29年度においても産子は0頭となっており、引き続き遺伝資源の保護を最優先とするため、繁殖障害および健康状態に留意して飼養していく予定である。

トカラウマについては場内の野草地を中心に周年放牧を行い、繁殖のコントロールは行っていない。

山羊の飼養管理は、家畜管理学研究室と共同で行っており、実験デザインに合わせて適宜学内飼育棟との入れ替えを行っている。

<草地生産状況>

平成29年度の入来牧場の採草地における生産状況を表36に示す。夏作にヒエ（グリーンミレット）、ローズグラス、スーダングラス、ギニアグラス、夏イタリアンライグラスを、冬作にイタリアンライグラスを栽培し、両作とも収穫後にラッピングサイレージとした。野生鳥獣対策については、各草地周りに、シカ害対策として防獣ネットおよびフェンスを設置、一部採草地ではイノシシ害対策として電気柵を設置し、それらの防除に取り組んでいる。栽培管理では、一部の草地において、雑草過繁茂による生育遅延が見られたため、栽培期間中、牛放牧による掃除刈りを行った。また、夏作草地の一部で強雑草であるギシギシの過繁茂が見られたため、今作付けを諦め、除草剤散布による草地更新を行った。

放牧地は、牛の放牧後の追肥および追播を主とする管理を行った。特に、秋季の強雑草であるチカラシバやギシギシが繁茂する時期においては、牛の放牧やトカラウマの強放牧による地際までの除草を行った。放牧地での栽培牧草は、イタリアンライグラスの播種を行った。採草地、放牧地とも、草地周りの防獣ネットや支柱などの補修を、主に冬季～春季にかけて随時行った。

第36表 平成29年度における生産状況

栽培牧草	面積 (ha)	播種量 (kg/10a)	播種期	追肥期	収穫期	サイロ収量 (120cm)	乾物収量 (t)
採草地(暖地型) ヒエ(ミレット)	16.2	3~4	2017.5-6	2017.5-7	2017.7-9	15	
スーダングラス						81	
ローズグラス						36	
ギニアグラス						23	
夏イタリアンライグラス						88	
採草地(寒地型) イタリアンライグラス	16.2	3~4	2016.10	2017.2	2017.5-7	268	
放牧地 イタリアンライグラス	10.8	4	2016.9-11	2017.4- 2018.3	—	—	—

(2) 収入実績

実習教育で生産された農産物は、学内で販売あるいは出荷した。販売実績は以下のとおりである。

第37表 平成29年度入来牧場における収入実績

種類	売り払い量	金額(円)	備考
家畜			
牛(枝肉)	29頭 (13,172.5kg) 1頭当たり454.2kg	29,446,620	
畜産加工物			
牛肉精肉	882.9kg	1,483,510	
その他			
牛内臓			
牛皮			
合計		30,930,130	

3 農場を利用した研究用生産物の収入実績

農場は、学部教員の重要な研究場所であり、多くの研究が行われている。その結果、研究に使用された生産物の内、販売可能な生産物が農場の収入となっている。平成29年度における農場を利用した研究において生産された収入実績は、該当なしであった。

VII 資 料

1 鹿児島大学農学部附属農場規則

平成16年 4月21日

農 規 則 第 8 号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 鹿児島大学農学部附属農場（以下「農場」という。）の組織及び運営については、別に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(目的)

第2条 農場は、フィールド農学に関する実習教育を担当するとともに、農学理論の総合化、実用化に関する試験研究及び地域貢献を行うものとする。

第2章 管理運営の業務

(施設)

第3条 農学部構内に農場本部を置くほか、次の位置に農場施設を置き、農場の業務を分掌する。

2 植物部門

- (1) 学内農場農事部 鹿児島市郡元一丁目21番24号（農学部構内）
- (2) 唐湊果樹園 鹿児島市唐湊三丁目32番1号
- (3) 指宿植物試験場 指宿市十町1291番地

3 動物部門

- (1) 入来牧場 薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018番地の3
- (2) 学内農場畜産部 鹿児島市郡元一丁目21番24号（農学部構内）

4 農場業務の区分は、おおむね次のとおりとする。

- (1) 本部 企画調整、情報管理、労務管理、一般事務
- (2) 学内農場農事部 主として普通作、野菜・花卉園芸に関する事項
- (3) 唐湊果樹園 主として果樹園芸に関する事項
- (4) 指宿植物試験場 主として熱帯有用植物の導入順化、温暖地作物栽培及び泉熱利用園芸に関する事項
- (5) 入来牧場 主として畜産、飼料作物及び食品加工に関する事項
- (6) 学内農場畜産部 主として家畜の飼養管理に関する事項

(組織)

第4条 管理運営の組織は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 農場長
- (2) 農場主事
- (3) 植物部門主任、動物部門主任
- (4) 技術総括、技術職員
- (5) 農場事務係長
- (6) その他の職員

(農場長など)

第5条 農場長の選考については、別に定めるところによる。

- 2 農場主事は、農場専任の教授、准教授又は講師のうちから鹿児島大学農学部教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、学部長が命ずる。
- 3 前条第1項第3号の各主任（以下「主任」という。）は、農場教員のうちから教授会の議を経て、学部長が命ずる。

(職務)

第6条 農場長は、農場の業務を掌握し、第2条の規定による使命遂行の任に当たるとともに、農場の管理運営の全般を統括する。

- 2 農場主事は、農場長を補佐し、農場の業務を処理し、農場長に事故のあるときは、その職務を代行する。
- 3 主任は、農場長及び農場主事の指示に従い、担当部門の予算計画、予算執行、技術職員の資質向上及び施設運営全般を統括する。

- 4 技術総括は、主任の指示に従い、所属技術職員を統括し、業務の処理運営に当たる。
- 5 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第3章 農場会議

(農場会議)

第7条 農場に、農場の管理運営並びに教育実習に関する事項を審議するため、農場会議を置く。

(委員)

第8条 農場会議は、次の委員をもって構成する。

- (1) 農場長
- (2) 農場主事
- (3) 植物部門主任、動物部門主任
- (4) 学部選定委員 7人
 - イ 農業生産科学科 5人(応用植物3名、畜産科学1名、食料農業経済1名)
 - ロ 食料生命科学科 1人
 - ハ 農林環境科学科 1人
- (5) 総務課長(人事案件については除く。)

(審議事項)

第9条 農場会議は、次の事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 実習教育の基本方針に関すること。
- (3) 教員の人事に関すること。
- (4) 兼任教員の選考に関すること。
- (5) 予算及び決算に関すること。
- (6) 概算要求に関すること。
- (7) 学生の実習教育に関すること。
- (8) その他管理運営及び実習教育に関する重要事項

(委員長)

第10条 農場会議は、農場長が招集し、その議長となる。

- 2 農場長に事故があるときは、第6条第2項の規定にかかわらず、委員の互選により議長を選出する。

(議事)

第11条 農場会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第12条 農場会議は、必要があると認めた場合は、委員以外の教職員の出席を求めることができる。

(委員の任期)

第13条 第8条第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(幹事)

第14条 農場会議に幹事を置き、総務課長代理及び農場事務係長をもって充てる。

- 2 幹事は、農場会議の事務を処理する。

第4章 運営委員会

(運営委員会)

第15条 農場の管理運営の円滑を期するために、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、次の者をもって構成し、農場長が召集する。

- (1) 農場長(委員長)
- (2) 農場主事
- (3) 植物部門主任、動物部門主任
- (4) 技術総括
- (5) 第17条による実習教育に携わる兼任教員の中から3名
- (6) 総務課長代理
- (7) 農場事務係長

- 3 運営委員会は、農場の管理運営に関する具体的な次の事項を協議し、議事要旨を農場会議に報告し、第9条に関する事項については承認を受けるものとする。
- (1) 農場の経営に関する事項
 - (2) 技術職員の人事に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 学生の実習指導に関する事項
 - (5) 試験研究に関する事項
 - (6) 農場生産物に関する事項
 - (7) その他農場長が必要と認めた事項
- 4 農場長に事故があるときは、農場主事が代行する。
- 5 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数の場合は、委員長が決するところによる。
- 6 第15条2(5)の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5章 雑則

(報告)

第16条 農場長は、農場の管理運営上特に重要な事項については、学部長に報告し、教授会の議を経なければならない。

(実習教育)

第17条 実習教育の内容等に関する事項は、別に定める。

(生産物)

第18条 農場生産物の取扱いについては、法令の定めるところによるほか、別に定める。

(施設等の利用)

第19条 学部講座が教育又は研究の必要上、農場施設の使用又は生産物を利用する場合は、あらかじめ農場長の承認を得なければならない。

附 則

この規則は、平成16年4月21日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成17年3月16日から施行し、平成16年10月12日から適用する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年7月16日から施行し、平成20年7月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月20日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

2 鹿児島大学農学部附属農場における実習教育に関する要項

平成19年2月21日

教授会制定

(趣旨)

第1 この要項は、鹿児島大学農学部附属農場規則第17条に基づき、学生等の実習教育について必要な事項を定める。

(実習教育組織)

第2 学生などに対し、先進的・先導的なフィールド農学を実習教育するために、農場に実習教育組織を置く。

第3 実習教育に関する各施設の主たる役割分担並びに実習担当者は、次に掲げるものとする。

- (1) 農場主事
- (2) 学内農場農事部（分野の専任及び兼任教員、技術職員）

普通作物、野菜および花卉の栽培管理

- (3) 唐湊果樹園（分野の専任及び兼任教員，技術職員）

果樹の栽培管理

- (4) 指宿植物試験場（分野の専任及び兼任教員，技術職員）

温暖地作物栽培及び泉熱利用園芸作物の栽培管理

- (5) 入来牧場（分野の専任及び兼任教員，技術職員）

家畜飼養，飼料作物の栽培，食品加工

- (6) 学内農場畜産部（分野の専任及び兼任教員）

家畜の飼養管理その他

（兼任教員の選出）

第4 兼任教員は，農場会議が必要に応じて学部の教員から選出し，学部長が委嘱する。

（教職員の役割）

第5 農場主事は，実習教育委員会の方針に基づき，農場実習全般を統括する。

- 2 植物部門及び動物部門専任教員は，農場実習を適正かつ円滑に進めるために，兼任教員及び技術職員と連携し，実習教育に関わる事項の連絡調整に当たる。

- 3 分野の専任教員及び兼任教員は，専門分野に応じた実習教育を主導する。

- 4 技術職員は，教員の指示に従い，実習教育に当たる。

（実習教育委員会）

第6 実習教育内容の高度化及び充実を期するために，実習教育委員会を置く。

- 2 実習教育委員会は，次の委員をもって構成する。

(1) 農場長（委員長）

(2) 農場主事

(3) 農場専任教員

(4) 兼任教員

(5) 農場事務係長（幹事）

- 3 実習教育委員会は，次の事項について協議し，それらについては農場会議の承認事項とする。

(1) 実習教育のあり方に関すること。

(2) 実習教育プログラムの策定に関すること。

(3) 農場実習改善経費の課題検討に関すること。

(4) 兼任教員配置に関すること。

(5) その他農場長が必要と認めた事項

- 4 農場主事は，農場専任教員，兼任教員及び技術職員を構成する植物部門及び動物部門小委員会を招集し，実習教育委員会の方針に基づいて，実習教育プログラムを策定する。

附 則

この要項は，平成19年4月1日から実施する。

附 則

この要項は，平成20年7月16日から実施し，平20年7月1日から適用する。

附 則

この要項は，平成23年4月20日から実施し，平成23年4月1日から適用する。

附 則

この要項は，平成24年4月1日から実施する。

3 気象表

第38表 唐湊果樹園 (2017年1月～12月)

月	半旬	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	平均気温 (℃)	降 水 量 (mm)
1	1	16.5	5.3	10.9	0.0
1	2	14.5	6.2	10.4	13.5
1	3	10.0	2.4	6.2	0.0
1	4	11.8	3.2	7.5	6.0
1	5	9.0	-0.9	4.1	1.0
1	6	15.5	2.8	9.2	13.5
1 月平均気温／降水量		12.9	3.2	8.0	34.0
2	1	14.4	3.1	8.8	17.5
2	2	11.0	2.1	6.6	19.0
2	3	11.8	0.7	6.3	2.0
2	4	17.1	5.3	11.2	14.5
2	5	15.0	3.8	9.4	30.5
2	6	14.7	3.1	8.9	0.0
2 月平均気温／降水量		14.0	3.0	8.5	83.5
3	1	14.1	5.0	9.6	32.0
3	2	13.4	3.5	8.5	2.0
3	3	16.1	5.9	11.0	22.0
3	4	16.0	7.3	11.7	17.0
3	5	14.2	6.7	10.5	27.0
3	6	16.2	7.6	11.9	39.5
3 月平均気温／降水量		15.0	6.0	10.5	139.5
4	1	19.2	6.8	13.0	0.0
4	2	19.7	16.2	18.0	231.5
4	3	22.6	10.4	16.5	1.0
4	4	20.5	14.8	17.7	143.5
4	5	23.0	12.1	17.6	0.5
4	6	22.3	12.1	17.2	19.5
4 月平均気温／降水量		21.2	12.1	16.6	396.0
5	1	24.2	15.8	20.0	4.5
5	2	24.1	14.5	19.3	50.5
5	3	26.1	15.0	20.6	93.0
5	4	25.8	13.5	19.7	0.0
5	5	27.1	17.4	22.3	10.0
5	6	26.9	14.9	20.9	0.0
5 月平均気温／降水量		25.7	15.2	20.4	158.0
6	1	28.8	16.5	22.7	0.0
6	2	26.0	16.9	21.5	62.5
6	3	26.2	16.8	21.5	68.0
6	4	27.5	18.2	22.9	142.0
6	5	25.1	20.8	23.0	155.5
6	6	27.8	22.4	25.1	48.5
6 月平均気温／降水量		26.9	18.6	22.8	476.5

月	半旬	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	平均気温 (℃)	降 水 量 (mm)
7	1	32.1	24.9	28.5	34.5
7	2	31.4	24.8	28.1	24.5
7	3	33.0	24.6	28.8	0.0
7	4	32.7	24.5	28.6	44.0
7	5	33.9	25.5	29.7	75.5
7	6	35.0	26.1	30.6	50.5
7 月平均気温／降水量		33.0	25.1	29.0	229.0
8	1	33.6	26.5	30.1	15.5
8	2	32.6	26.8	29.7	30.0
8	3	33.1	24.3	28.7	64.0
8	4	34.2	23.9	29.1	3.5
8	5	33.1	25.3	29.2	14.0
8	6	33.9	24.1	29.0	12.0
8 月平均気温／降水量		33.4	25.2	29.3	139.0
9	1	30.4	21.6	26.0	7.0
9	2	31.8	22.9	27.4	51.0
9	3	28.6	22.9	25.8	42.5
9	4	28.0	20.9	24.5	69.5
9	5	25.6	19.6	22.6	151.0
9	6	28.4	18.9	23.7	16.5
9 月平均気温／降水量		28.8	21.1	25.0	337.5
10	1	28.0	19.7	23.9	18.5
10	2	30.6	20.8	25.7	1.0
10	3	27.4	18.8	23.1	10.0
10	4	22.5	19.5	21.0	23.5
10	5	21.5	15.1	18.3	42.5
10	6	22.6	14.2	18.4	46.0
10月平均気温／降水量		25.4	18.0	21.7	141.5
11	1	21.6	12.0	16.8	6.5
11	2	22.1	12.9	17.5	17.5
11	3	19.5	10.4	15.0	28.0
11	4	14.8	6.2	10.5	37.0
11	5	14.2	5.8	10.0	9.0
11	6	17.8	11.1	14.5	12.5
11月平均気温／降水量		18.3	9.7	14.0	110.5
12	1	14.2	5.9	10.1	0.0
12	2	11.3	2.4	6.9	7.0
12	3	10.7	2.8	6.8	0.0
12	4	11.0	1.8	6.4	1.0
12	5	12.9	2.7	7.8	20.0
12	6	11.3	2.0	6.7	1.0
12月平均気温／降水量		11.9	2.9	7.4	29.0
年 平均気温／降水量		22.2	13.3	17.8	2274.0
年 極値		35.0	-0.9		231.5

指宿植物試験場の気象表について

指宿植物試験場では、平成22年から気象観測装置が経年劣化により故障したままとなっていた。更新には多額の費用がかかることや同試験場内には気象庁のアメダスが設置されていることから、今後はアメダスのデータを利用することとした。

鹿児島大学農学部
平成29年度農場年報
第13号

平成31年 3 月13日 発行日

編集兼発行 国立大学法人鹿児島大学農学部附属農場
〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号
電話 (099)285-8771 (代)

印 刷 斯文堂株式会社

鹿児島大学農学部附属農場

農場本部	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21-24
学内農場農事部	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21-24
学内農場畜産部	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21-24
唐湊果樹園	〒890-0081	鹿児島市唐湊三丁目32-1
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3